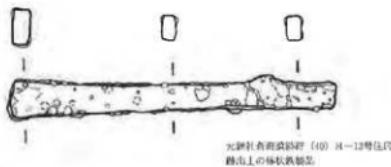


- 元総社蒼海遺跡群 (40)
元総社蒼海遺跡群 (46)
元総社蒼海遺跡群 (49)
元総社蒼海遺跡群 (50)

前橋都市計画事業元総社蒼海地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書



2013. 3

前橋市教育委員会



1 元総社蒼海遺跡群(40)調査区全景（北から）

図版2



2 元総社壹海遺跡群(40)調査区全景（南東から）



3 元総社壹海遺跡群(40)調査区全景（真上から）



4 元總社舊海遺跡群(40) J-3 全景 (東から)



5 元總社舊海遺跡群(40) J-3 全景 (北から)

図版4



6 元總社舊海遺跡群(40) J-2 全景 (北から)



7 元總社舊海遺跡群(40) H-29 全景 (南から)



8 元總社舊海遺跡群(40)H-13全景(西から)



9 元總社舊海遺跡群(40)鐵冶遺構全景(南から)

はじめに

関東平野の北西部に群馬県は位置し、前橋市はその中央、上毛三山のひとつ名峰赤城を背にし、利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。豊かな自然環境にも恵まれ、2万年前から人々が生活を始め、縄文時代の遺跡も、市内の隨所に存在します。

古代における前橋台地は、広大な穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ壬王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、律令時代になってからは總社・元總社地区に壬王磨寺、国分僧寺、國分尼寺、国府など上野国の中核をなす施設が次々に造されました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が領をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられ、「関東の華」とも呼ばれた厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であったことから、横浜に至る街道は「日本のシルクロード」とも呼ばれ、横浜港からは前橋シルクの名で海外に輸出され、近代日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元總社蒼海遺跡群(40)・(46)・(49)・(50)は、上野国府推定区域や上野国分僧寺・國分尼寺などの施設を擁する古代上野国の中核地域であり、多くの注目が集まっています。今回の調査では、国府そのものに関連する遺構の検出・確認はかないませんでしたが、縄文時代の竪穴住居跡をはじめ、古墳時代から平安時代にいたる多くの竪穴住居跡を調査しました。今回の調査成果をはじめとしてこれまでの調査成果の蓄積は、国府や国府のまちの姿を再現するための資料と考えております。残念ながら、現状のままでの保存が困難なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、関係機関や各方面の多大なるご配慮・ご尽力により調査事業を円滑に進められことができました。また、記録的な猛暑そして寒風の中、発掘調査担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成25年3月

前橋市教育委員会
教育長 佐藤博之

例 言

- 1 本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群(40)・(46)・(49)・(50)の発掘調査報告書である。

2 調査主体は、前橋市教育委員会管理部文化財保護課である。

3 発掘調査の要項は次のとおりである。

販賣場所 群馬県前橋市元總社町1509番地 ほか

発掘調査期間 平成24年5月9日～平成24年12月27日

整理・報告書作成期間 半成24年12月22日～平成25年3月19日

発刊・整理担当者 藤坂和延・細野泰宏

4 本書の原稿執筆・編集は森坂・細野が行った。

5. 奉掲報告：整理作業にかかわった方々は次のとおりである。

阿部シゲ子・木本伸二・神山昌哉・佐藤繁謙・間根その子・高野 繁・角田節子・武井洋子・渡本秋子・

由理光江・仲野正人・山林美智子・平林しのぶ・高庭武志・矢島一也

6 確認調査で出土した遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

月 例

- 1 植岡中に使用した北は、座標北である。
 - 2 掘図に国土交通省国土地理院発行の1:200,000地形図(宇都宮、長野)、1:25,000地形図(前橋)、1:2,500前橋市現形図を使用した。
 - 3 遺跡の略称は、24A130-40・24A130-46・24A130-49・24A130-50である。
 - 4 遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。
J…縄文時代の堅穴住居 TD…縄文時代の土坑 U…縄文時代の埋甕 H…古墳・奈良・平安時代の堅穴住居 TD…堅穴状遺構 W…溝跡 A…道路状遺構 D…土坑 P…ピット・貯蔵穴(住居内P₁を貯蔵穴とした。) X…性格不明遺構 O…風倒木跡
 - 5 遺構・遺物の実測図の縮尺は、原則的に次のとおりである。その他、各図スケールを参照されたい。
遺構 全体図…1/200・住居跡・堅穴状遺構・溝跡・土坑・ピット…1/60 窓・炉平・断面図…1/30
遺物 土器・鉄製品…1/3、1/4 石器・石製品・土製品…1/1、1/3
鉄器・鉄製品…1/2 瓦…1/6
 - 6 計測値については、()は現存値、[]は復元値を表す。

セクション注記と遺物観察表の色調については、新版標準

8 造構平面図の———は推定線を表す。

9 スクリーントーンの使用は、次のとおりで

遺構半面図 織土・ 粘土・

造橫斷面圖 橫斷面...

植物家測圖 等高線斷面

封神圖鑑断血… 内墨… 粘土…

13.1.1 煤成… 13.1.2 岩化物付着… 13.1.3 石炭…

ト物等の略称と年代は次のとおりである

（原刊于《書評月刊》，1982年）

- 10 主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。

As-B (浅間B軽石:供給火山・浅間山、1108年)

Hr FP (榛名二ヶ岳伊番保テフラ：供給火山・榛名山、6世紀中葉)

Hr-FA (榛名山・ツ岳淡川テフラ：供給火山・榛名山、6世紀初頭)

As-C (浅間C軽石; 供給火山・浅間山、4世紀前半)

目 次

図 絵 写 真

はじめに

例 言・凡 例

目 次・図 版 目 次・押 囲 目 次・表 目 次

I	調査に至る経緯	1
II	遺跡の位置と環境	1
1	遺跡の立地	1
2	歴史的環境	1
III	調査方針と経過	7
1	調査方針	7
2	調査経過及び概要	7
IV	元總社蒼海遺跡群 (40)	
1	調査区の概要	13
2	基本層序	13
3	縄文時代の遺構と遺物	13
(1)	豎穴住居跡	13
(2)	土坑	14
(3)	埋甕	14
4	古墳時代～平安時代の遺構と遺物	15
(1)	豎穴住居跡	15
(2)	溝跡	21
(3)	土坑・掘立柱建物・道路状遺構・豎穴状遺構・井戸跡	21
V	元總社蒼海遺跡群 (46)	
1	調査区の概要	69
2	基本層序	69
3	遺構と遺物	69
(1)	豎穴住居跡	69
(2)	井戸跡	69
VI	元總社蒼海遺跡群 (49)	
1	調査区の概要	77
2	基本層序	77
3	遺構と遺物	77
(1)	豎穴住居跡	77
(2)	溝跡	78
(3)	土坑・井戸跡	78
VII	元總社蒼海遺跡群 (50)	
1	調査区の概要	89
2	基本土層	89
3	縄文時代の遺構と遺物	89
(1)	豎穴住居跡	89
4	古墳時代～奈良・平安時代の遺構と遺物	90
(1)	豎穴住居跡	90
(2)	土坑・ピット・豎穴状遺構	92
VIII	ま と め	106
	銀治遺構について	106

写真図版

抄 錄

奥 付

図 版

- | | | | |
|-------|---|-------|-------------------------------------|
| 図版1 | 元總社蒼海遺跡群 (40) 調査区全景 (北から) | PL.21 | 元總社蒼海遺跡群 (49) D-2、II-2・3 |
| 2 | 元總社蒼海遺跡群 (40) 調査区全景 (南東から) | PL.22 | 元總社蒼海遺跡群 (49) I-1、I-2、H-5 |
| 3 | 元總社蒼海遺跡群 (40) 調査区全景 (真上から) | PL.23 | 元總社蒼海遺跡群 (49) H-4、H-6 |
| 4 | 元總社蒼海遺跡群 (40) J-3全景 (東から) | | 元總社蒼海遺跡群 (50) 調査区全景、J-1 |
| 5 | 元總社蒼海遺跡群 (40) J-3全景 (北から) | PL.24 | 元總社蒼海遺跡群 (50) II-5・6、H-12、D-1・2、D-3 |
| 6 | 元總社蒼海遺跡群 (40) J-2全景 (北から) | PL.25 | 元總社蒼海遺跡群 (50) H-7、H-9 |
| 7 | 元總社蒼海遺跡群 (40) H-29全景 (南から) | PL.26 | 元總社蒼海遺跡群 (50) H-9、H-10、II-11、D-5 |
| 8 | 元總社蒼海遺跡群 (40) H-13全景 (西から) | PL.27 | 元總社蒼海遺跡群 (50) H-13、H-17 |
| 9 | 元總社蒼海遺跡群 (40) 錫治遺構全景 (南から) | PL.28 | 元總社蒼海遺跡群 (50) H-14・15、T-1 |
| PL.1 | 元總社蒼海遺跡群 (40) 調査区全景 | PL.29 | 元總社蒼海遺跡群 (40) 繩文時代出土遺物・土器 (1) |
| PL.2 | 元總社蒼海遺跡群 (40) 調査区全景 | PL.30 | 元總社蒼海遺跡群 (40) 繩文時代出土遺物・土器 (2) |
| PL.3 | 元總社蒼海遺跡群 (40) 調査区全景 | PL.31 | 元總社蒼海遺跡群 (40) 繩文時代出土遺物・土器 (3) |
| | 元總社蒼海遺跡群 (40) 調査区全景 | PL.32 | 元總社蒼海遺跡群 (40) 繩文時代出土遺物・石器 (1) |
| PL.4 | 元總社蒼海遺跡群 (40) J-1 | PL.33 | 元總社蒼海遺跡群 (40) 繩文時代出土遺物・石器 (2) |
| PL.5 | 元總社蒼海遺跡群 (40) J-2、J-3 | PL.34 | 元總社蒼海遺跡群 (40) 出土遺物 (1) |
| PL.6 | 元總社蒼海遺跡群 (40) J-3、J-3a、J-3b、JD-1、JD-2 | PL.35 | 元總社蒼海遺跡群 (40) 出土遺物 (2) |
| PL.7 | 元總社蒼海遺跡群 (40) U-1・2、右匙出土状態、H-1、調査区南西部 | PL.36 | 元總社蒼海遺跡群 (40) 出土遺物 (3) |
| PL.8 | 元總社蒼海遺跡群 (40) H-1、H-4 | PL.37 | 元總社蒼海遺跡群 (40) 出土遺物 (4) |
| PL.9 | 元總社蒼海遺跡群 (40) H-4、H-6 | PL.38 | 元總社蒼海遺跡群 (40) 出土遺物 (5) |
| PL.10 | 元總社蒼海遺跡群 (40) H-7 | | 元總社蒼海遺跡群 (46) 出土遺物 |
| PL.11 | 元總社蒼海遺跡群 (40) II-8、II-9 | | 元總社蒼海遺跡群 (49) 出土遺物 |
| PL.12 | 元總社蒼海遺跡群 (40) H-10、H-11 | PL.39 | 元總社蒼海遺跡群 (50) 出土遺物 |
| PL.13 | 元總社蒼海遺跡群 (40) H-13 | PL.40 | 元總社蒼海遺跡群 (40) 出土石製品 |
| PL.14 | 元總社蒼海遺跡群 (40) 錫治遺構 | | 元總社蒼海遺跡群 (40) 出土鉢製品 |
| PL.15 | 元總社蒼海遺跡群 (40) II-14、II-16、H-17、H-18、II-19 | PL.41 | 元總社蒼海遺跡群 (50) 出土銅製品 |
| PL.16 | 元總社蒼海遺跡群 (40) H-20、H-22・23、H-24、H-25・36 | | 元總社蒼海遺跡群 (40) 出土瓦 (1) |
| PL.17 | 元總社蒼海遺跡群 (40) II-12・26、H-27 | PL.42 | 元總社蒼海遺跡群 (40) 出土瓦 (2) |
| PL.18 | 元總社蒼海遺跡群 (40) H-29、H-31、H-33、II-34、II-37 | PL.43 | 元總社蒼海遺跡群 (46) 出土瓦 (1) |
| PL.19 | 元總社蒼海遺跡群 (40) H-38、D-1、D-2、B-1 | PL.44 | 元總社蒼海遺跡群 (46) 出土瓦 (2) |
| | 元總社蒼海遺跡群 (46) II-1、I-1 | | |
| PL.20 | 元總社蒼海遺跡群 (49) 調査区全景、H-1 | | |

挿 図

Fig. 1 元總社蒼海遺跡群位置図	2	Fig.27 元總社蒼海遺跡群 (40) II-29号住居跡	45
Fig. 2 周辺遺跡図	4	Fig.28 元總社蒼海遺跡群 (40) H-31・32・33号 住居跡	46
Fig. 3 元總社蒼海遺跡群 (40) (46) (49) (50) 調査区位置図とグリッド設定図	8・9	Fig.29 元總社蒼海遺跡群 (40) H-34・35・38号 住居跡	47
Fig. 4 元總社蒼海遺跡群 (40) 基本層序	13	Fig.30 元總社蒼海遺跡群 (40) H-37号住居跡、 D-1・2号土坑	48
Fig. 5 元總社蒼海遺跡群 (40) 調査区全体図	23	Fig.31 元總社蒼海遺跡群 (40) B-1号柱立柱 建物跡	49
Fig. 6 元總社蒼海遺跡群 (40) J-1号住居跡	24	Fig.32 元總社蒼海遺跡群 (40) I-1号井戸跡	50
Fig. 7 元總社蒼海遺跡群 (40) J-2号住居跡	25	Fig.33 元總社蒼海遺跡群 (40) 繩文時代出土遺物・ 土器 (1)	51
Fig. 8 元總社蒼海遺跡群 (40) J-3号住居跡 (1)	26	Fig.34 元總社蒼海遺跡群 (40) 繩文時代出土遺物・ 土器 (2)	52
Fig. 9 元總社蒼海遺跡群 (40) J-3号住居跡 (2)	27	Fig.35 元總社蒼海遺跡群 (40) 繩文時代出土遺物・ 土器 (3)	53
Fig.10 元總社蒼海遺跡群 (40) JD-1号土坑、 1・2号埋甕、H-1・2号住居跡	28	Fig.36 元總社蒼海遺跡群 (40) 繩文時代出土遺物・ 土器 (4)	54
Fig.11 元總社蒼海遺跡群 (40) H-3号住居跡	29	Fig.37 元總社蒼海遺跡群 (40) 繩文時代出土遺物・ 土器 (5)	55
Fig.12 元總社蒼海遺跡群 (40) II-4・5号住居跡、 W-2・3号住居跡	30	Fig.38 元總社蒼海遺跡群 (40) 繩文時代出土遺物・ 土器 (6)	56
Fig.13 元總社蒼海遺跡群 (40) H-4・6号住居跡	31	Fig.39 元總社蒼海遺跡群 (40) 繩文時代出土遺物・ 石器 (1)	57
Fig.14 元總社蒼海遺跡群 (40) H-6・7号住居跡	32	Fig.40 元總社蒼海遺跡群 (40) 繩文時代出土遺物・ 石器 (2)	58
Fig.15 元總社蒼海遺跡群 (40) II-7・8号住居跡	33	Fig.41 元總社蒼海遺跡群 (40) 出土遺物 (1)	59
Fig.16 元總社蒼海遺跡群 (40) H-9・10号住居跡	34	Fig.42 元總社蒼海遺跡群 (40) 出土遺物 (2)	60
Fig.17 元總社蒼海遺跡群 (40) H-11・14号住居跡	35	Fig.43 元總社蒼海遺跡群 (40) 出土遺物 (3)	61
Fig.18 元總社蒼海遺跡群 (40) H-12・26号 住居跡 (1)	36	Fig.44 元總社蒼海遺跡群 (40) 出土遺物 (4)	62
Fig.19 元總社蒼海遺跡群 (40) H-12・26号 住居跡 (2)	37	Fig.45 元總社蒼海遺跡群 (40) 出土遺物 (5)	63
Fig.20 元總社蒼海遺跡群 (40) H-13号住居跡	38	Fig.46 元總社蒼海遺跡群 (40) 出土遺物 (6)	64
Fig.21 元總社蒼海遺跡群 (40) II-13号住居跡、 鍛冶遺構	39	Fig.47 元總社蒼海遺跡群 (40) 出土瓦	65
Fig.22 元總社蒼海遺跡群 (40) H-15・16・28号 住居跡	40	Fig.48 元總社蒼海遺跡群 (40) 出土鉄製品	66
Fig.23 元總社蒼海遺跡群 (40) II-17・18・19号 住居跡	41	Fig.49 元總社蒼海遺跡群 (40) 出土石製品	66
Fig.24 元總社蒼海遺跡群 (40) H-20・21・22・23号 住居跡	42	Fig.50 元總社蒼海遺跡群 (46) 基本層序	69
Fig.25 元總社蒼海遺跡群 (40) H-24号住居跡	43	Fig.51 元總社蒼海遺跡群 (46) 調査区全体図	70
Fig.26 元總社蒼海遺跡群 (40) H-25・27・36号 住居跡	44	Fig.52 元總社蒼海遺跡群 (46) 出土遺物	70

Fig.57	元總社蒼海遺跡群(49) 調査区全体図	80	Fig.68	元總社蒼海遺跡群(50) H-7・9～11号 住居跡	98
Fig.58	元總社蒼海遺跡群(49) H-1号住居跡	81	Fig.69	元總社蒼海遺跡群(50) H-8～11号 住居跡	99
Fig.59	元總社蒼海遺跡群(49) H-2～4号住居跡、 T-1号窓穴状遺構	82	Fig.70	元總社蒼海遺跡群(50) H-11～13～15号 住居跡	100
Fig.60	元總社蒼海遺跡群(49) H-2～4号 住居跡竈	83	Fig.71	元總社蒼海遺跡群(50) H-16～18号 住居跡、T-1号窓穴状遺構	101
Fig.61	元總社蒼海遺跡群(49) H-5・6号 住居跡	84	Fig.72	元總社蒼海遺跡群(50) D-1～3・5号 土坑	102
Fig.62	元總社蒼海遺跡群(49) 山上遺物	85	Fig.73	元總社蒼海遺跡群(50) 出土遺物(1)	103
Fig.63	元總社蒼海遺跡群(50) 基本層序	89	Fig.74	元總社蒼海遺跡群(50) 出土遺物(2)	104
Fig.64	元總社蒼海遺跡群(50) 調査区全体図	94	Fig.75	元總社蒼海遺跡群(50) 出土瓦	105
Fig.65	元總社蒼海遺跡群(50) J-1号住居跡、 H-1・12号住居跡	95	Fig.76	群馬県内鍛冶遺構集成(1)	110
Fig.66	元總社蒼海遺跡群(50) H-2～4号 住居跡	96	Fig.77	群馬県内鍛冶遺構集成(2)	111
Fig.67	元總社蒼海遺跡群(50) H-5・6号 住居跡	97	Fig.78	群馬県内鍛冶遺構集成(3)	112
			Fig.79	群馬県内鍛冶遺構集成(4)	113

表

Tab. 1	元總社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表	5・6	Tab. 3	群馬県内鍛冶遺構集成	108・109
Tab. 2	鍛冶遺構分類基準	107			

I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元總社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、13年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年に渡って行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成23年4月22日付けで、前橋市長 高木政夫（区画整理第二課）より前橋都市計画事業元總社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、5月10日に現地での発掘調査を開始するに至った。

なお、遺跡名は区画整理事業名を採用し、過年度に発掘調査を実施した遺跡と区別するための数字を付し、それぞれ「元總社蒼海遺跡群（40）」（遺跡コード：24A130-40）・「元總社蒼海遺跡群（46）」（遺跡コード：24A130-46）・「元總社蒼海遺跡群（49）」（遺跡コード：24A130-49）・「元總社蒼海遺跡群（50）」（遺跡コード：24A130-50）とした。

II 遺跡の位置と環境

1 遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地の利根川左岸、東部の広瀬川低地帯という4つの地域に分けられる。

本遺跡の立地する前橋台地は、約24,000年前の浅間山噴火によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層（水成）から成り立っている。台地の東部は、広瀬川低地帯と直線的な崖で囲まれていて、台地の中央には現利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以降のもので、旧利根川は現在の広瀬川流域と推定される。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。總社・元總社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比高3m～5mを測り、段丘面上は桑畠を主とした畠地として利用してきた。

本遺跡は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約3kmの地点、前橋市元總社町地内に所在している。南東へ約1kmの所に上野国總社神社があり、すぐ西には関越自動車道が南北に走っている。さらに、遺跡地の南側には国道17号線、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に走り、東側には市道大友・石倉線が南北に走り、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや大規模小売店が進出している。本遺跡はこれらの幹線道路から奥に入ったところに位置し、周囲には出畠が多い住宅地という静かで落ち着いた環境である。

2 歴史的環境

本遺跡地周辺には、古墳時代後期から終末までの上野地域と中央政権との関連をうかがわせる總社古墳群と山王廟寺、古代の中心地であった「上野國府」さらに、中世には長尾氏により同府の堀削を利用して築かれたとされる蒼海城があり、歴史的環境に優れている。周辺の埋蔵文化財発掘調査によって、これまで連続と続いてきた歴史を物語る多くの新しい知見が集積されている。

繩文時代の遺跡としては、前期・中期の集落跡が検出された産業道路東・西遺跡や上野國分僧寺・尼寺中間地城が筆頭に挙げられ、縄文文化を考える上で重要な資料といえる。

弥生時代の調査例は少ない。当時の作業の様子を示す水田・集落跡等が検出された日高遺跡、後期住居跡が検

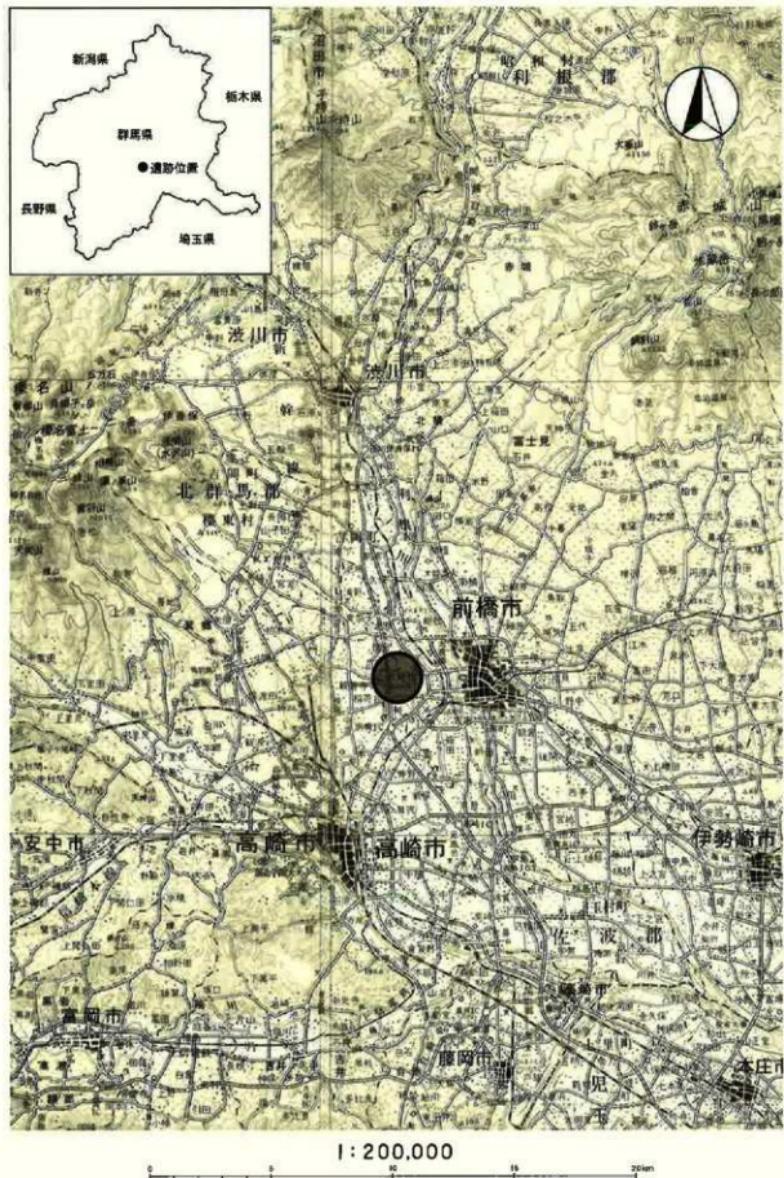


Fig. 1 元總社蒼海遺跡群位置図

出された上野国分僧寺・尼寺中間地域や桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡等に散見するだけである。

古墳時代の遺跡としては、まず本遺跡の北東に広がる總社古墳群が挙げられる。總社古墳群を代表するものは、前方後円墳である遠見山古墳、川原石を用いた積石塚である工山古墳、前方部と後円部にそれぞれ横穴式向袖型の石室が築造された前方後円墳の總社二子山古墳、両袖型横穴式石室をもつ方墳の愛宕山古墳、県内古墳最終末期と考えられ佛教文化の影響を強く受けた方墳の宝塔山古墳があり、この地域と中央との関係を考えるうえで重要な意味をもつ古墳群といえる。また、宝塔山古墳の南西500mには白鳳期の建立と考えられる山王庵寺跡(放光寺)がある。さらにこの寺の塔心礎や石製鷲尾、根巻石等の石造物群は、宝塔山古墳の石柱や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されている。これらのことから、この寺は上野地域を治めていた「上毛野氏」の氏寺であり、この古墳群には「上毛野氏」一族が葬られているとも考えられている。これらから、この地が「車評」の中心地として、佛教文化が古墳文化と併存しながら機能していた様子が窺える。なお、平成18年度から5カ年計画で「山王庵寺範囲内容確認調査」が実施され、平成18年度では「講堂」の版築基壇や「回廊」の北東根石、平成19年度では「金堂」の版築基壇や「回廊」の西側根石が、平成20年度では「塔」の基壇とその周辺部が確認された。さらに平成21年度では「推定中門」と「西側南側回廊」の周辺部が、平成22年度は北西隅の回廊と接するように「基壇建物跡」と「北方建物跡」が確認された。

奈良・平安時代になると、「野国府、国分僧寺、国分尼寺の建設と相まって、本地域は古代の政治的・経済的・文化的な中心地としての様相を呈していく。律令期における国司の政治活動拠点で地方を統治する機能をもつ国府は、元總社地区に置かれたとされる。

国府に隣接する遺跡には、県下最大級の掘立柱建物跡が検出された元總社小学校校庭遺跡や「國樹」「曹司」「國」「邑屏」等と書かれた墨書き土器や人形が出土した元總社寺田遺跡などがある。また、国府城の推定を可能にした大規模な東西方向の溝跡が検出された閑泉橋遺跡や元總社蒼海遺跡群(7)(9)(10)と南北方向の溝跡が検出された元總社羽神遺跡の調査成果により、国府城の東北外郭線が想定されるに至った。さらに、周辺遺跡からは、官人が用いたと考えられる円面鏡、巡方(腰帶鏡)、縁?陶器も出土し、国府について考えるうえで貴重な資料となっている。

国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代から部分的なながら調査が進められるようになった。本格的な発掘調査は昭和55年12月から始まり、主要伽藍の礎石、築垣、場等が確認されている。さらに、国分尼寺の調査では、昭和44・45年に推定中軸線上のトレント調査が行われ伽藍配置が推定できるようになった。平成12年に前橋市埋蔵文化財発掘調査で南辺の寺域確認調査を行い、東南隅と南西隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。国分僧寺、国分尼寺周辺では、閑越自動車道建設に伴う発掘調査が行われ、上野国分僧寺・尼寺中間地域では、当時の大規模な集落跡や掘立柱建物群が検出されている。

また、群馬町(現高崎市)の調査等により、本遺跡から約1.5km南の地点にN-64-E方向の東山道(国府ルート)があることが推定されている。推定日高道は、日高遺跡で検出された幅約4.5mの道路状遺構を国府方面へ延長したものである。これらは、当時の交通網を物語る重要な遺構である。

中世に至り、永享元年(1429)、上野守護代の長尾氏によって古代国府跡に築かれた蒼海城は城郭としての機能を有し県内でも最古級に位置づけられる。しかも、県下最初の城下町を形成したと考えられている。蒼海城の綱張りは国府と関係が深く、現在の本地域の主要道路はこの綱張りに沿って造られていると推測される。

このように歴史的に重要な役割を果たしてきた總社・元總社地区であるが、その中でも上野国府が所在したと推定される元總社地区は注目される地域の一つである。元總社蒼海地区画整理事業に伴い、平成11年より継続的に本地域の発掘調査が行われている。これにより、手付かず状態であった本地域の全容が明らかになっていくであろう。今後、この調査の進捗によって、上野国府や蒼海城が解明されていくことを期待する。

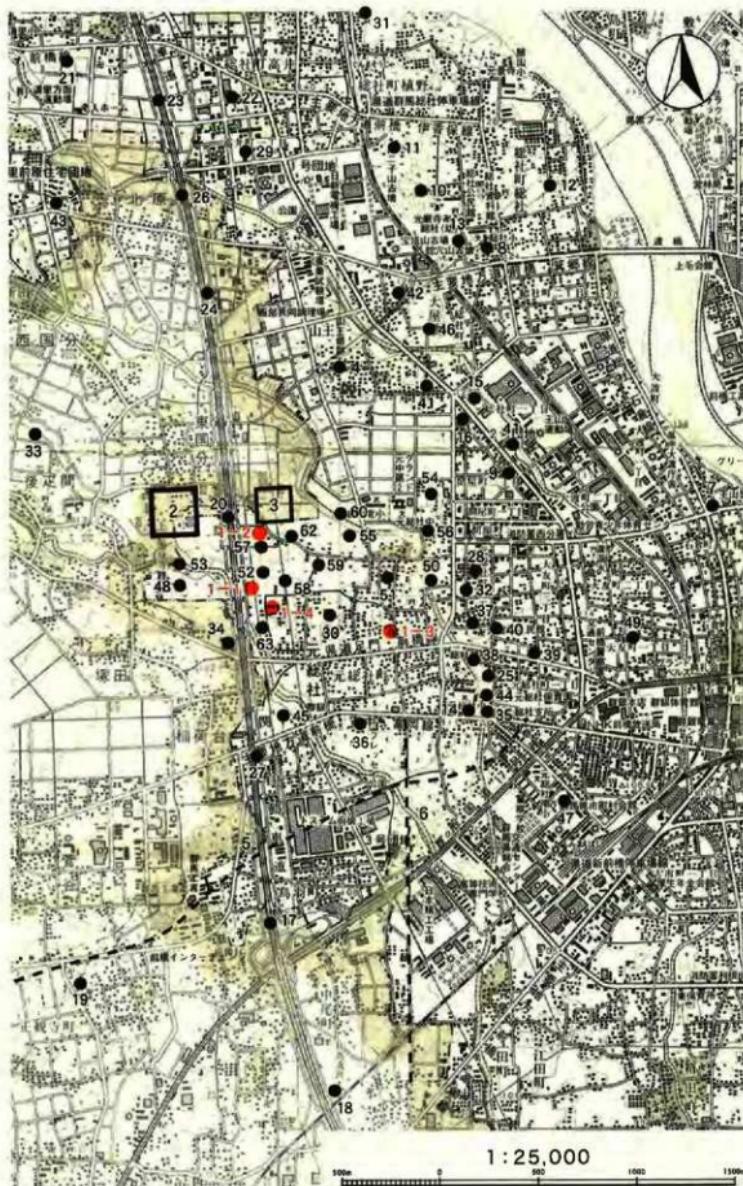


Fig. 2 球凹道跡圖

Tab. 1 元経社貢賈道跡群辺跡概要一覧表

番号	道路名	調査年度	時代・主な遺物・出土遺物
1-1	元経社貢賈道跡群 (40)	2012	本道跡
1-2	元経社貢賈道跡群 (46)	2012	本道跡
1-3	元経社貢賈道跡群 (49)	2012	本道跡
1-4	元経社貢賈道跡群 (50)	2012	本道跡
2	上野四分寺跡 (崇教寺)	1980~88	奈良：金堂基壇・塔基壇
3	上野四分寺跡	(1999)	奈良：西南隅・東南隅基壇
4	山王廟跡	(1974)	古墳：塔心壇・假舟石
5	東山道 (推定)		
6	日高道 (推定)		
7	王川古墳	1972	古墳：前方後円墳 (6 C 中)
8	蛇穴山古墳	1975	古墳：方墳 (8 C 初)
9	鷲前山古墳	1988	古墳：円墳 (6 C 後半)
10	愛宕山古墳	1996	古墳：円墳 (7 C 初)
11	鶴社二子山古墳	未調査	古墳：前方後円墳 (6 C 末~7 C 初)
12	達見山古墳	未調査	古墳：前方後円墳 (5 C 後半)
13	宝塔山古墳	未調査	古墳：方墳 (7 C 末)
14	元尾社小学校校庭付近	1962	平安：獨立柱础物跡・柱穴群・廐蓋跡
15	産業道路東遺跡	1966	鰐文：住居跡
16	産業道路西遺跡		鰐文：住居跡
17	中尾遺跡 (事業団)	1976	奈良・平安：住居跡
18	日高遺跡 (争采山)	1977	発生：水田跡・方形周溝墓・住居跡・木製構造員・平安：柴里制水田跡
19	正既丁遺跡 I~IV (高崎市)	1979~81	発生：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：洞跡
20	上野四分寺跡・尼寺中間地坂 (事業団)	1980~83	鰐文：作居跡・築心造跡・発生；住居跡・方形周溝墓・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・獨立柱础物跡・中世：獨立柱础物跡・廐蓋・洞狀遺構・道路状遺構
21	清里南澤遺跡・東	1980	鰐文：戸トコ・奈良・平安：住居跡・洞跡
22	小島西跡	1980	奈良・平安：住居跡
23	下東沢遺跡 (事業団)	1980~84	鰐文：岸外埋設・跡牛：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・獨立柱础物跡・廐蓋・中世：住居跡・洞跡
24	四分坂遺跡 (事業団)	1990	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
	四分坂 II 遺跡	1991	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
	四分坂 III 遺跡 (群馬町)	1991	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・高跡・中世：土塁壁
25	元経社明神沂跡 I~X Ⅱ	1982~96	古墳：住居跡・水田跡・洞跡・奈良・平安：住居跡・洞跡・大形人形・中世：住居跡・天日茶碗
26	北原遺跡 (群馬町)	1982	鰐文：土坑・曳石遺構・古墳：水田跡・奈良・平安：住居跡・獨立柱础物跡
27	鳥羽遺跡 (事業団)	1978~83	古墳：住居跡・築心造跡・奈良・平安：住居跡・獨立柱础物跡 (神殿跡)
28	間泉村遺跡	1983	奈良・平安：洞跡 (上標6.5~7 m、下標3.24 m、深さ 2 m)
29	鷲木遺跡・日遺跡	1983, 88	奈良・平安：住居跡・洞跡
30	总作遺跡	1984	古墳：住居跡・平安：住居跡・中世：井戸跡
31	辰ヶ丘遺跡		発生：住居跡
	鷲丸辰ヶ丘道路・日遺跡	1985, 87	奈良・平安：住居跡
32	四条横南遺跡	1985	古墳：住居跡・奈良・平安：洞跡
33	後A'門遺跡 I~Ⅱ (群馬町)	1985~87	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：道路状遺構
34	源山村東遺跡 (群馬町)	1985	平安：住居跡
35	寺田遺跡	1986	平安：洞跡・木製品
36	天神遺跡・日遺跡	1986, 88	奈良・平安：住居跡
37	豊敷遺跡・日遺跡	1986, 95	古墳：住居跡・平安：住居跡・中世：輪跡・石激消模
38	大友尾敷 II・III 遺跡	1987	古墳：住居跡・平安：住居跡・洞跡・地下式土坑
39	脛筑遺跡	1987	奈良・平安：住居跡・洞跡

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
40	坂越II遺跡	1988	平安：住居跡
41	高柴寺跡向造跡・II遺跡	1988	奈良・平安：住居跡
42	村東遺跡	1988	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・中世：焼跡
43	熊野谷遺跡	1988	闕文：住居跡・平安：住居跡・溝跡
43	熊野谷II・III遺跡	1989	平安：住居跡
44	元總社守山遺跡I～III(事業団)	1988～91	古墳：水田跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・人形・車軸・墨書き器・中世：溝跡
45	伊勢遺跡・II遺跡	1989, 95	古墳：住居跡・平安：住居跡
46	大原町遺跡I～VI	1992～2000	闕文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：掘立柱建物跡・地下式土坑・溝跡
47	元總社新堂遺跡	1993	闕文：土坑・平安：住居跡・瓦塔
48	上野園分寺跡遺跡	1996	古墳：住居跡・平安：住居跡
49	大友宅地遺跡群	1998	平安：水田跡
50	鶴林院奈明神北遺跡	1999	古墳：高塚・水田跡・溝跡、中世：溝跡
	鶴林院奈明神北II遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡・平安：住居跡・溝跡
	鶴林院奈明神北V遺跡	2004	古墳：水田跡・奈良・平安：住居跡
	元總社蓄物遺跡群(7)	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡
	元總社蓄物遺跡群(9)・(10)	2006	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡
	元總社牛山地遺跡I～23トレンチ	2000	古墳：住居跡・平安：住居跡・掘立柱建物跡・鐵冶場跡・溝跡・道路状遺構・中世：溝跡・近世：住居跡・五輪塔・塙跡
	元總社小見跡群	2000	闕文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・道路状遺構
51	元總社西川遺跡(事業団)	2000	古墳：住居跡・高塚・奈良・平安：住居跡・溝跡
52	鶴林院奈明神北遺跡	2001	奈良・平安：住居跡・溝跡・中世：高塚・近世：溝跡
54	鶴林院奈明神北遺跡	2001	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・溝跡・近世：溝跡
55	元總社小見II遺跡	2001	古墳：住居跡・洞跡・京良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡
	元總社小見II遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡・中世：井戸跡
	元總社吉首遺跡群(12)	2006	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：井戸跡
56	鶴林院奈明神北遺跡	2002	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・高塚・溝跡
	鶴林院奈明神北II遺跡	2002	闕文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
	鶴林院奈明神北III遺跡	2003	古墳：高塚・中世：高塚
57	元總社小見II遺跡	2002	闕文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・中世：溝跡・道路状遺構
	元總社小見IV・V遺跡	2003	闕文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：掘立柱建物跡
58	元總社小見VI・VII遺跡	2004	闕文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
	元總社蓋遺跡群(4)	2005	闕文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
59	元總社小見III遺跡	2002	闕文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・溝跡・中世：溝跡・道路状遺構
	元總社小見V遺跡	2002	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：溝跡
60	元總社小見VI遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・中世：土塁基・掘立柱建物跡・溝跡
	元總社小見VII・VIII遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡・中世：竪穴式遺構
61	元總社小見IX・X遺跡	2004	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・土塁跡・粘土抹過跡・金片・金片・中世：溝跡・十堵墓
	元總社資物遺跡群(2)(6)	2005	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・古墳・井戸跡・中世：溝跡
62	元總社資物遺跡群(11)	2006	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：溝跡
	元總社北川遺跡(事業団)	2003～04	古墳：水田跡・奈良・平安：住居跡・高塚・中・近世：掘立柱建物跡・水田跡・火葬場
63	鶴林院東遺跡(事業団)	2003	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・溝跡・高塚・鐵冶場・井戸跡
64	元總社資物遺跡群(1)(5)	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡・中世：溝跡・土坑墓
	元總社蓄物遺跡群(8)	2006	奈良・平安：住居跡・縦軸陶器

* 調査年度の欄の（ ）は調査開始年度を表す。※遺跡名の欄の（事業団）は（財）藤原氏埋蔵文化財調査事業団を表す。

III 調査方針と経過

1 調査方針

委託された調査箇所は、蒼海遺跡群(40)・蒼海遺跡群(41)を除き、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う道路建設予定地が主たる調査地であるため、幅6mほどの極めて狭長なトレンチ状の調査区を中心となっている。本報告書で報告する遺跡の総調査面積は1,760m²である。

遺構番号は、遺跡ごとに付番することとし、(40) H-1号住居跡、(46) H-1号住居跡のように遺構の前に必ず遺跡名に付した数字を付すこととした。

グリッド座標については国家座標(日本測地系) X=+44000・Y=-72200を基点(X=0・Y=0)とする4mピッチのものを使用し、蒼海遺跡群(40)においては、西から東へX36、37、38…、北から南へY138、139、140…と付番し、グリッド呼称は北西杭の名称を使用した。

ちなみに、この蒼海遺跡群(40)のX37・Y139の公共座標は以下のとおりである。

日本測地系	X=+43,444.000	Y=-72,052.000
緯度	36°23'20"	経度 139°01'48"
子午線収差角	+0°28'35"	増大率 0.99996384

なお、平成11年3月11日の東日本大震災に伴い、地形が歪んだため誤差が生じた。昨年度は座標補正プログラムが発表になったのが、すべての調査区の方眼杭の設置が終了したあとであったため、誤差が生じたままの調査となり、X座標が0.0618～0.619m、Y座標が-0.4638～-0.4650mの誤差が生じている。

本年度は、改めてGPSにより座標を取り込み、グリッドを設定した。

調査方法については、表土掘削・遺構確認・方眼杭等設置・遺構掘下・遺構精査・測量・全景写真での行うこととした。このうちの遺構確認については、基本的にAs-C・Hr-FP軽石とAs-B軽石が混入する土層を手がかりにした。

図面作成は、平板・簡易送り方測量を用い、遺構平面図は原則として1/20、住所跡窓は1/10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録を記載しながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

2 調査経過及び概要

現地調査は平成24年5月9日から12月27日まで行った。

本年度実施した調査地は7ヵ所で、それぞれ「元総社蒼海遺跡群(40)」(遺跡コード:24A130-40)・「元総社蒼海遺跡群(41)」(遺跡コード:24A130-41)・「元総社蒼海遺跡群(42)」(遺跡コード:24A130-42)・「元総社蒼海遺跡群(43)」(遺跡コード:24A130-43)・「元総社蒼海遺跡群(46)」(遺跡コード:24A130-46)・「元総社蒼海遺跡群(49)」(遺跡コード:24A130-49)・「元総社蒼海遺跡群(50)」(遺跡コード:24A130-50)とした(以後「元総社蒼海遺跡群」を省略して付された数字のみで表記する)。

調査班は2班で構成し、1班は(40)・(46)・(49)・(50)の4遺跡を調査。2班は(41)・(42)・(43)の3遺跡を調査した。

なお、(49)については、(43)の隣接地であり、工事の兼ね合いから調査が2時期に分かれたところから、(43)の続きをとして調査を実施した。そのため、遺構番号も(43)からの連番で付したが、報告書作成にあたり、執筆の混乱を避ける意味合いから、改めて(49)と遺跡名を振りなおした(遺物への注記は(43)からの連番で実施した)。

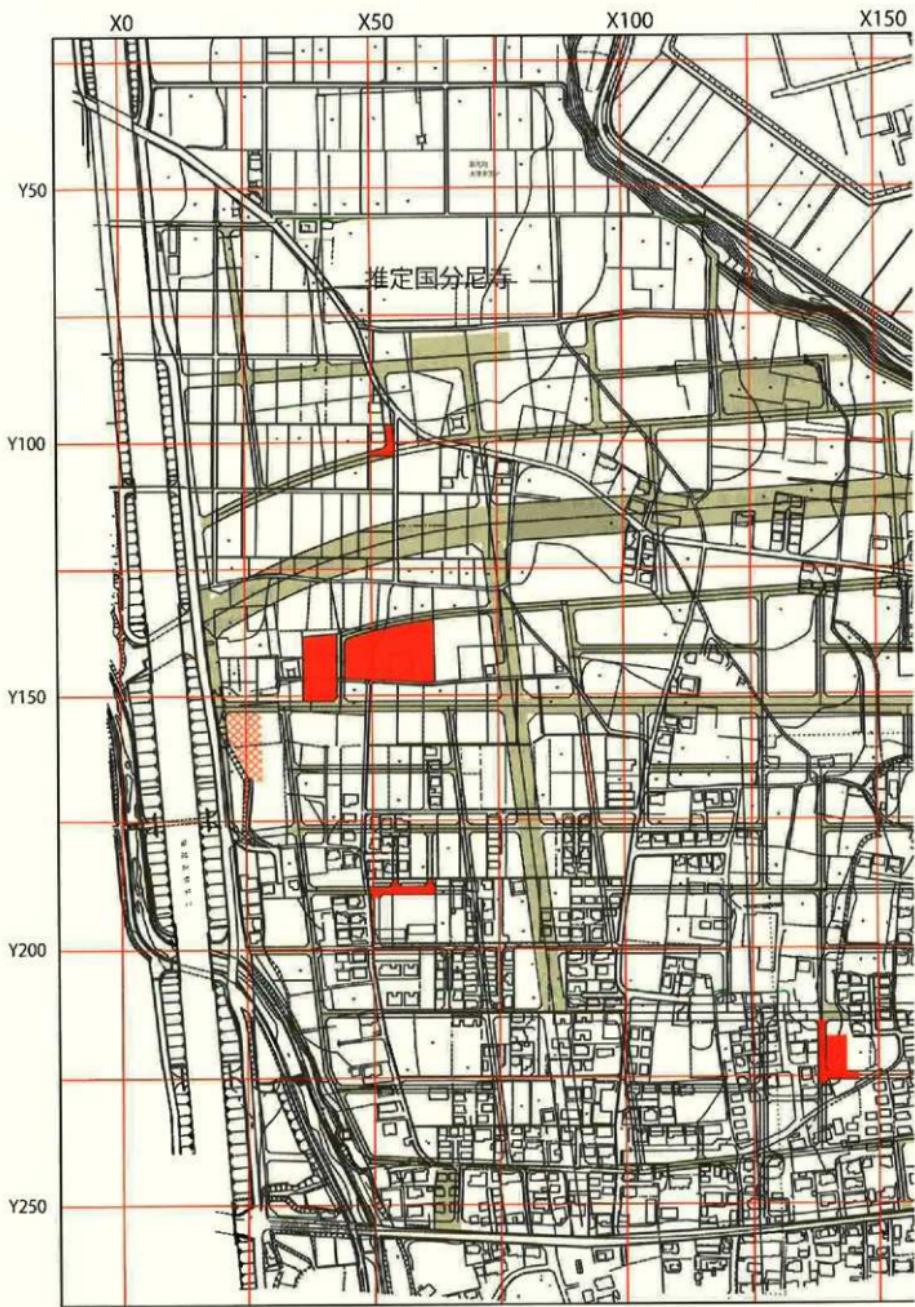


Fig. 3 元總社蒼海道路群 (40) (46) (49) (50)



調査区位置図とグリッド設定図

以下その対照表を記す。

(43) H-5 II-6 H-7 H-8 H-9 H-10 W-2

(49) H 1 H-2 H-3 H-4 H-5 II-6 W 1

上記以外の遺構については、遺跡名称が(43)ではあるが、遺構名はそのままである。

蒼海遺跡群(40)は蒼海遺跡群の西方部あたり、縄文時代の竪穴住居跡をはじめ古墳時代から平安時代の竪穴住居跡が多数検出された。蒼海遺跡群(41)とは道路を挟んで西部に位置する。

蒼海遺跡群(46)は推定上野国分尼寺の南部にあたる地域であるが、遺構の密度は低く、竪穴住居跡1軒と、時期不明の井戸跡1基のみであった。尼寺に近いためか、住居の竈の構築には瓦が利用されていた。

蒼海遺跡群(49)は蒼海遺跡群の南方部で、奈良・平安時代の竪穴住居跡が6軒、土坑3基、溝1条、井戸跡2基が検出された。蒼海遺跡群(43)に隣接して北西に位置する。

蒼海遺跡群(50)は蒼海遺跡群の西方部にあたり、調査面積に比して縄文時代の竪穴住居跡1軒、古墳～平安時代の竪穴住居跡18軒、時期不明土坑4基と比較的多い。

それぞれの、遺跡において、遺構精査後、記録図面の作成・記録写真の撮影を実施し、埋め戻し等を行い調査を終了した。

12月21日に現場事務所の撤収・機材等の撤収作業の一部を実施し、蒼海遺跡群(40)の縄文時代の遺構の図面記録を終了させ、文化財保護課庁舎に戻った。出土遺物・図面・写真等の整理作業及び報告書作成にあたり、本報告書の発行をもってすべての作業を終了した。

IV 元総社蒼海遺跡群（40）

1 調査区の概要

本報告書において報告する4つの調査区のうち最大の調査区で、調査面積は3,980m²を図る。葦海遺跡群の南西部に位置し、関越自動車から直線距離にして約100m東に位置する。葦海遺跡群(41)とは南北道路を挟んで東西に並ぶ。染谷川の東方約200m、標高は121m前後である。周辺では過去に*回調査が実施されており、縄文時代の竪穴住居跡、古墳時代から平安時代にかけての竪穴住居跡など数多く検出されている。今回検出された遺構は、縄文時代の前期・中期の竪穴住居跡4軒、古墳時代から平安時代にかけての竪穴住居跡が39軒が検出された。

特筆される遺構としては、鍛冶遺構を住居内に敷設する竪穴住居跡の検出、出土遺物としては、H-20号住居跡から出土した丸駒などが挙げられよう。

2 基本層序

- I層 黒褐色土 現耕作土。砂質土。
- II層 黒褐色土 粒度の大きい砂質土。As-C、Hr-FP を混入。
- III層 黒褐色土 II層より漸移的に変化する。砂の粒度は細くなる。混入する As-C、Hr-FP は少なくなり、総社砂層起因の砂質土のブロックが混入し始める。
- IV層 暗褐色土 III層より漸移的に変化する。砂の粒度はさらに細くなる。混入する As-C、Hr-FP もさらに少なくなる。
- IVa層 黒褐色土 IV層に似るが、色調は暗くなる。
- IVb層 黒褐色土 IVa層とV層の中間的な層序で、V層へは漸移的に変化する。
- V層 暗褐色土 総社砂層を起因とする。砂質土層。
- Va層 暗褐色土 総社砂層を起因とする。砂質土層。
- Vb層 黑褐色土 総社砂層を起因とする。シルト質土。
- VI層 黑褐色土 水成堆積のローム質土。総社砂層。VII層よりも軟らかい。
- VII層 黑褐色土 水成堆積のローム質土。総社砂層。堅密でよく緻密。
- *住居跡はVII層を掘り込んで構築される。

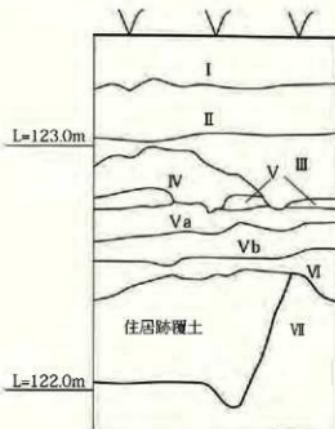


Fig. 4 元総社葦海遺跡群(40) 基本層序

3 縄文時代の遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

J-1号住居跡 (Fig. 6、PL. 4)

位置 X 41-42、Y 147~149グリッド 主軸方向 N-31°-E 形状等 楕円形、東西(4.60)m、南北(7.00)m、壁現高38cm 面積 (27.95)m² 床面 遺構南西部を風倒木痕により壊される。残存部はほぼ平坦。炉 埋甌炉 ピット P 1 長軸64cm、短軸40cm、深さ36cm P 2 長軸64cm、短軸52cm、深さ15cm P 3 長軸74cm、短軸68cm、深さ77cm 重複 なし 出土遺物 縄文時代中期加曾利E 3式期の深鉢、打製石斧、石錐 時期 縄文時代中期加曾利E 3式期

J-2号住居跡 (Fig. 7、PL. 5)

位置 X41・42、Y142～144グリッド 主軸方向 N-86°-E 形状等 楕円形、東西2.90m、南北2.74m、壁現高67cm 面積 (23.35)m² 床面 遺構南西部を風倒木痕により壊される。ほぼ平坦 炉 地床炉 ピット P1 長軸44cm、短軸32cm、深さ53cm P2 長軸28cm、短軸20cm、深さ10.5cm P3 長軸36cm、短軸32cm、深さ35cm P4 長軸32cm、短軸28cm、深さ26cm P5 長軸40cm、短軸32cm、深さ31cm P6 長軸24cm、短軸20cm、深さ19cm P7 長軸32cm、短軸28cm、深さ24cm P8 長軸20cm、短軸16cm、深さ16cm P9 長軸28cm、短軸22cm、深さ22cm P10 長軸24cm、短軸23cm、深さ12cm 重複 H25、H36と重複し、いずれより古い 出土遺物 繩文時代前期諸磯b・c式期の深鉢、打製石斧、石逃、石錐 時期 繩文時代前期諸磯c式期

J-3a号住居跡 (Fig. 8・9、PL. 5・6)

位置 X36～38、Y138・139グリッド 主軸方向 N-74°-E 形状等 丸みを持つ方形、東西(8.40)m、南北(5.24)m、壁現高56cm 面積 (30.98)m² 床面 ほぼ平坦 炉 地床炉 重複 J-3bと重複し、本住居跡が新しい 出土遺物 繩文時代前期諸磯c式期の深鉢、打製石斧、石匙、石錐 時期 繩文時代前期諸磯c式期の新しい段階

J-3b号住居跡 (Fig. 8・9、PL. 6)

位置 X36～39、Y138～141グリッド 主軸方向 N-84°-E 形状等 角丸方形、東西(9.88)m、南北10.80m、壁現高56m 面積 90.03m² 床面 ほぼ平坦 炉 未検出 重複 J-3aと重複し、本住居跡が古い。出土遺物 繩文時代前期諸磯c式期の深鉢、打製石斧、石匙、石錐 時期 繩文時代前期諸磯c式期

(2) 土坑

JD-1号土坑 (Fig.10、PL. 6)

位置 X37・38、Y141グリッド 主軸方向 N-113°-E 形状等 楕円形 長軸長0.78m、短軸長0.64m、壁現高34.5cm 重複 なし 出土遺物 繩文時代前期諸磯c式期の深鉢 時期 繩文時代前期諸磯c式期

JD-2号土坑 (PL. 6)

位置 X38、Y141・142グリッド 主軸方向 N-60°-E 形状等 楕円形 東西5.00m、南北4.40m、壁現高28.5cm 重複 なし 出土遺物 なし 時期 覆土の状況から繩文時代の土坑と判断したが時期等詳細は不明

(3) 墓壙

U-1号埋壙 (Fig.10、PL. 7)

位置 X141、Y148グリッド 重複 遺構との重複はないが東半分は耕作痕に切られる。 出土遺物 繩文時代中期加曾利E3式期の深鉢 時期 繩文時代中期加曾利E3式期

U-2号埋壙 (Fig.10、PL. 7)

位置 X140、Y147グリッド 重複 なし 出土遺物 繩文時代中期加曾利E3式期の深鉢 時期 繩文時代中期加曾利E3式期

4 古墳時代～平安時代の遺構と遺物

(1) 穴室住居跡

H-1号住居跡 (Fig.10, PL.7)

位置 X41・42、Y150グリッド 主軸方向 N-91° E 形状等 溝丸方形 東西5.54m、南北(2.40)m 壁現高41.5cm 面積 (10.61m²) 床面 ほぼ平坦であるが、炉周辺は凹む。 炉 浅い掘り込みを持つ地床炉。主軸方向N-4°-E ピット P1 長軸22cm、短軸18cm、深さ35.5cm P2 長軸24cm、短軸22cm、深さ51.5cm 壁周溝 東・西・北壁 重複 H-2と重複し、本住居跡が占い。 出土遺物 土師器・台付壺 時期 出土遺物から4世紀前半 備考 元社小見遺跡II-40に同じ

H-2号住居跡 (Fig.10)

位置 X40・41、Y150グリッド 主軸方向 N-74°-E 形状等 方形 東西(2.92)m、南北(0.76)m、壁現高49.5cm 面積 (0.84m²) 床面 調査区内では、確認できなかった。 窓 未検出。 壁周溝 北壁 重複 H-1と重複し、本住居跡が新しい。 出土遺物 土師器・壺・甕 時期 出土遺物から8世紀 備考 元社小見遺跡II-31に同じ

H-3号住居跡 (Fig.11, PL.5)

位置 X36・37、Y149・50グリッド 主軸方向 N-74°-E 形状等 溝丸方形 東西(1.74)m、南北(3.60)m、壁現高36.5cm 面積 (6.23m²) 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 窓 未検出 壁周溝 東・南壁 重複 H-5、W-1～3と重複し、H-5、W-2・3より新しく、W-1より古い。 出土遺物 土師器・壺 時期 出土遺物から6世紀第2四半期

H-4号住居跡 (Fig.12, PL.7～9)

位置 X37～39、Y148～150グリッド 主軸方向 N-65°-E 形状等 北壁中央に張出しを有する方形 東西5.86m、南北7.80m、壁現高75cm 面積 38.73m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 窓 東壁中央南より。主軸方向N-69°-E 全長230cm、最大幅188cm、縦道長126cm、焚口部幅56cm 壁周溝 東・西・北・南壁 ピット P1 長軸52cm、短軸44cm、深さ58cm P2 長軸36cm、短軸34cm、深さ42cm P3 長軸54cm、短軸44cm、深さ44.5cm P4 長軸48cm、短軸36cm、深さ21cm 重複 H-5、H-7、W-2、W-3と重複し、II-7より古く、H-5、W-2、W-3より新しい。 出土遺物 土師器・壺 時期 出土遺物から6世紀第4四半期～7世紀第1四半期

H-5号住居跡 (Fig.12)

位置 X37・38、Y149・150グリッド 主軸方向 N-74°-E 形状等 不明 東西(1.74)m、南北(3.60)m、壁現高28cm 面積 (4.49)m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 炉 地床炉 重複 H-3、H-4、W-2・W-3と重複し、いずれよりも本住居跡が占い。 出土遺物 土師器・台付甕 時期 出土遺物から4世紀

H-6号住居跡 (Fig.13・14, PL.9)

位置 X36・37、Y147～149グリッド 主軸方向 N-93°-E 形状等 溝丸方形 東西(1.34)m、南北7.32m、壁現高44cm 面積 (7.12m²) 床面 重複するW-1の影響で平坦面は確認できなかった。 窓 東壁南寄り。 主軸方向N-94°-E 全長175cm、最大幅190cm 壁周溝 東・北壁 重複 W-1と重複し、本住居跡が古い。

出土遺物 土師器・壺・甕 時期 出土遺物から 7世紀

H-7号住居跡 (Fig.14・15、PL.10)

位置 X37・38、Y147・148グリッド 主軸方向 N-89°-E 形状等 北壁西端に張出しを有する方形 東西5.60m、南北6.20m、壁現高48cm 壁周溝の状況から当初は張り出しを方形の住居：(東西(4.00)m、南北(5.40)m)を西及び張り出し部に拡張したものと判断できる。 面積 29.36m² 床面 硬質な總社砂層を掘り込み床面を構築。ほぼ平坦である。 駆 東壁中央南寄り。主軸方向N-82°-E 全長140cm、最大幅125cm、焚口部幅46cm ピット P 1 長軸52cm、短軸40cm、深さ67cm P 2 長軸40cm、短軸34cm、深さ61cm P 3 長軸46cm、短軸28cm、深さ51cm P 4 長軸36cm、短軸36cm、深さ81.5cm 壁周溝 東・西・北・南壁 重複 H-4と重複し、H-4より新しい。 出土遺物 須恵器・盤 土師器・壺 時期 7世紀第2四半期

H-8号住居跡 (Fig.15、PL.11)

位置 X38・39、Y146・147グリッド 主軸方向 N-85°-E 形状等 楕丸方形 東西4.12m、南北4.08m、壁現高50.5cm 面積 [19.97]m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 駆 東壁中央南寄り。主軸方向N-85°-E 全長106cm、最大幅92cm、煙道長31cm、焚口部幅22cm ピット P 1 長軸38cm、短軸32cm、深さ52.0cm P 2 長軸52cm、短軸44cm、深さ48cm P 3 長軸48cm、短軸32cm、深さ48cm P 4 長軸28cm、短軸26cm、深さ56cm P 5 長軸50cm、短軸44cm、深さ20cm 貯藏穴 P 5 壁周溝 東・西・北・南壁 重複 H-7と重複し、H-7より古い。 出土遺物 土師器・壺・甕 時期 6世紀第3四半期

H-9号住居跡 (Fig.16、PL.11)

位置 X39・40、Y146・147グリッド 主軸方向 N-93°-E 形状等 楕丸長方形 東西3.72m、南北4.48m、壁現高20cm 面積 15.83m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 駆 東壁中央南寄り。主軸方向N-92°-E 全長112cm、最大幅104cm、焚口部幅64cm 壁周溝 なし 重複 H-15・29と重複し、いづれより新しい。 出土遺物 須恵器・盤、土師器・壺・甕 時期 出土遺物から 8世紀第4四半期

H-10号住居跡 (Fig.16、PL.12)

位置 X37・38、Y145～147グリッド 主軸方向 N-90°-E 形状等 楕丸長方形 東西4.20m、南北5.08m、壁現高12cm 面積 [20.07]m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 炉 未検出 壁周溝 東・南壁 重複 H-21と重複し、H-21より古い。 出土遺物 土師器・器台・壺・須恵器 時期 4世紀

H-11号住居跡 (Fig.17、PL.12)

位置 X37・38、Y145～147グリッド 主軸方向 N-88°-E 形状等 楕丸方形 東西(1.40)m、南北6.48m、壁現高69.5cm 面積 (7.45)m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 炉 未検出 ピット P 1 長軸(40)cm、短軸(28)cm、深さ65cm P 2 長軸(44)cm、短軸(20)cm、深さ29.5cm 貯藏穴 P 2 壁周溝 東・北壁 重複 W-1と重複し、W-1より古い。 出土遺物 土師器・壺・壺・甕 時期 出土遺物から 4世紀前半

H-12号住居跡 (Fig.18・19、PL.16)

位置 X38・39、Y145・146グリッド 主軸方向 N-74°-E 形状等 楕丸長方形 東西3.80m、南北4.60m、壁現高52.5cm 面積 16.83m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 駆 東壁南寄り。主軸

方向N-90°-E 全長98cm、最大幅84cm 壁周溝 東・西・北・南壁 重複 H-20、H-21、H-26と重複し、H-20、H-21より新しく、H-26より古い。 出土遺物 土師器片 時期 重複関係から8世紀

H-13号住居跡 (Fig.20・21 PL.13・14)

位置 X41・42、Y145・146グリッド 主軸方向 N-84°-E 形状等 圓丸長方形 東西3.48m、南北4.52m、壁現高50cm 面積 16.75m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 鏡 東壁中央南寄り。主軸方向N-82°-E 全長104cm、最大幅122cm、焚口部幅50cm 炉心 中央南東寄り 廃滓土坑 中央やや南西寄り 長軸86cm、短軸68cm、深さ21cm ピット P1 長軸56cm、短軸34cm、深さ21cm P2 長軸64cm、短軸25cm、深さ27cm 壁周溝 なし 重複 H-29と重複し、II-29より新しい。 出土遺物 土師器・壺・壺、高台挽 時期 8世紀第4四半期 備考 錫冶遺構を伴う

H-14号住居跡 (Fig.17, PL.15)

位置 X42、Y145～148グリッド 主軸方向 N-72°-E 形状等 圓丸方形 東西(2.52)m、南北4.20m、壁現高58cm 面積 (8.07m²) 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 鏡 調査区外に存在するものと思われる。 ピット P1 長軸56cm、短軸40cm、深さ47cm P2 長軸44cm、短軸40cm、深さ42.5cm 壁周溝 北・南・東壁 重複 なし 出土遺物 土師器片 時期 7世紀第3四半期 備考 元總社小見遺跡II-63に同じ

H-15号住居跡 (Fig.22)

位置 X39・40、Y144～146グリッド 主軸方向 N-85°-E 形状等 圓丸長方形 東西[3.32]m、南北4.40m、壁現高45cm 面積 (15.59m²) 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 鏡 東壁中央南寄り。主軸方向N-88°-E 全長(38)cm、最大幅(88)cm 壁周溝 西・北・南壁 重複 H-9・28・29と重複し、H-9より古く、H-28・29より新しい。 出土遺物 土師器片 時期 8世紀第4四半期

H-16号住居跡 (Fig.22, PL.15)

位置 X40・41、Y144・145グリッド 主軸方向 N-86°-E 形状等 四丸長方形 東西(3.36)m、南北5.06m、壁現高42cm 面積 [17.83]m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 鏡 東壁南寄り。主軸方向N-89°-E 全長132cm、最大幅118cm、焚口部幅44cm 壁周溝 なし 重複 H-24bと重複し、H-24aよりも新しい。 出土遺物 須恵器・蒸・土師器・甕 時期 9世紀

H-17号住居跡 (Fig.23, PL.15)

位置 X42、Y144・145グリッド 主軸方向 N-65°-E 形状等 角丸方形 東西3.20m、南北3.28m、壁現高44.5cm 面積 (8.53m²) 床面 ほぼ平坦で、中央部から南東部にかけて硬化面あり。 鏡 調査区外に存在するものと思われる。 壁周溝 東・西・北・南壁 重複 なし 出土遺物 土師器片 時期 8世紀

H-18号住居跡 (Fig.23, PL.15)

位置 X36・37、Y143・144グリッド 主軸方向 N-78°-E 形状等 角丸方形 東西3.40m、南北3.52m、壁現高20.5cm 面積 10.40m² 床面 ほぼ平坦で、罐前面に硬化面あり。 鏡 東壁南寄り。主軸方向N-84°-E 全長[90]cm、最大幅94cm ピット P1 長軸52cm、短軸38cm、深さ13cm P2 長軸28cm、短軸26cm、深さ31cm P3 長軸52cm、短軸46cm、深さ52cm 貯藏穴 P3 壁周溝 東・北壁 重複 II-19と重複し、

H 19より新しい。 出土遺物 土師器・壺、高台椀 時期 7世紀

H-19号住居跡 (Fig.23、PL.15)

位置 X37・38、Y144・145グリッド 主軸方向 N-78° E 形状等 角丸長方形 東西3.16m、南北3.46m、壁現高38.5cm 面積 11.03m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 龍 東壁南寄り。主軸方向N-99°-E 全長(82)cm、最大幅106cm 壁周溝 東・西・北・南壁 重複 H-18、H 20と重複し、H-18より古く、H 20より新しい。 出土遺物 土師器・壺 時期 9世紀

H-20号住居跡 (Fig.24、PL.16)

位置 X37・38、Y144・145グリッド 主軸方向 N-77°-E 形状等 角丸長方形 東西2.80m、南北4.40m、壁現高25cm 面積 10.62m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 龍 東壁南寄り。主軸方向N-73°-E 全長134cm、最大幅(123)cm 壁周溝 東・西・北・南壁 重複 H-19と重複し、本住居跡が古い。 山土遺物 土師器・壺、丸瓶、鉄鎌 時期 7世紀

H-21号住居跡 (Fig.24、PL.16)

位置 X37・38、Y145・146グリッド 主軸方向 N-92°-E 形状等 角丸長方形 東西[3.52]m、南北[5.84]m、壁現高9.5cm 面積 [12.55]m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 龍 東壁中央南寄り。主軸方向N-84°-E 全長(40)cm、最大幅96cm、焚口部幅44cm ピット P 1 長軸88cm、短軸68cm、深さ15cm 貯蔵穴 P 1 壁周溝 未検出 重複 H 12、H-26、H-20と重複し、いざれより本住居跡が古い。 出土遺物 土師器・壺、高台椀 時期 6世紀後半

H-22号住居跡 (Fig.24、PL.16)

位置 X39・40、Y143・144グリッド 主軸方向 N-73°-E 形状等 角丸長方形 東西(1.72)m、南北3.64m、壁現高22.5cm 面積 (3.93m²) 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 龍 未検出 壁周溝 なし 重複 H-23と重複し、H-23より古い。 出土遺物 土師器片 時期 5世紀

H-23号住居跡 ((Fig.24、PL.16))

位置 X39、YY143・144グリッド 主軸方向 N-87°-E 形状等 角丸方形 東西2.36m、南北3.24m、壁現高21.0cm 面積 (7.01m²) 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 龍 東壁中央。主軸方向N-85°-E 全長64cm、最大幅47cm 重複 H 22と重複し、H-22より新しい。 出土遺物 須恵器・壺 時期 7世紀

H-24a号住居跡 (Fig.25、PL.16)

位置 X39～41、Y142～144グリッド 主軸方向 N-57°-E 形状等 角丸方形 東西4.24m、南北4.32m、壁現高47.5cm 面積 17.42m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 龍 南壁中央西寄り。主軸方向N 153°-E 全長77cm、最大幅73cm 重複 H-24 b、H 24 cと重複し、いざれより新しい。 出土遺物 土師器・壺、須恵器・蓋 石 時期 7世紀第4四半期

H-24 b号住居跡 (Fig.25、PL.16)

位置 X39～41、Y142～144グリッド 主軸方向 N 70°-E 形状等 角丸方形 東西[5.12]m、南北[4.52]

m、壁現高34.5cm 面積 [19.90]m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。竈 東壁中央やや南寄り。主軸方向N-62°-E 全長178cm、最大幅77cm、焚口部幅34cm ピット P 1 長軸24cm、短軸24cm、深さ43cm P 2 長軸28cm、短軸22cm、深さ46cm P 3 長軸44cm、短軸36cm、深さ44cm P 4 長軸30cm、短軸28cm、深さ65cm P 5 長軸52cm、短軸36cm、深さ43.0cm 貯藏穴 P 5 壁周溝 東壁 重複 H-16、H-24 b、H-24 cと重複し、いずれより古い。出土遺物 土師器・壺・竈 須恵器 時期 6世紀第4四半期

H-24c号住居跡 (Fig.25, PL.16)

位置 X39~41、Y142~144グリッド 主軸方向 N-76°-E 形状等 角丸長方形 東西3.44m、南北[2.80]m、壁現高15.0cm 面積 (5.01)m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。竈 未検出 重複 II-24 a、II-24 bと重複し、II-24 aより古く、II-24 bより新しい。出土遺物 土師器片 時期 7世紀第2四半期

H-25号住居跡 (Fig.26, PL.16)

位置 X42、Y142~143グリッド 主軸方向 N-92°-E 形状等 角丸長方形 東西(3.14)m、南北3.78m、壁現高33.5cm 面積 (10.56)m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。竈 未検出 重複 II-36と重複し、本住居跡が新しい。出土遺物 土師器片 時期 不明

H-26号住居跡 (Fig.18~19, PL.17)

位置 X38~39、Y145~146グリッド 主軸方向 N-76°-E 形状等 角丸長方形 東西3.16m、南北3.68m、壁現高37cm 面積 11.05m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。竈 東壁中央より。主軸方向N-97°-E 全長116cm 最大幅92cm ピット P 1 長軸32cm、短軸30cm、深さ19cm 壁周溝 東・西・北・南壁 重複 H-12と重複し、本住居跡が新しい。出土遺物 須恵器・壺 時期 9世紀

H-27号住居跡 (Fig.26, PL.17)

位置 X39~40、Y141~142グリッド 主軸方向 N-67°-E 形状等 角丸方形 東西4.76m、南北4.68m、壁現高36cm 面積 20.45m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。竈 2基存在。東壁中央南寄り。主軸方向N-73°-E 全長(112)cm、最大幅108cm、焚口部幅60cm、西壁中央南寄り。主軸方向N-116°-W。全長127cm、最大幅121cm、煙道長66cm ピット P 1 長軸32cm、短軸26cm、深さ27cm P 2 長軸434cm、短軸28cm、深さ30.5cm P 3 長軸30cm、短軸22cm、深さ38cm P 4 長軸20cm、短軸16cm、深さ91cm P 5 長軸102cm、短軸72cm、深さ50cm 貯藏穴 P 5 壁周溝 東・西・北・南壁 重複 A-1と重複し、本住居跡が古い。出土遺物 須恵器・壺 時期 6世紀第2四半期

H-28号住居跡 (Fig.22)

位置 X39~40、Y144~145グリッド 主軸方向 N-84°-E 形状等 角丸方形 東西3.24m、南北(3.54)m、壁現高28.5cm 面積 8.55m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。竈 未検出 壁周溝 西・北壁 重複 H-15と重複し、本住居跡が古い。出土遺物 土師器片 時期 6世紀第2四半期

H-29号住居跡 (Fig.27, PL.18)

位置 X40~42、Y144~146グリッド 主軸方向 N-12°-E 形状等 角丸方形 東西7.44m、南北7.52m、壁現高35.5cm 面積 53.89m² 床面 ほぼ平坦である。炉 地床炉。中央北寄り ピット P 1 長軸28cm、

短軸24cm、深さ57.0cm P 2 長軸48cm、短軸48cm、深さ54cm P 3 長軸32cm、短軸24cm、深さ54.5cm P 4
長軸27cm、短軸21cm、深さ45cm P 5 長軸56cm、短軸48cm、深さ33cm 重複 H-9、H-13、H-15、II-16
と重複し、いずれより本件居跡が古い。 出土遺物 上師器・壺・壺・壇・台付壺・器台 時期 4世紀前半

H-30号住居跡 欠番

H-31号住居跡 (Fig.28、PL.18)

位置 X38・39、Y138・139グリッド 主軸方向 N-104°-E 形状等 角丸長方形 東西3.38m、南北3.64m、
壁現高28.5cm 面積 [10.74]m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 壁 東壁南寄り。主
軸方向N-95°-E 全長106cm、最大幅82cm 出土遺物 土師器片 時期 9世紀第2四半期

H-32号住居跡 (Fig.28)

位置 X38・39、Y140・141グリッド 主軸方向 N-80° E 形状等 角丸長方形 東西[2.28]m、南北3.60
m、壁現高12.5cm 面積 [12.87]m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 壁 東壁南寄り。
主軸方向N-66°-E 全長62cm、最大幅50cm ピット P 1 長軸58cm、短軸36cm、深さ12cm 貯蔵穴 P 1 壁
周溝 未検出 出土遺物 土師器片 時期 9世紀第2四半期

H-33号住居跡 (Fig.28、PL.18)

位置 X38・39、Y140・141グリッド 主軸方向 N-81°-E 形状等 角丸長方形 東西[2.36]m、南北3.60
m、壁現高12.5cm 面積 [7.70]m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 壁 東壁南寄り。
主軸方向N-71° E 全長80cm、最大幅70cm 壁周溝 未検出 出土遺物 土師器片 時期 10世紀前半

H-34号住居跡 (Fig.29、PL.18)

位置 X38・39、Y138・139グリッド 主軸方向 N-80°-E 形状等 角丸方形 東西2.70m、南北3.84m、
壁現高23.5cm 面積 [18.69]m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 壁 東壁南寄り。主
軸方向N-78°-E 全長(80)cm、最大幅(76)cm 出土遺物 刃物器・円面鏡 時期 9世紀第1四半期

H-35号住居跡 (Fig.29)

位置 X40・41、Y138グリッド 主軸方向 N-78°-E 形状等 角丸方形 東西5.76m、南北(3.12)m、壁現
高50.0cm 面積 (14.27)m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 壁 未検出 ピット P
1 長軸36cm、短軸36cm、深さ66cm P 2 長軸32cm、短軸24cm、深さ65cm P 3 長軸38cm、短軸32cm、深さ
20cm 出土遺物 土師器片 時期 不明

H-36号住居跡 (Fig.26)

位置 X41・42、Y142・143グリッド 主軸方向 N-65° E 形状等 角丸方形 東西(2.00)m、南北3.96m、
壁現高25.5cm 面積 (3.28)m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 壁 未検出 床下土
坑 長軸90cm、短軸86cm、深さ5.0cm 出土遺物 土師器・壺 時期 8世紀第4四半期

H-37号住居跡 (Fig.30、PL.18)

位置 X39・40、Y140・141グリッド 主軸方向 N-78°-E 形状等 やや歪んだ長方形、東西3.92m、南北

2.24m、壁現高21cm 面積 8.96m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 窓 東壁中央。
主軸方向N-78° E 全長[64]cm、最大幅44cm 出土遺物 須志器・壺、高台碗 時期 9世紀第4四半期

H-38号住居跡 (Fig.29、PL.19)

位置 X38・39、Y140・141グリッド 主軸方向 N-91°-E 形状等 角丸方形 東西(5.20)m、南北(6.32)m、壁現高25.5cm 面積 126.50|m² 床面 ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できなかった。 炉 地床炉。中央北寄り ピット P1 長軸48cm、短軸40cm、深さ28.0cm P2 長軸28cm、短軸20cm、深さ50.0cm 貯蔵穴 P1 壁周溝 東・西・北・南壁 出土遺物 土師器片 時期 4世紀前半

(2) 溝跡

W-1号溝跡

位置 X36、Y144～146グリッド 主軸方向 N-98°-E 形状等 長さ3.88m、深さ29.5cm、最大上幅60cm、最大下幅40cm 断面 底部に狭い平坦面をもつV字状を呈する。 時期 不明

W-2号溝跡 (Fig.12)

位置 X39・40、Y144～146グリッド 主軸方向 N-98°-E 形状等 長さ(1.92)m、深さ57.0cm、最大上幅88cm、最大下幅64cm 断面 形箱状を呈する。 時期 重複関係から5世紀代から6世紀前半

W-3号溝跡 (Fig.12)

位置 X39・40、Y144～146グリッド 主軸方向 N-98°-E 形状等 長さ(1.60)m、深さ37.5cm、最大上幅120cm、最大下幅96cm 断面 形箱状を呈する。 時期 重複関係から5世紀代から6世紀前半

(3) 土坑・掘立柱建物・道路状造構・竪穴状造構・井戸跡

D-1号土坑 (Fig.30、PL.19)

位置 X39・40、Y144～146グリッド 主軸方向 N-81°-E 形状等 楕円形 長軸長1.62m、単軸幅0.85m、深さ28.5cm 出土遺物 高台碗 時期 10世紀

D-2号土坑 (Fig.30、PL.19)

位置 X39・40、Y144～146グリッド 主軸方向 N-92°-E 形状等 楕円形 長軸長1.30m、単軸幅1.04m、深さ9.5cm 出土遺物 土師器片 時期 9世紀第4四半期

B-1号掘立柱建物跡 (Fig.31、PL.19)

位置 X39・40、Y144～146グリッド 主軸方向 N-79°-E 形状等 東西4.52m、南北3.40m 重複 なし
P-1 長軸68cm、短軸60cm、深さ34cm
P-2 長軸56cm、短軸52cm、深さ34cm
P-3 長軸96cm、短軸60cm、深さ42cm
P-4 長軸88cm、短軸84cm、深さ45cm
P-5 長軸60cm、短軸36cm、深さ28cm
P-6 長軸62cm、短軸58cm、深さ40cm
P-7 長軸72cm、短軸60cm、深さ36cm

P-8 長軸94cm、短軸80cm、深さ31cm
P-1～P-2 の距離 2.20m、P-2～P-3 の距離 1.80m、P-3～P-4 の距離 1.56m P-4～P-5 の距離 1.84m、P-5～P-6 の距離 2.12m、P-6～P-7 の距離 2.00m P-7～P-8 の距離 1.68m、P-8～P-1 の距離 1.36m

A-1号道路状遺構

位置 X37～43、Y140～143グリッド 主軸方向 N-96°-E 形状等 長さ26.40m、深さ29.5cm、最大上幅60cm、最大下幅40cm 断面 箱状を呈する。重複 H-27・H-38と重複し、いずれよりも新しい。時期 古代

I-1号井戸跡 (Fig.32)

位置 X40、Y139 形状等 円形 上幅(1.22)m×(1.05)m、深さ(1.22)m。ロート状に開口し、ほぼ垂に掘り込まれる。重複 なし 出土遺物 なし 時期 不明

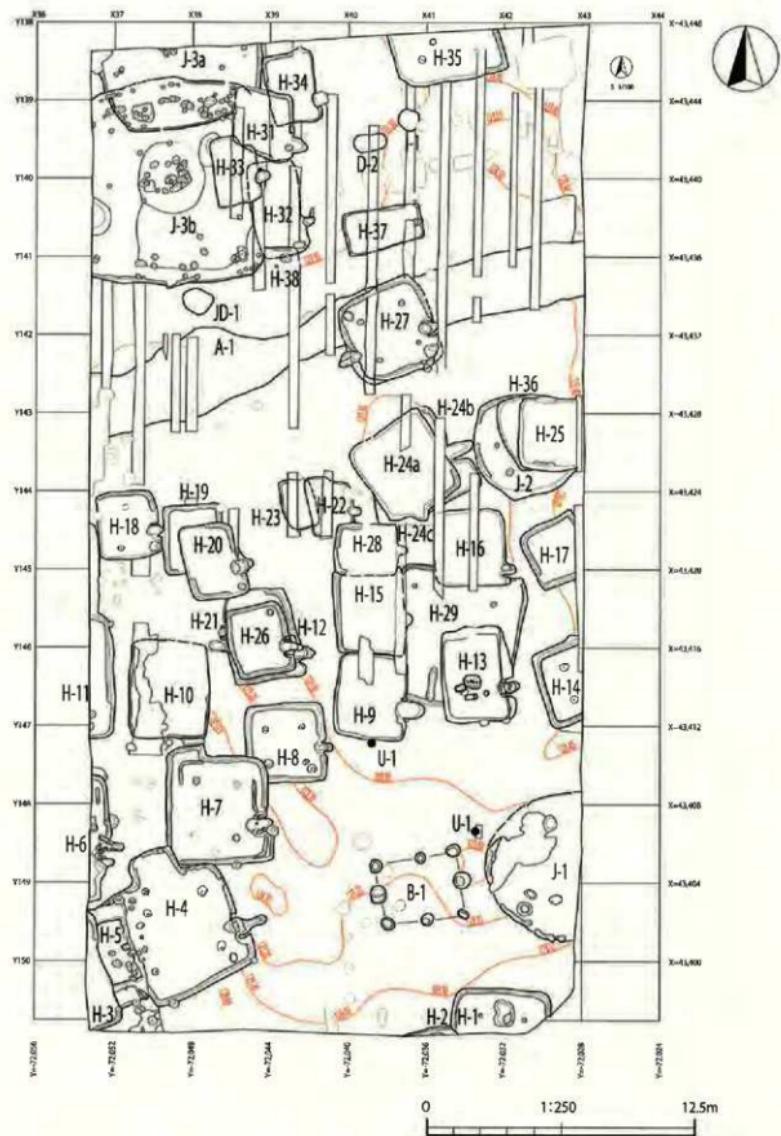
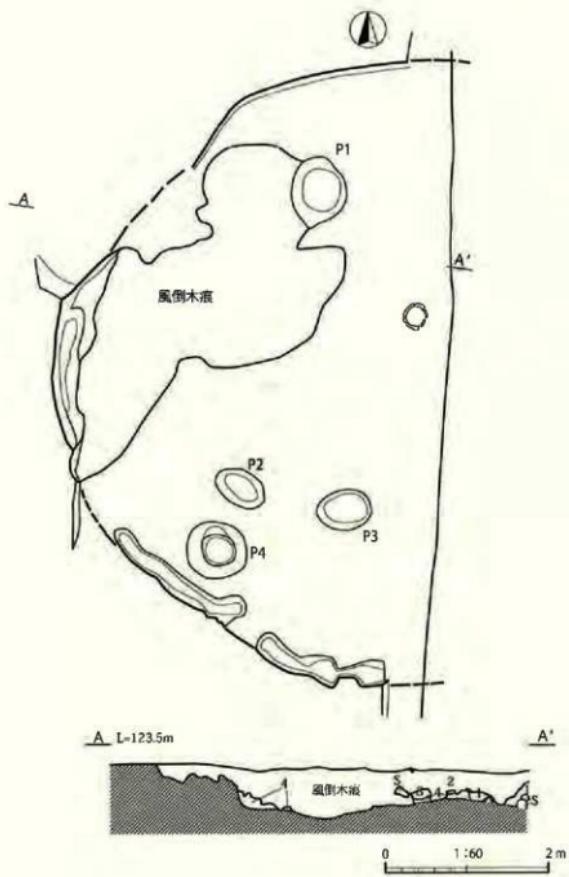


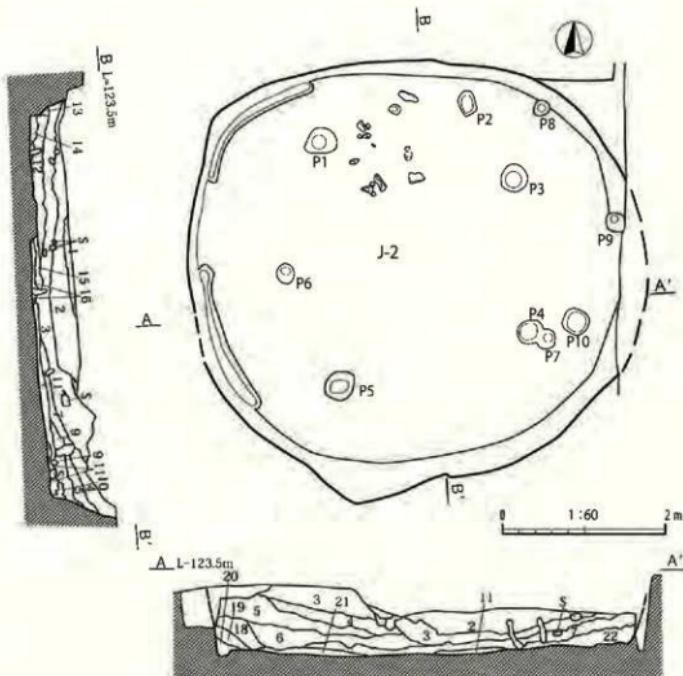
Fig. 5 元總社貢海遺跡群(40) 調査区全体図



J-1号住居跡層序説明

1層	黒褐色細砂層	粘性なし	縫まりあり
2層	褐色細砂層	粘性なし	縫まり強い
3層	暗褐色細砂層	粘性なし	縫まりあり
4層	暗褐色細砂層	粘性なし	縫まり強い

Fig. 6 元總社蒼海遺跡群(40) J-1号住居跡



J-2号住居跡層序説明

1層	暗褐色細砂層	粘性なし	縛まりあり
2層	黒褐色細砂層	粘性なし	縛まりあり
3層	黒褐色細砂層	粘性なし	縛まりあり
4層	暗褐色細砂層	粘性なし	縛まり強い
5層	暗褐色細砂層	粘性なし	縛まり強い
6層	暗褐色細砂層	粘性なし	縛まり強い
7層	極暗褐色細砂岩	粘性なし	縛まり強い
8層	暗褐色細砂岩	粘性なし	縛まり強い
9層	極暗褐色細砂岩	粘性なし	縛まり強い
10層	褐色細砂層	粘性なし	縛まり強い
11層	暗褐色細砂層	粘性なし	縛まり強い
12層	黒褐色細砂層	粘性なし	縛まり強い
13層	褐色細砂岩	粘性なし	縛まり強い
14層	にぶい黄褐色細砂層	粘性なし	縛まり強い
15層	黒褐色細砂層	粘性なし	縛まり強い
16層	褐色細砂層	粘性なし	縛まり強い
17層	暗褐色細砂層	粘性なし	縛まり強い
18層	暗褐色細砂層	粘性なし	縛まり強い

Fig. 7 元總社杏海遺跡群 (40) J-2号住居跡

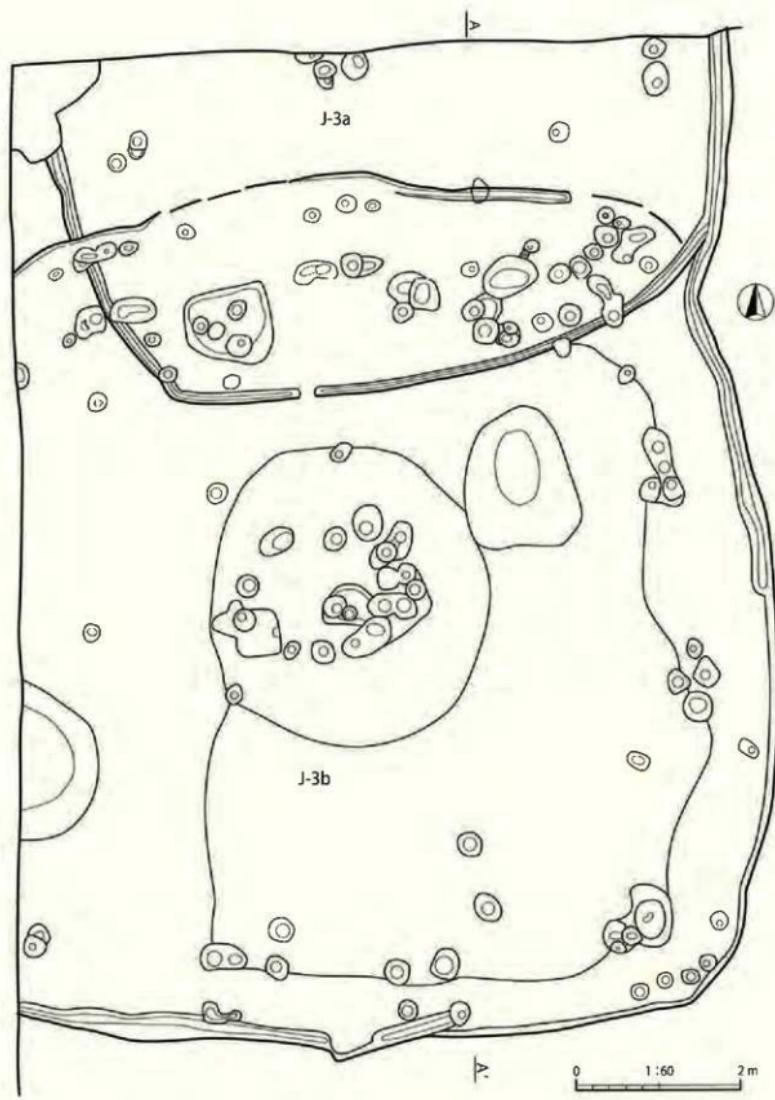


Fig. 8 元魏社舊海遺跡群 (40) J—3 号住居跡 (1)

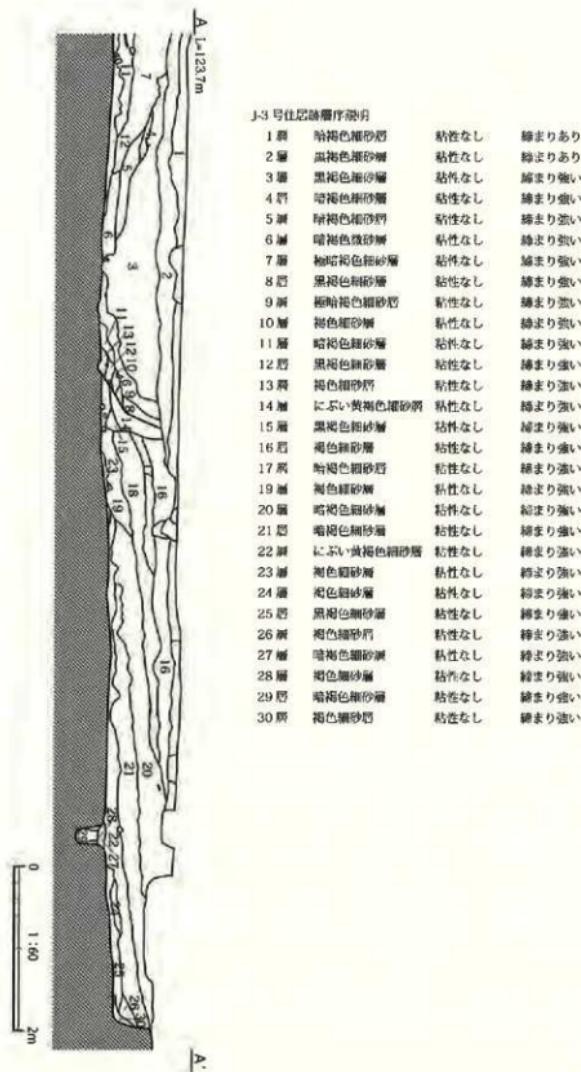


Fig. 9 元続社古墳遺跡群 (40) J-3号住居跡 (2)

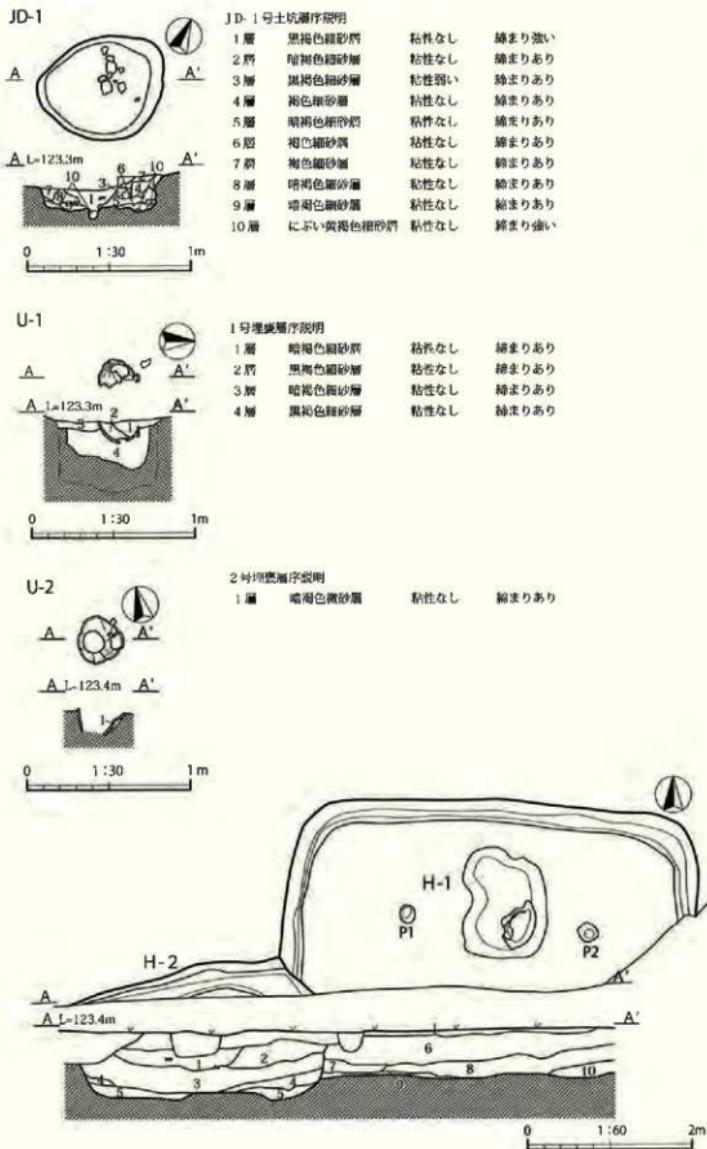


Fig.10 元總社蒼海遺跡群(40) JD-1号土坑、1・2号埋蔵、H-1・2号住居跡

H-1 号住居跡層序説明

1 層	現耕作土		
2 層	黒褐色細砂層	粘性あり	綿まりあり
3 層	緑暗褐色細砂層	粘性あり	綿まりあり
4 層	黒褐色細砂層	粘性あり	綿まりあり
5 層	緑暗褐色細砂層	粘性あり	綿まりあり
6 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	綿まりあり

H-2号住居跡層序説明

7 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	綿まりあり
8 層	緑暗褐色細砂層	粘性なし	綿まりあり
9 層	黒褐色細砂層	粘性なし	綿まりあり
10 層	黒褐色細砂層	粘性あり	綿まりあり
11 層	黒褐色細砂層	粘性なし	綿まりあり

H-3号住居跡層序説明

I 层	現耕作土		
II 層	黒褐色細砂層	粘性なし	綿まり強い
III 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	綿まりあり
IV 層	黒褐色細砂層	粘性なし	綿まり強い
V 層	暗褐色細砂層	粘性なし	綿まりあり
V a 層	黒褐色細砂層	粘性なし	綿まりあり
V b 層	暗褐色細砂層	粘性なし	綿まりあり
VI 層	暗褐色細砂層	粘性なし	綿まり強い
1 層	暗褐色細砂層	粘性なし	綿まり強い
2 層	黒褐色細砂層	粘性なし	綿まり強い
3 層	黒褐色細砂層	粘性なし	綿まり強い
4 层	暗褐色細砂層	粘性なし	綿まりあり
5 层	暗褐色細砂層	粘性なし	綿まりあり
6 层	褐色細砂層	粘性なし	綿まりあり
7 层	暗褐色細砂層	粘性なし	綿まりあり
8 层	暗褐色細砂層	粘性なし	綿まりあり
9 层	暗褐色細砂層	粘性なし	綿まりあり

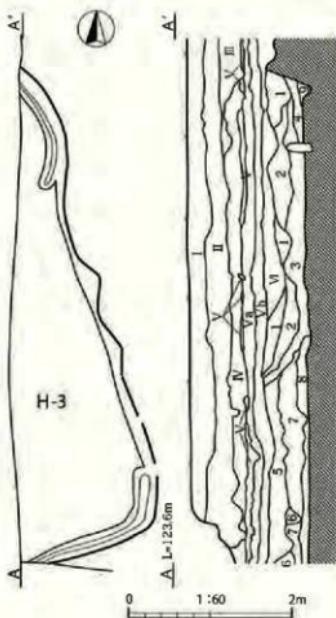
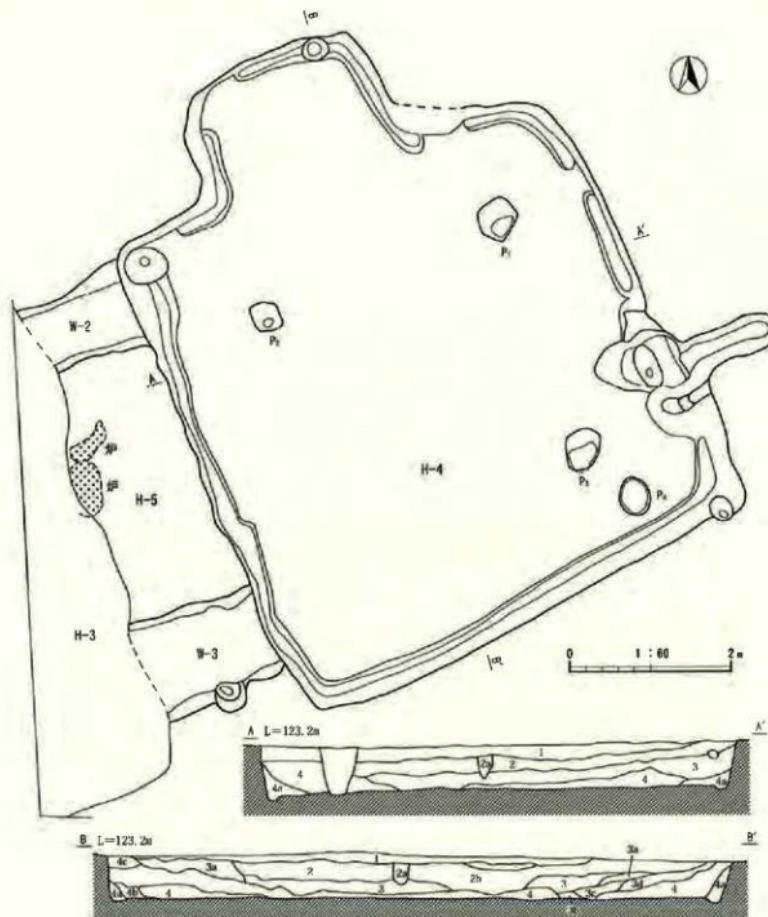


Fig.11 元總社舊海造跡群(40) H-3号住居跡



H 4 号住居跡層序図

1 层	黒褐色細砂岩	粘性なし	縫まりあり
2a 層	暗赤褐色細砂岩	粘性なし	縫まりあり
2b 層	暗赤褐色細砂岩	粘性なし	縫まりあり
3 層	灰暗褐色細砂岩	粘性なし	縫まりあり
3b 層	黒褐色細砂岩	粘性なし	縫まりあり
3c 層	黒褐色細砂岩	粘性なし	縫まり強い
3d 層	褐暗褐色細砂岩	粘性なし	縫まり強い
4 層	黒褐色細砂岩	粘性なし	縫まりあり
4a 層	黒褐色細砂岩	粘性ややあり	縫まりあり
4b 層	黒褐色細砂岩	粘性ややあり	縫まりあり
4c 層	暗褐色細砂岩	粘性ややあり	縫まりあり

Fig.12 元総社黃海遺跡群(40) H-4・5号住居跡、W-2・3号住居跡

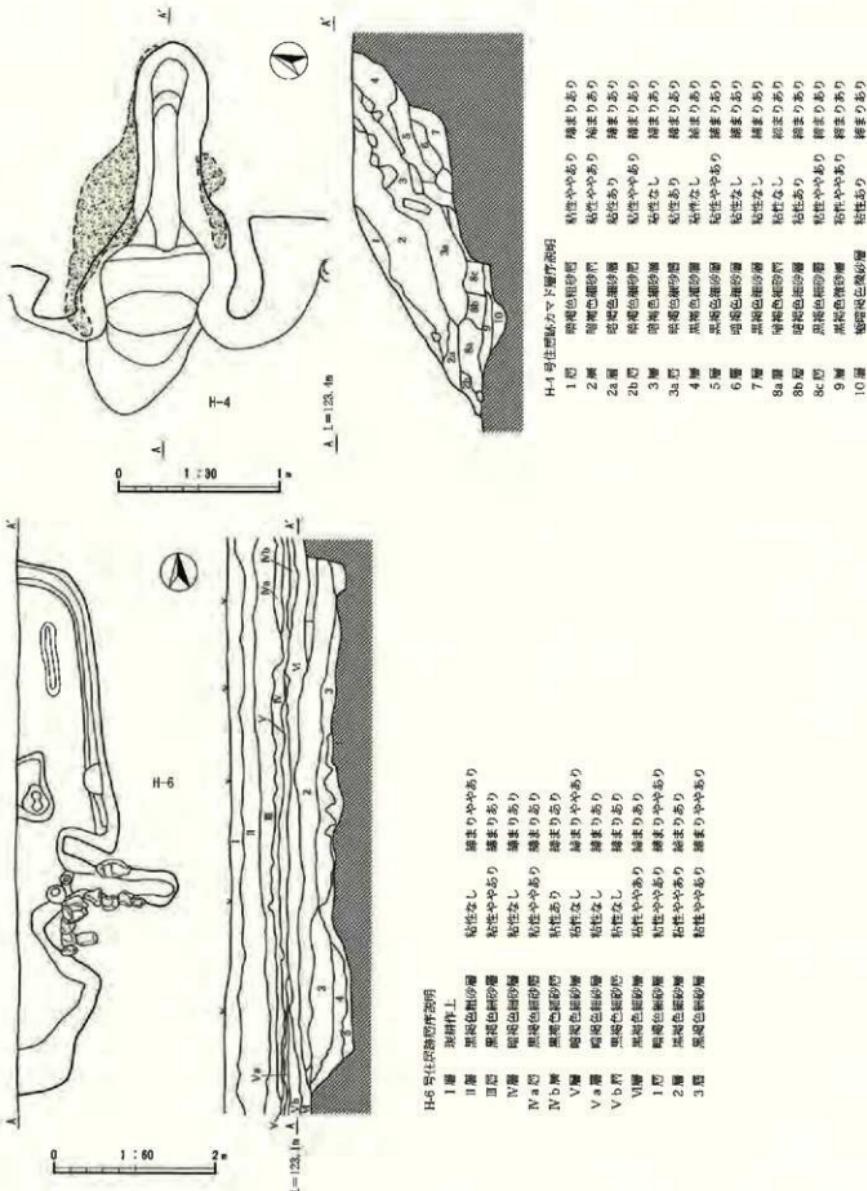
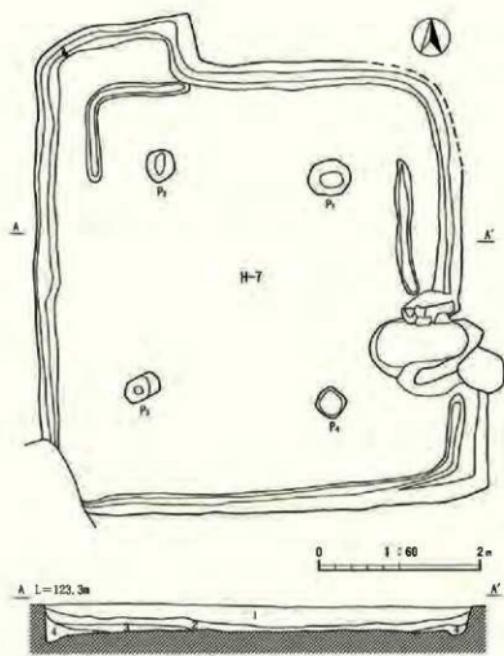
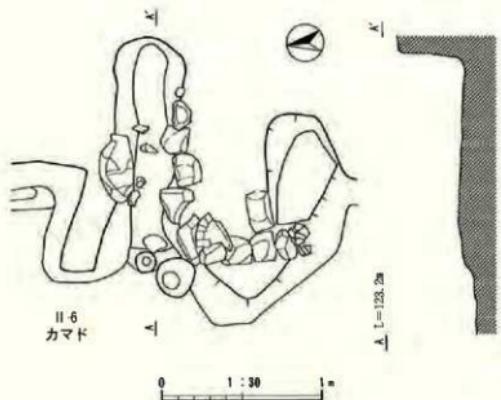


Fig.13 元總社黃海遺跡群(40) H-4・6号住居跡



H-7号住居跡層序説明		
1層	黒褐色細砂層	締まり強い
2層	黒褐色細砂層	締まりやあり
3層	黒褐色細砂層	締まりなし
4層	暗褐色細砂層	締まりやあり
		締まり強い

Fig.14 元總社舊海遺跡群(40) H-6・7号住居跡

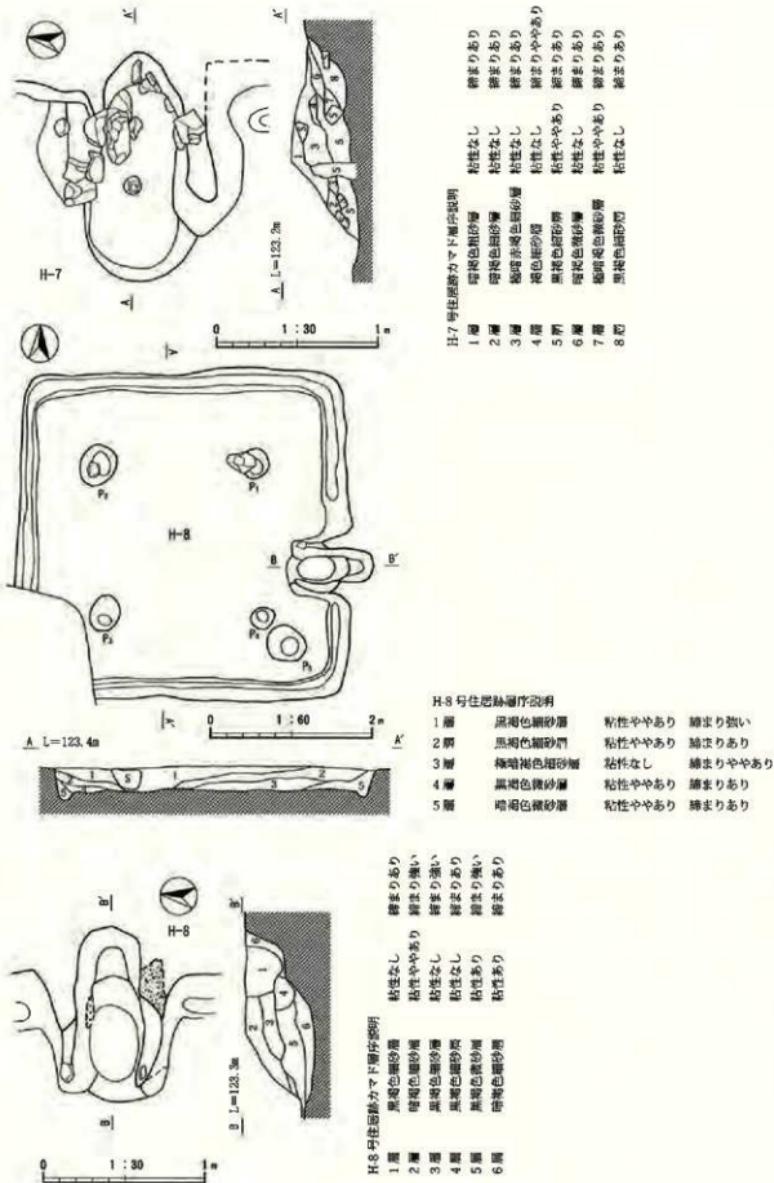


Fig.15 元絶社古遺跡群(40) H-7・8号住居跡

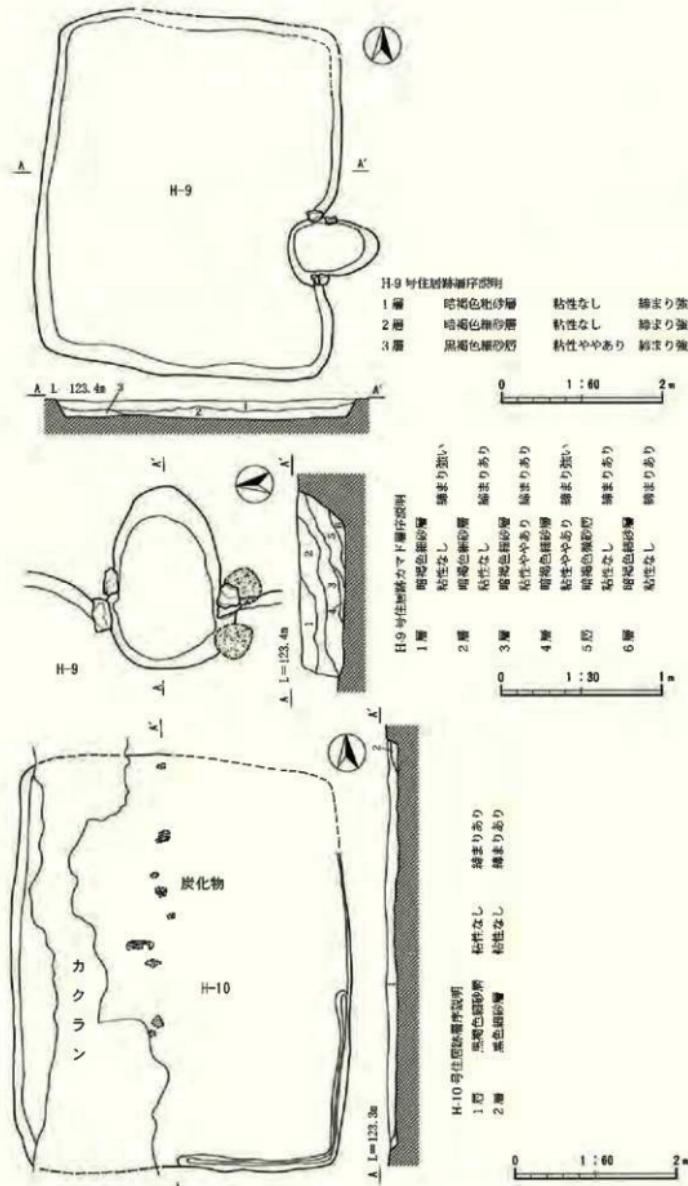


Fig.16 元總社苔海遺跡群 (40) II-9・10号住居跡

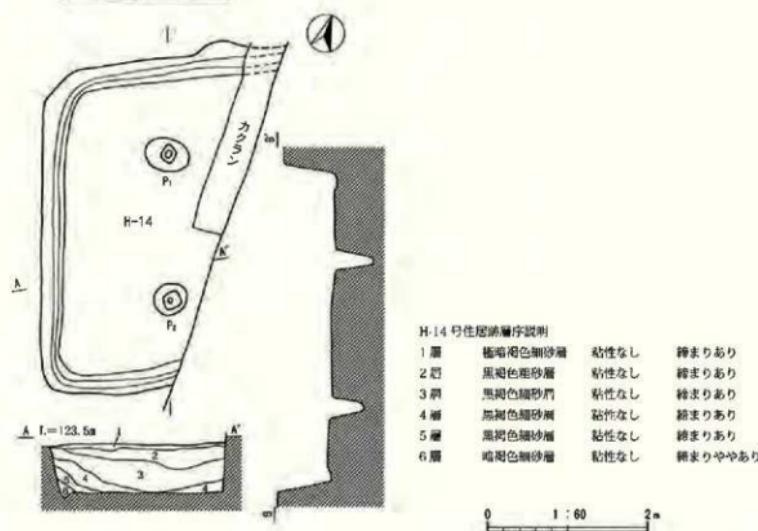
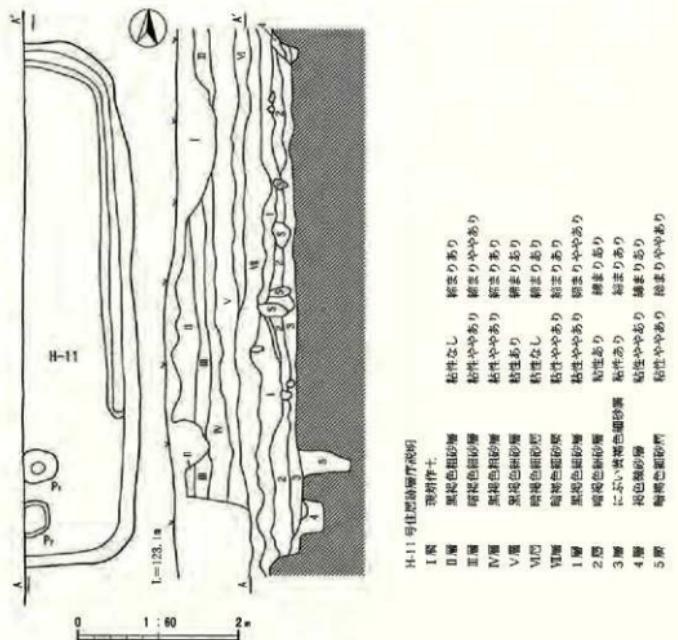


Fig.17 元続社古海遺跡群(40) 11—11・14号住居跡

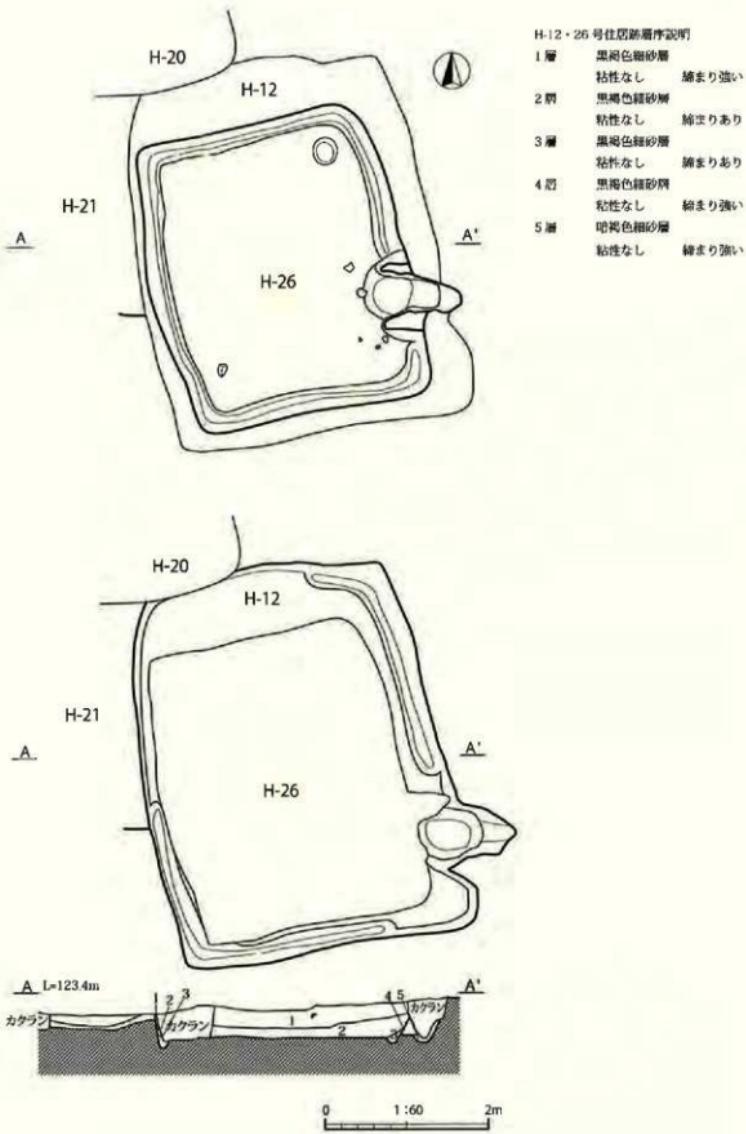


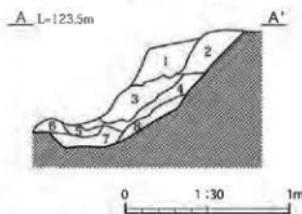
Fig.18 元總社黃面遺跡群(40) II-12・26号住居跡(1)

H-12カマド

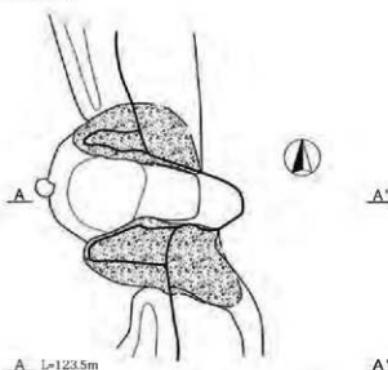


H-12号住居跡カマド層序説明

1層	暗褐色細砂層	粘性ややあり	縫まりあり
2層	褐色褐色細砂層	粘性ややあり	縫まりあり
3層	暗褐色細砂層	粘性なし	縫まり強い
4層	暗褐色細砂層	粘性ややあり	縫まりあり
5層	褐色褐色細砂層	粘性あり	縫まりあり
6層	黒褐色細砂層	粘性なし	縫まりあり
7層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	縫まりあり
8層	暗褐色細砂層	粘性なし	縫まりあり



H-26カマド



H-26号住居跡カマド層序説明

1層	暗褐色細砂層	粘性ややあり	縫まりあり
2層	黒褐色細砂層	粘性なし	縫まりあり
3層	暗赤褐色細砂層	粘性なし	縫まり強い
4層	黒褐色細砂層	粘性なし	縫まりあり
5層	黒褐色細砂層	粘性なし	縫まりあり
6層	極淡褐色細砂層	粘性なし	縫まりあり

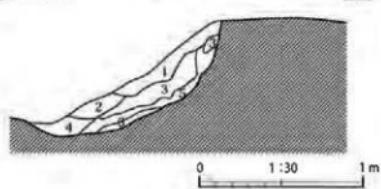


Fig.19 元経社蓄海遺跡群 (40) H 12・26号住居跡 (2)

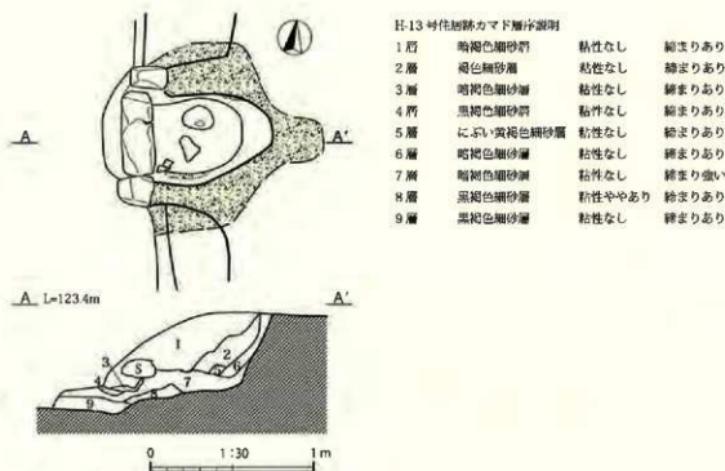
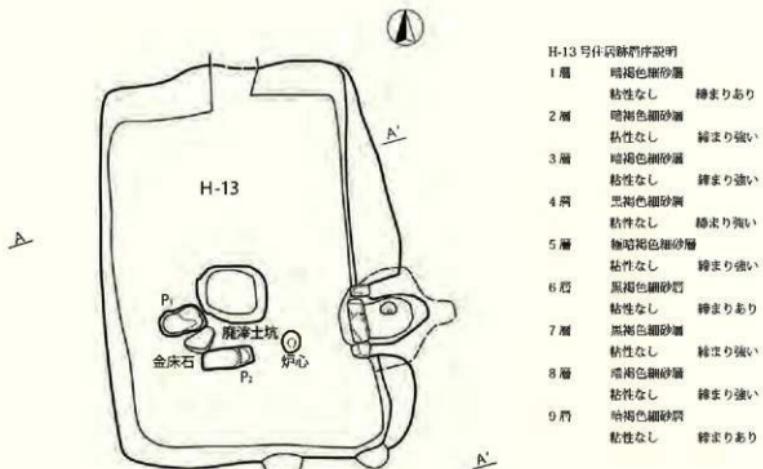
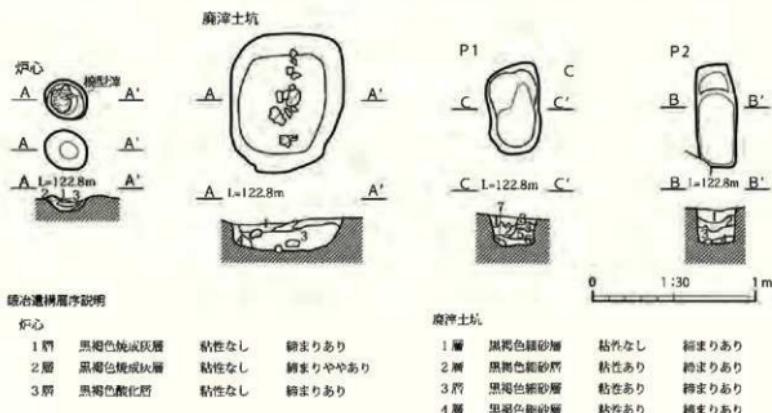


Fig.20 元経社沿海遺跡群 (40) H-13号住居跡



P1

1層	極暗褐色細砂層	粘性なし	綿まりあり
2層	にぶい黄褐色細砂層	粘性なし	綿まりあり
3層	黒褐色細砂層	粘性なし	綿まりあり
4層	暗褐色細砂層	粘性なし	綿まりあり
5層	黒褐色細砂層	粘性なし	綿まり強い
6層	黒褐色細砂層	粘性なし	綿まりあり

P2

1層	極暗褐色細砂層	粘性なし	綿まりあり
2層	黒褐色細砂層	粘性なし	綿まりあり
3層	にぶい黄褐色細砂層	粘性なし	綿まり強い
4層	暗褐色細砂層	粘性なし	綿まり強い

Fig.21 元總社資海遺跡群(40) H-13号住居跡、鍛冶遺構

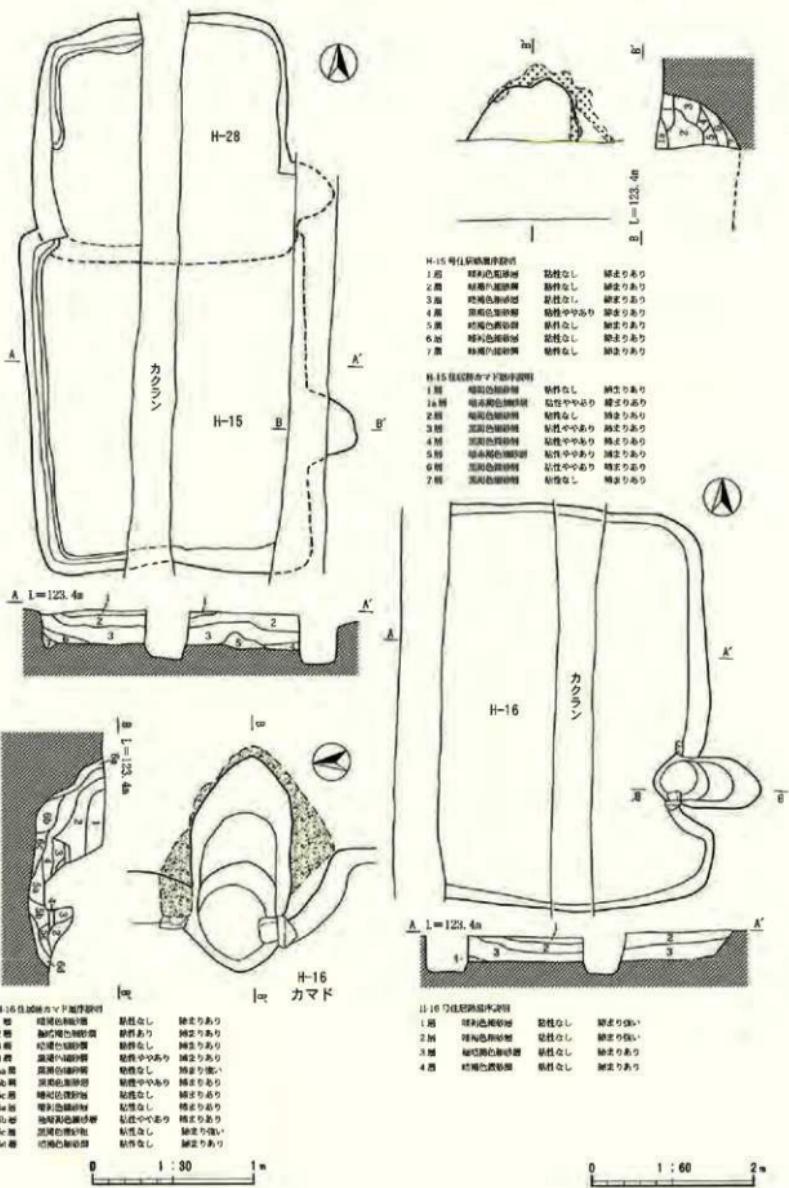


Fig.22 元總社古海遺跡群 (40) H 15・16・28号住居跡

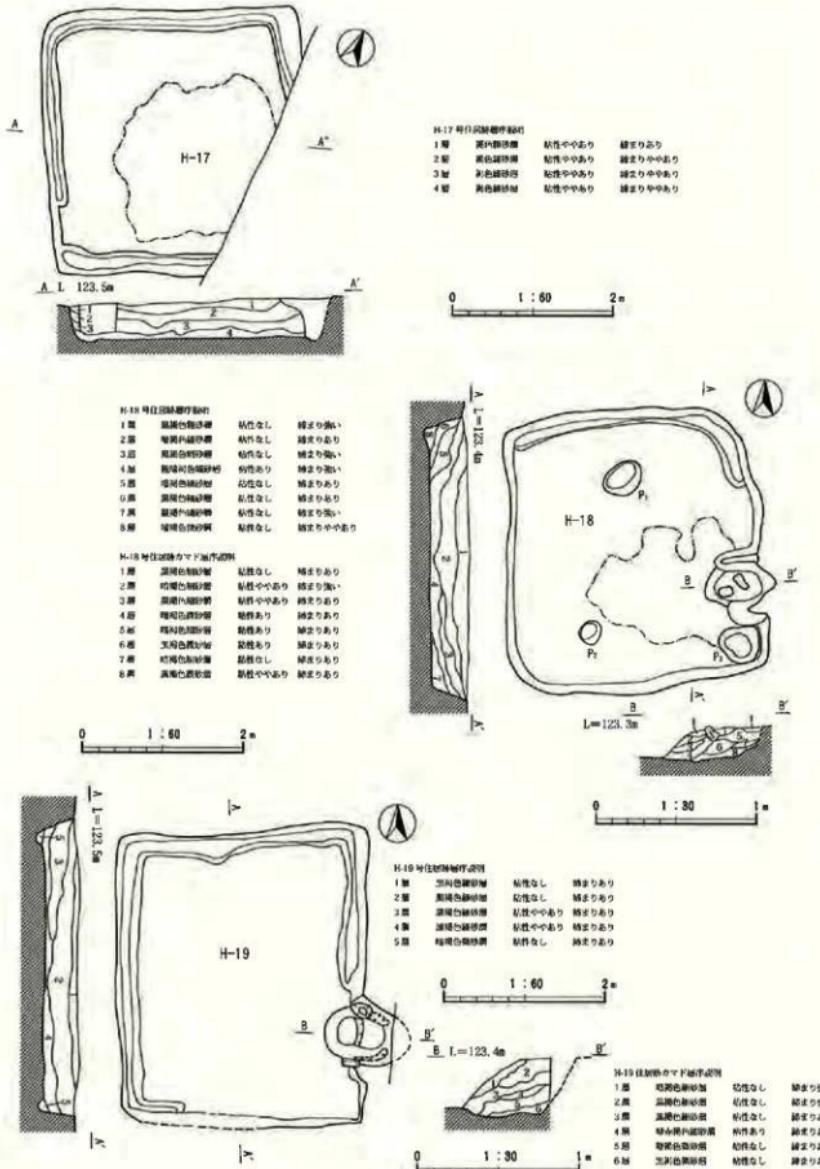


Fig.23 元總社蒼海遺跡群(40) H-17・18・19号住居跡

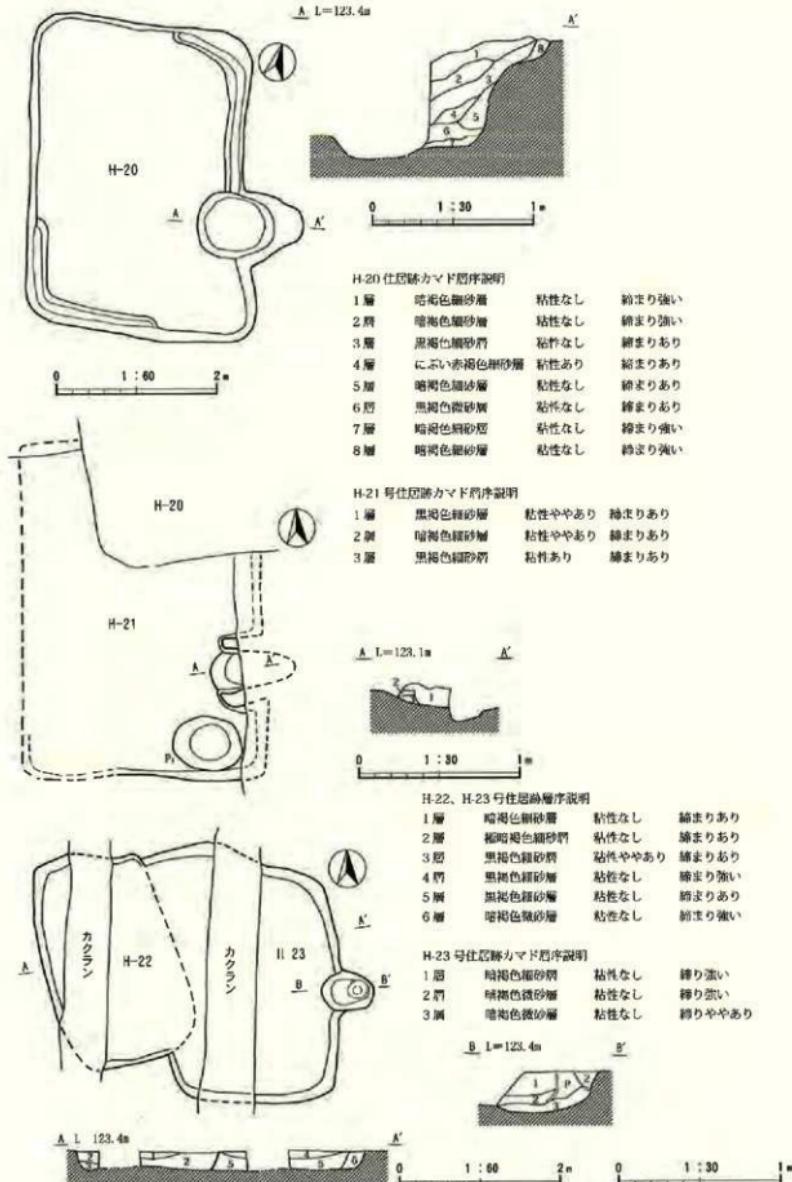
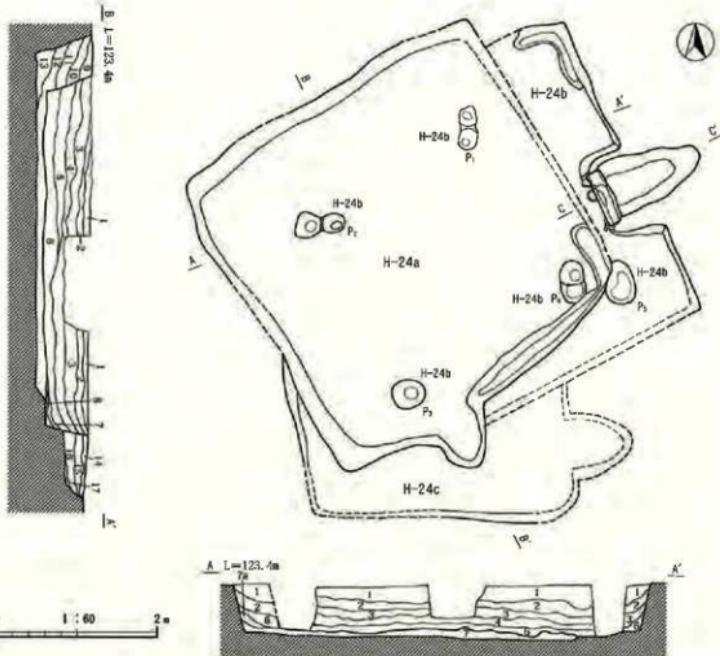


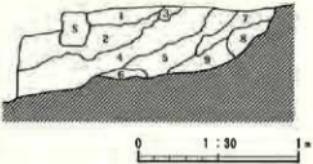
Fig.24 元總社蒼海遺跡群(40) H-20・21・22・23号住居跡



H-24号住居跡層序説明

1層	暗褐色粗砂層	粘性なし 縫まりあり
2層	暗褐色細砂層	粘性なし 縫まりあり
3層	黒褐色粗砂層	粘性なし 縫まりあり
4層	黒褐色細砂層	粘性ややあり 縫まり強い
5層	黒褐色細砂層	粘性ややあり 縫まりあり
6層	黒褐色細砂層	粘性ややあり 縫まりあり
7層	黒褐色細砂層	粘性あり 縫まりあり
7a層	黒褐色細砂層	粘性あり 縫まりあり
8層	黒褐色細砂層	粘性あり 縫まり強い
9層	黒褐色	粘性ややあり 縫まりあり
10層	黒褐色細砂層	粘性あり 縫まりあり
11層	黒褐色細砂層	粘性ややあり 縫まりあり
12層	黒褐色細砂層	粘性ややあり 縫まりあり
13層	黒褐色微砂層	粘性なし 縫まりあり
14層	暗褐色細砂層	粘性なし 縫まりあり
15層	暗褐色細砂層	粘性ややあり 縫まりあり
16層	黒褐色微砂層	粘性あり 縫まりあり
17層	黒褐色細砂層	粘性ややあり 縫まりあり

C-C' L=123.4m



H-24b号住居跡力マド層序説明

1層	暗褐色粗砂層	粘性なし 縫まりあり
2層	黒褐色細砂層	粘性なし 縫まりあり
3層	黒褐色細砂層	粘性なし 縫まりあり
4層	黒褐色細砂層	粘性なし 縫まりあり
5層	黒褐色細砂層	粘性ややあり 縫まりあり
6層	暗褐色細砂層	粘性なし 縫まりあり
7層	暗褐色細砂層	粘性なし 縫まりあり
8層	暗赤褐色微砂層	粘性なし 縫まりあり
9層	黒褐色細砂層	粘性あり 縫まりあり

Fig.25 元總社蒼海遺跡群(40) II-24号住居跡

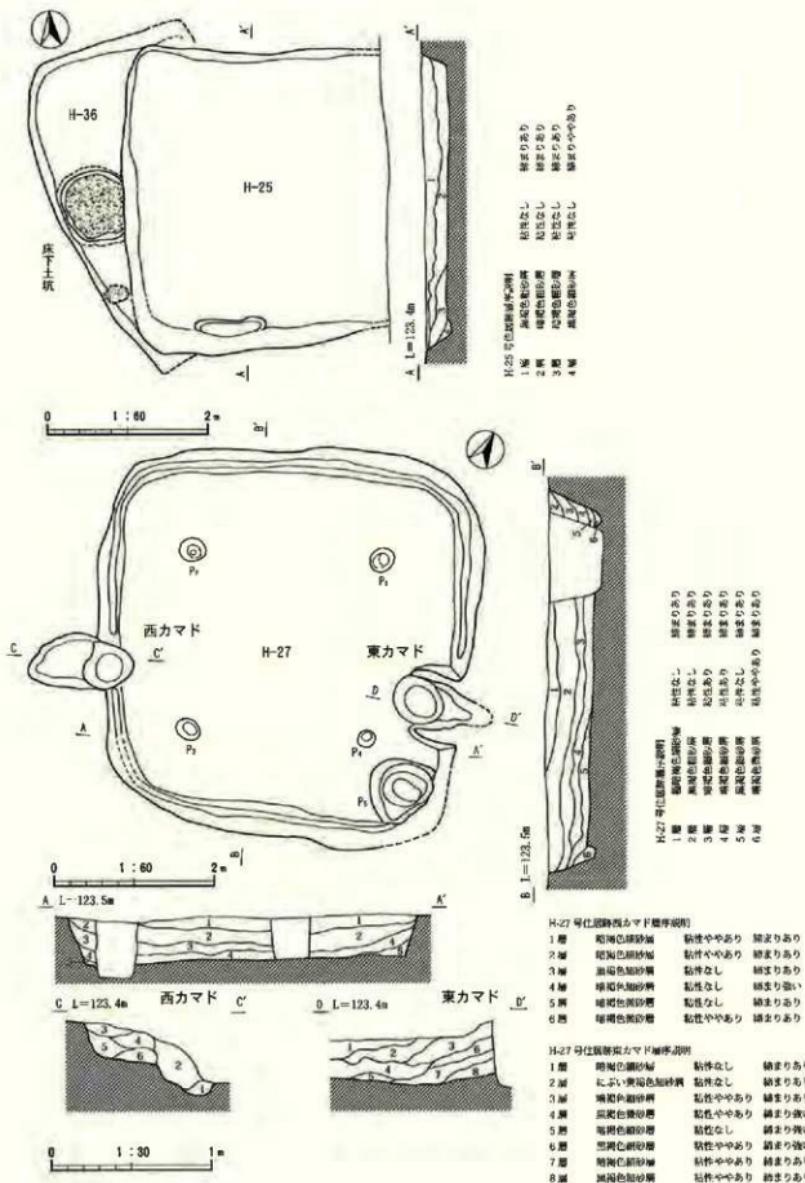
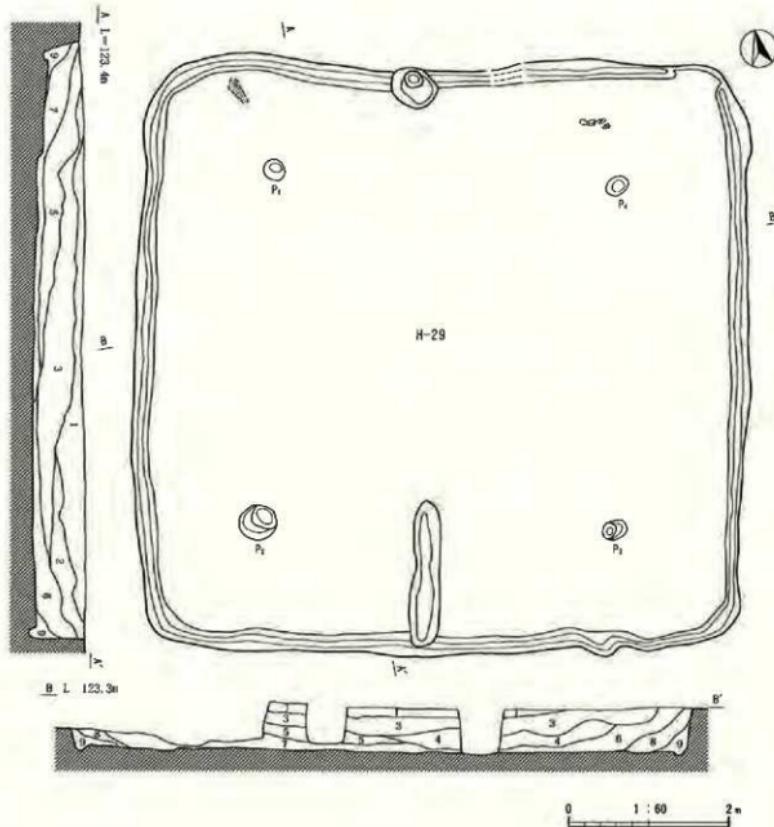


Fig.26 元總社舊海遺跡群 (40) H-25・27・36号柱底跡



H-29号住居跡東西断面図説明

1層	黒褐色粗砂層	粘性なし	縫まりあり
3層	暗褐色細砂層	粘性なし	縫まりあり
4層	暗褐色粗砂層	粘性なし	縫まりあり
5層	暗褐色細砂層	粘性なし	縫まりあり
6層	黒褐色細砂層	粘性なし	縫まりあり
7層	黒褐色細砂層	粘性なし	縫まりあり
8層	黒褐色微砂層	粘性なし	縫まりあり
9層	暗褐色微砂層	粘性なし	縫まりあり

H-29号住居跡南北断面図説明

1層	黒褐色粗砂層	粘性なし	縫まりあり
2層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	縫まりあり
3層	暗褐色細砂層	粘性なし	縫まりあり
5層	暗褐色細砂層	粘性なし	縫まりあり
6層	黒褐色細砂層	粘性なし	縫まりあり
7層	黒褐色細砂層	粘性なし	縫まりあり
9層	暗褐色微砂層	粘性なし	縫まりあり

Fig.27 元老社舊海造跡群(40) H-29号住居跡

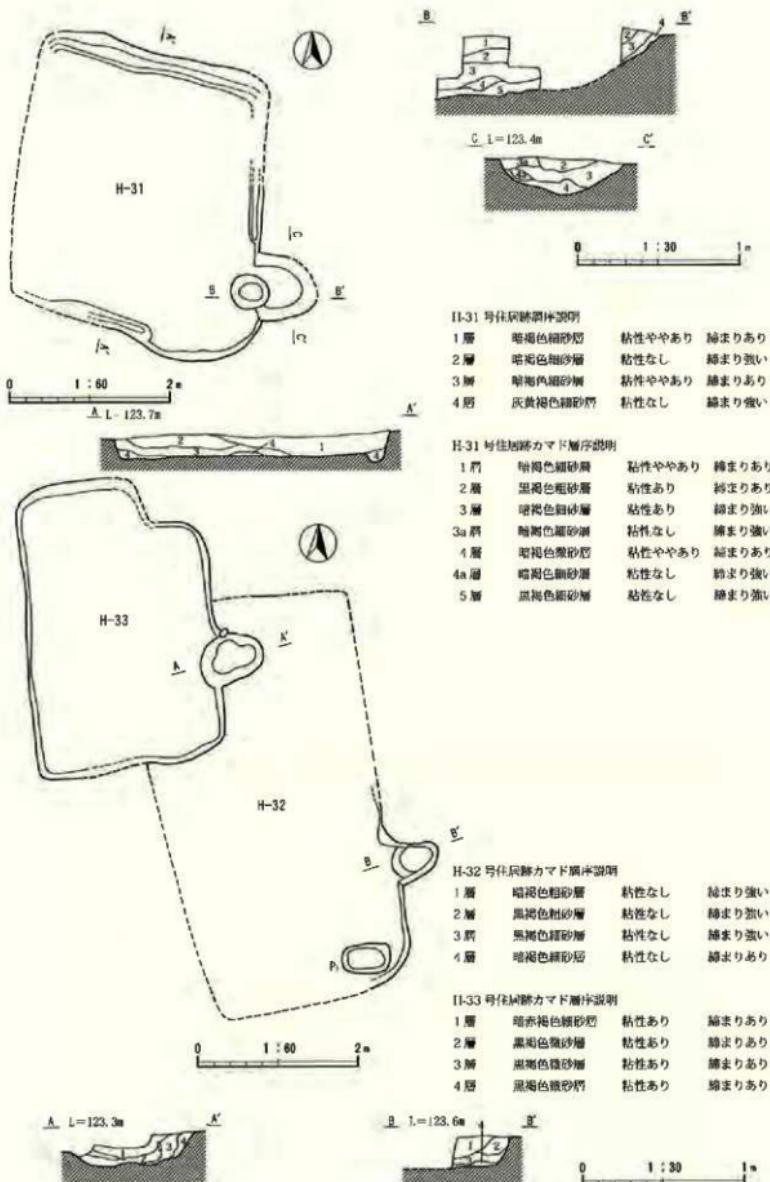


Fig.28 元続社舊跡遺跡群(40) H-31・32・33号住居跡

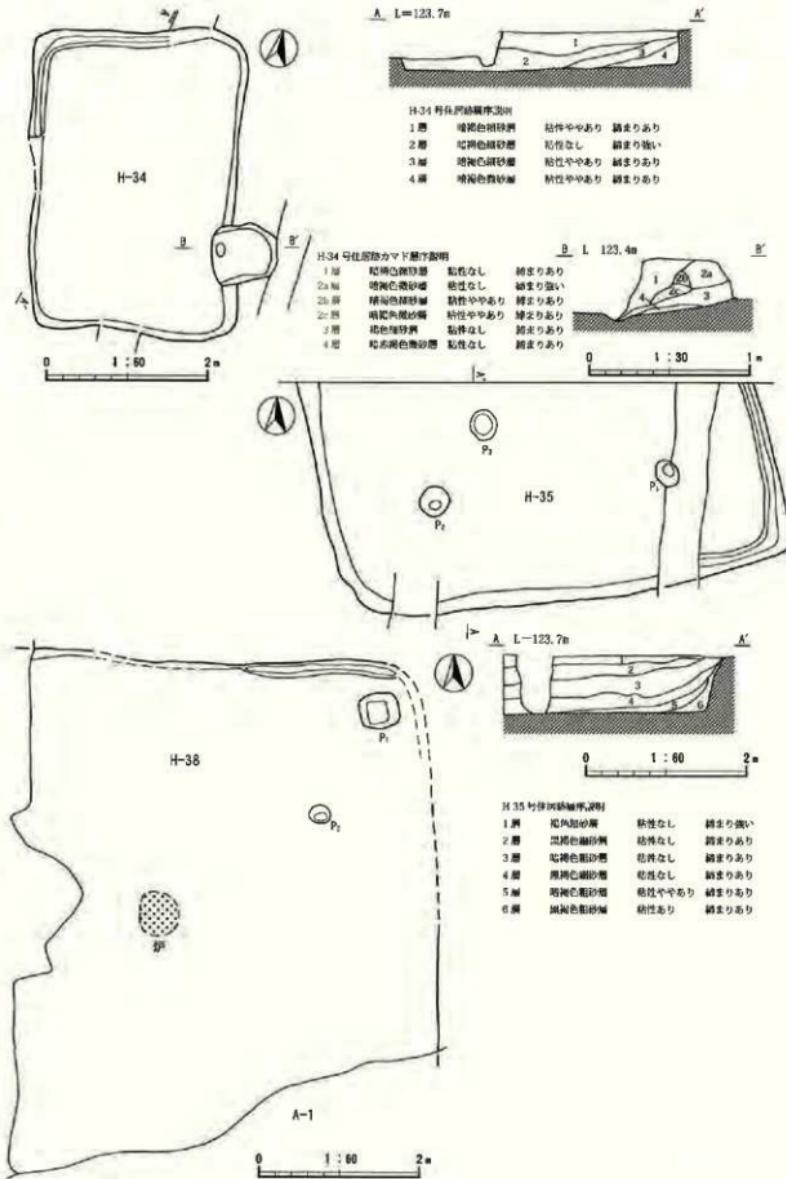


Fig.29 元老社舊海遺跡群(40) H-34・35・38号住居跡

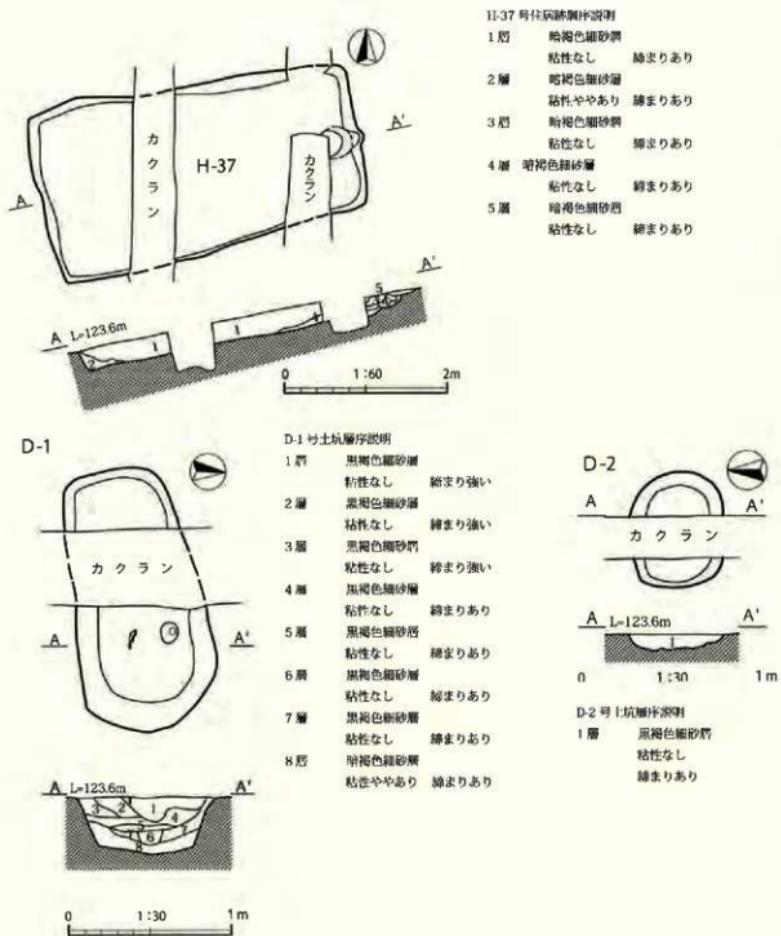
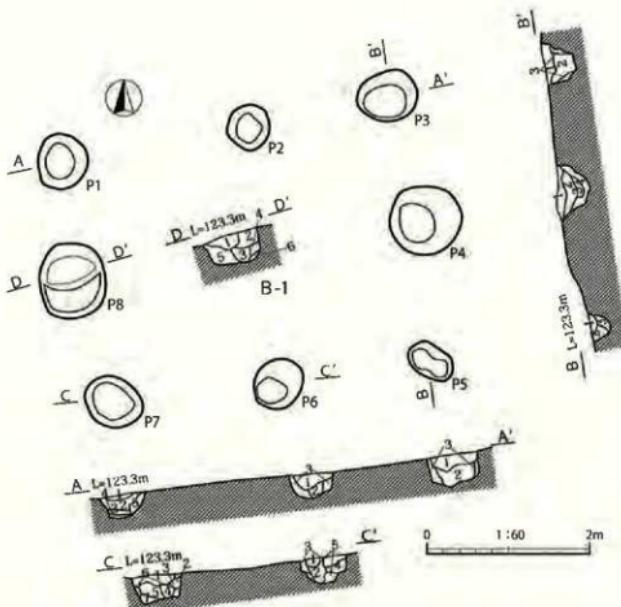


Fig.30 元總社舊海遺跡群(40) H-37号住居跡、D-1・2号土坑



B-1号掘立柱建物跡層序説明

P 1			P 4		
1層	暗褐色細砂層	粘性なし	縫まりあり	1層	黒褐色細砂層
2層	暗褐色細砂層	粘性なし	縫まりあり	2層	極暗褐色細砂層
3層	黒褐色細砂層	粘性なし	縫まりあり	3層	黒褐色細砂層
4層	極暗褐色細砂層	粘性なし	縫まりあり	4層	黒褐色細砂層
5層	暗褐色細砂層	粘性なし	縫まりあり	5層	極暗褐色細砂層
P 2			P 5		
1層	黒褐色細砂層	粘性あり	縫まりあり	1層	暗褐色細砂層
2層	極暗褐色細砂層	粘性あり	縫まりあり	2層	暗褐色細砂層
3層	暗褐色細砂層	粘性ややあり	縫まりあり	3層	暗褐色細砂層
4層	黒褐色細砂層	粘性なし	縫まりあり	P 6	
5層	暗褐色細砂層	粘性なし	縫まりあり	1層	暗褐色細砂層
6層	極暗褐色細砂層	粘性なし	縫まりあり	2層	暗褐色細砂層
P 3			P 6		
1層	暗褐色細砂層	粘性なし	縫まりあり	1層	暗褐色細砂層
2層	黒褐色細砂層	粘性なし	縫まりあり	2層	暗褐色細砂層
3層	暗褐色細砂層	粘性なし	縫まりあり	3層	黒褐色細砂層
4層	暗褐色細砂層	粘性なし	縫まりあり	4層	暗褐色細砂層
5層	暗褐色細砂層	粘性なし	縫まりあり	P 7	
6層	暗褐色細砂層	粘性なし	縫まりあり	1層	暗褐色細砂層
				2層	暗褐色細砂層
				3層	黒褐色細砂層
				P 8	
				1層	暗褐色細砂層
				2層	暗褐色細砂層
				3層	黒褐色細砂層

Fig.31 元続社黃海遺跡群(40) B-1号掘立柱建物跡

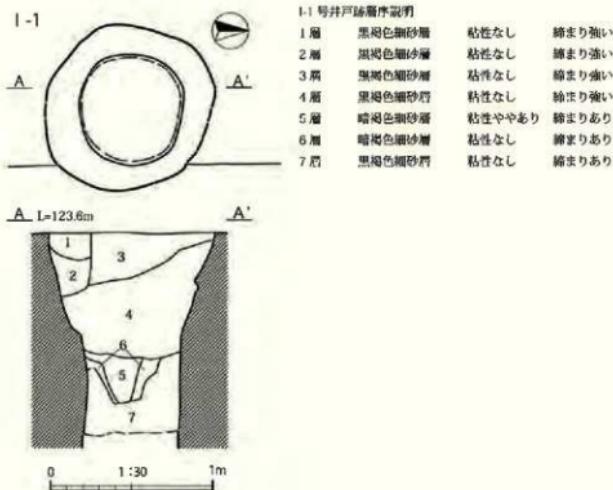


Fig.32 元経社蒼海遺跡群(40) I-1号井戸跡

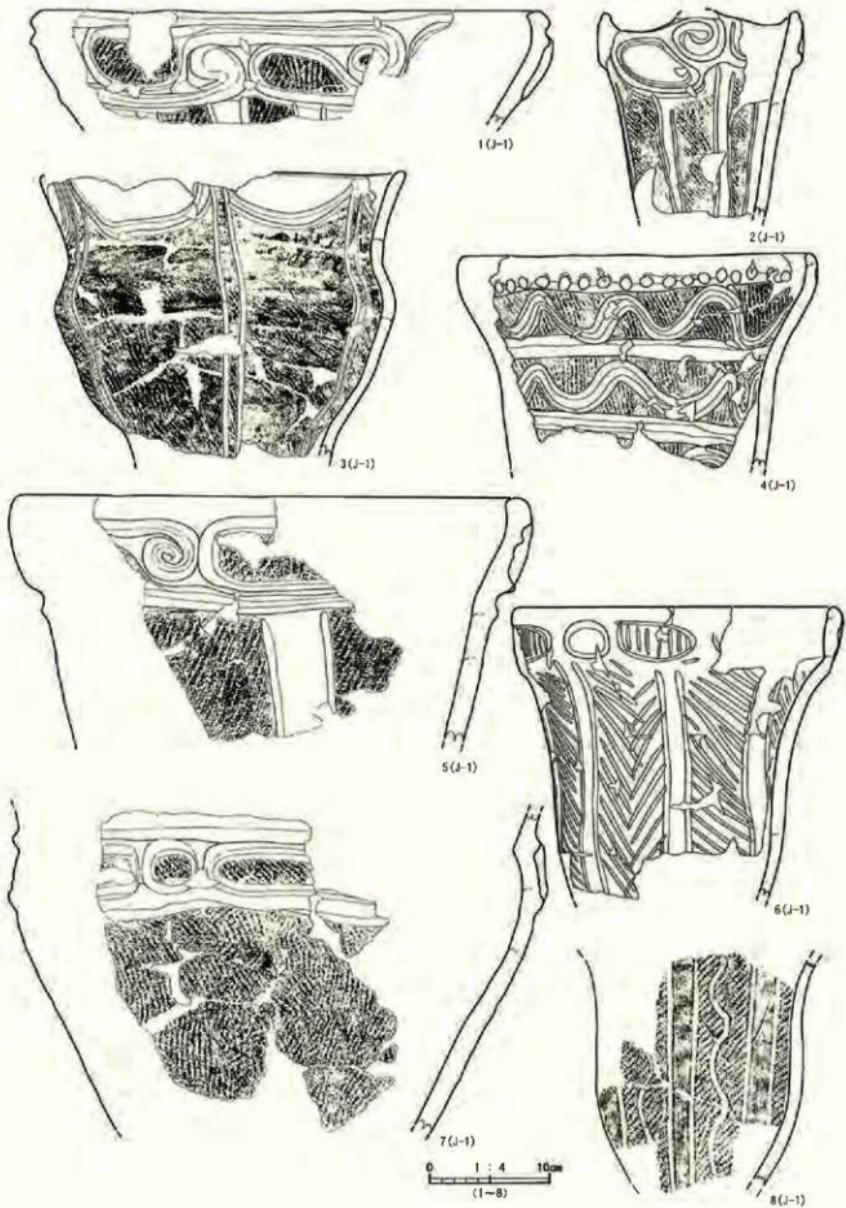


Fig.33 元總社舊海遺跡群 (40) 聖義時代出土遺物・上器 (1)

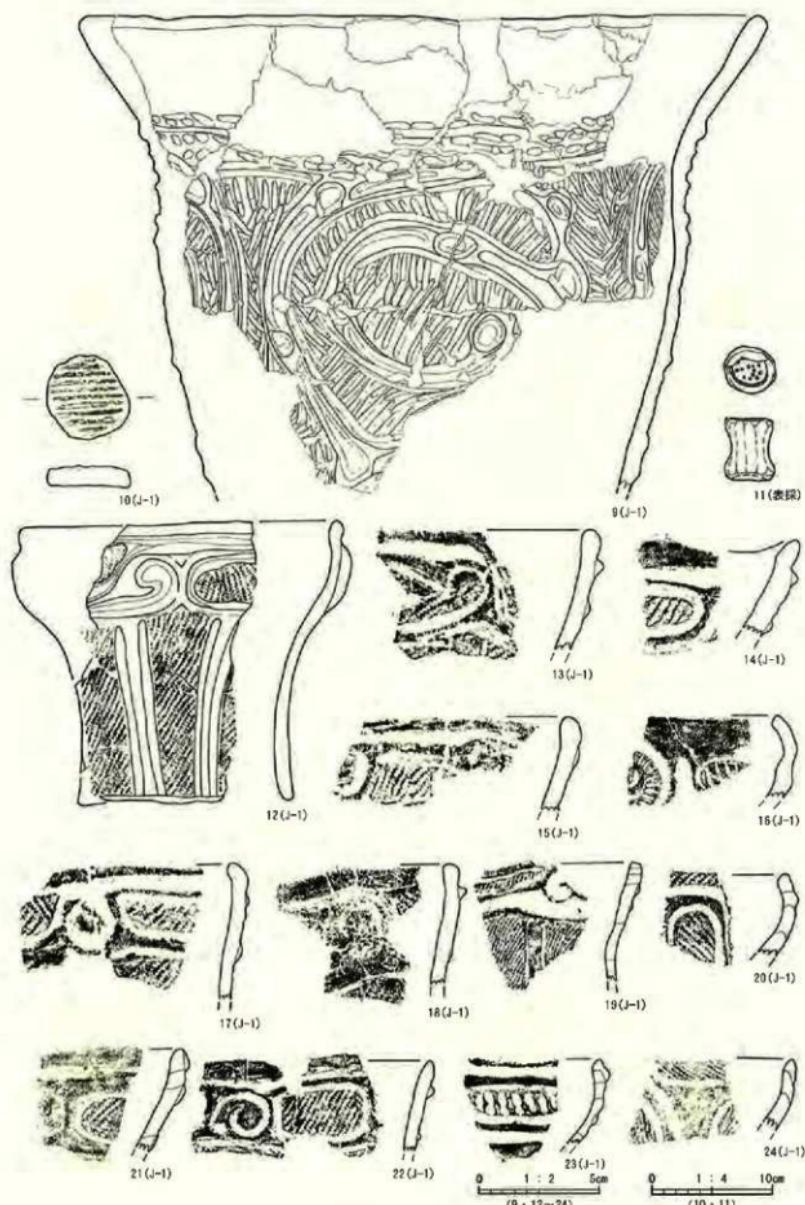


Fig.34 元慈社蒼海遺跡群(40) 繩文時代出土遺物・土器(2)

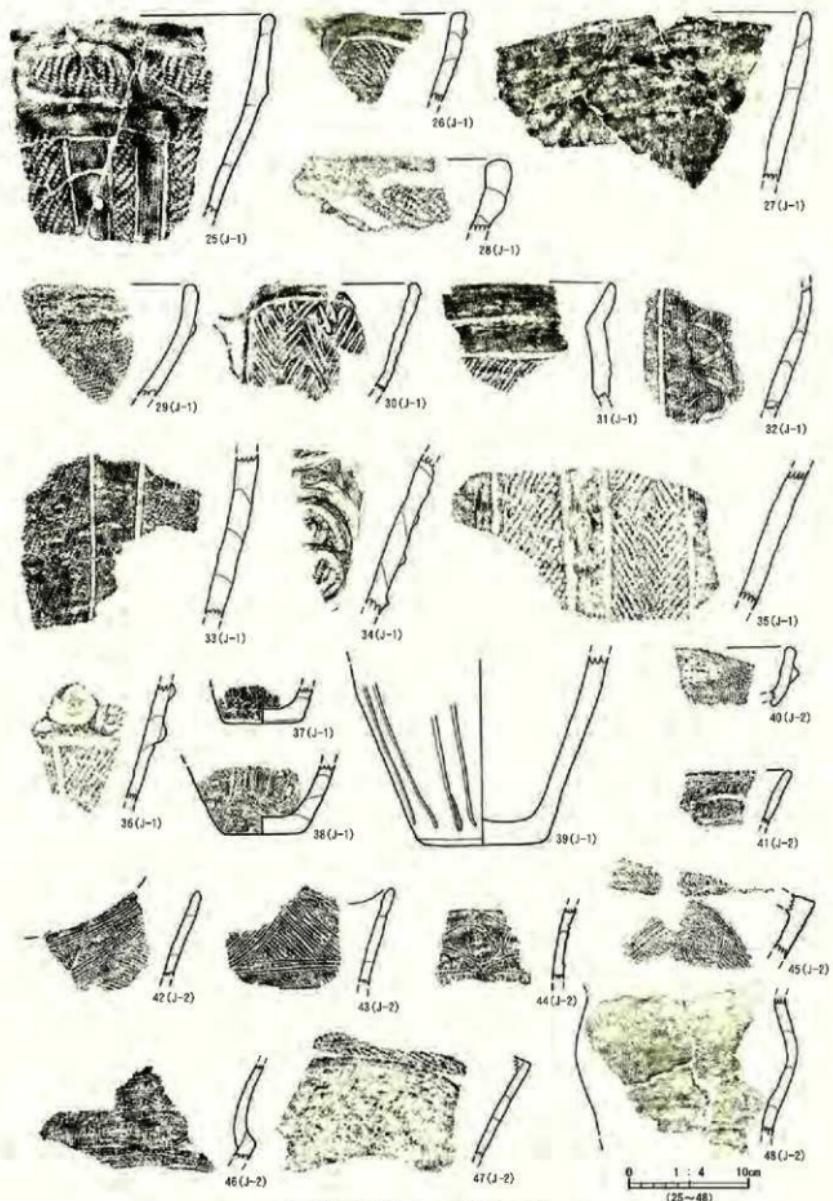


Fig.35 元競社黃海遺跡群(40) 錄文時代出土遺物・土器(3)

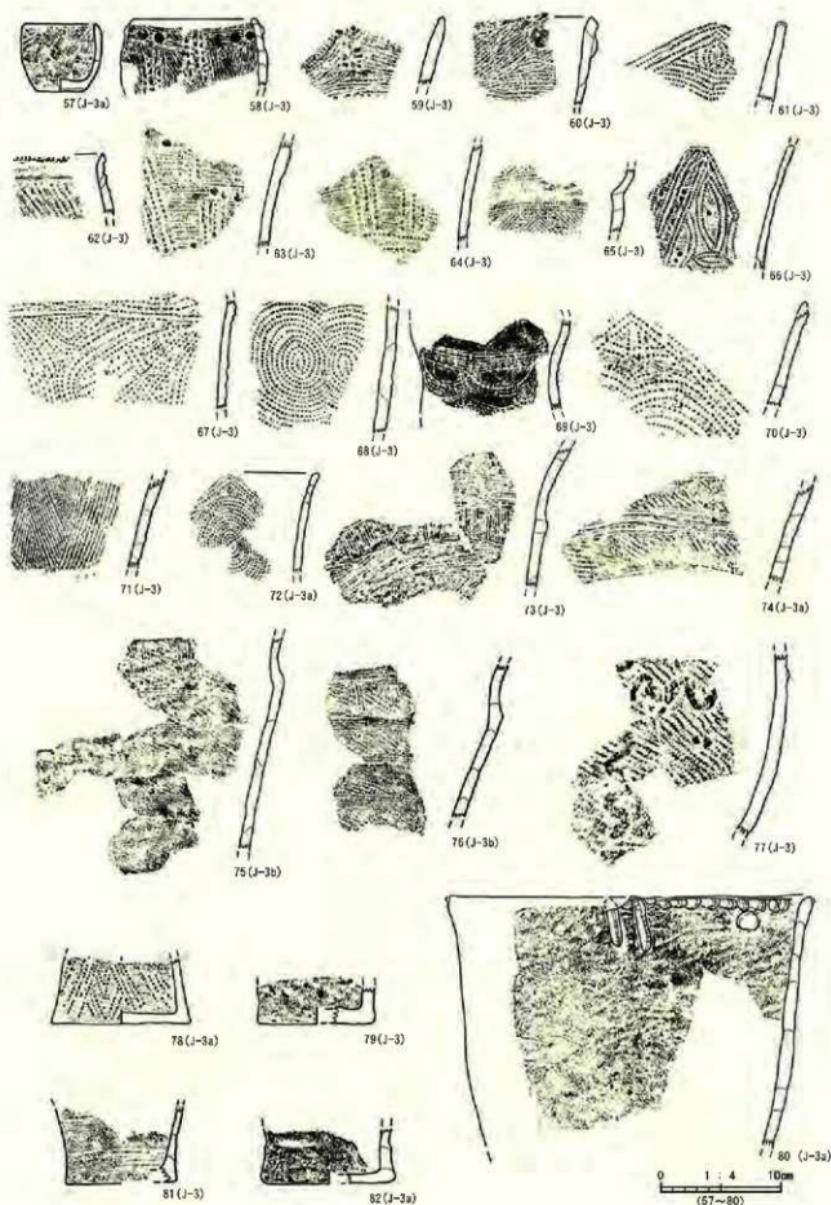


Fig.36 元紹社蒼海遺跡群(40) 鑄文時代川上遺物・土器(4)

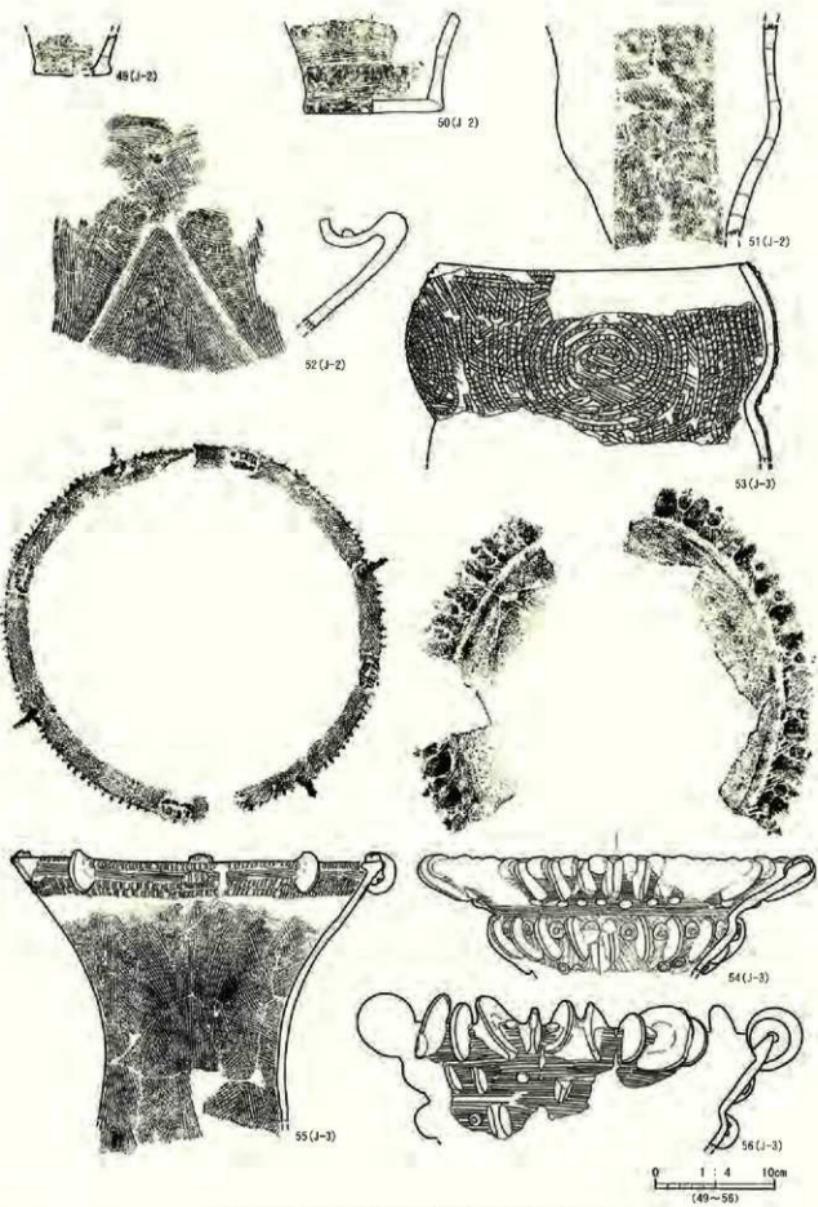


Fig.37 元總社舊海遺跡群(40) 鎌文時代出土遺物・土器(5)

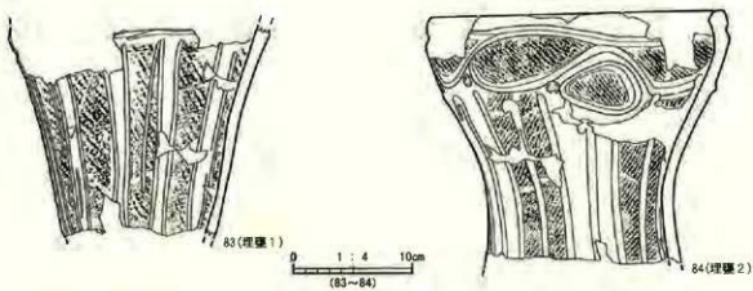


Fig.38 元總社舊海遺跡群(40) 繩文時代出土遺物・土器(6)

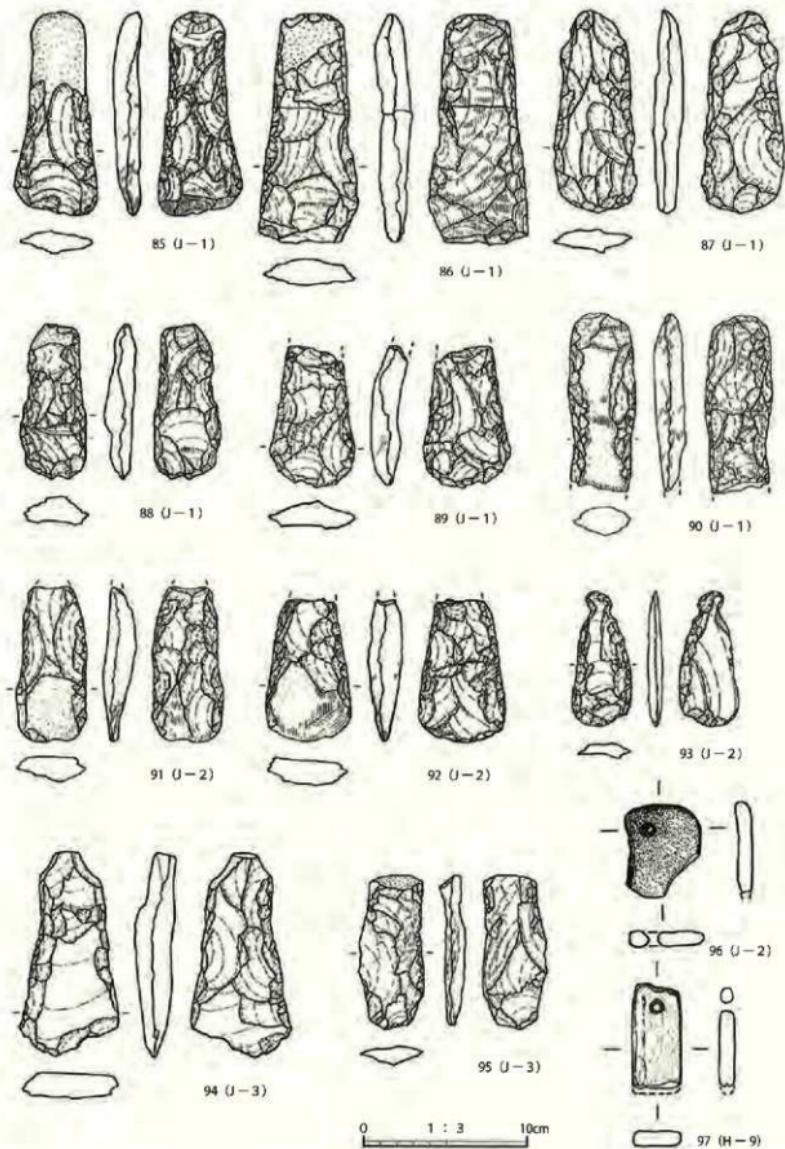


Fig.39 元龜社呂海遺跡群(40) 鋪文時代出土遺物・石器(1)

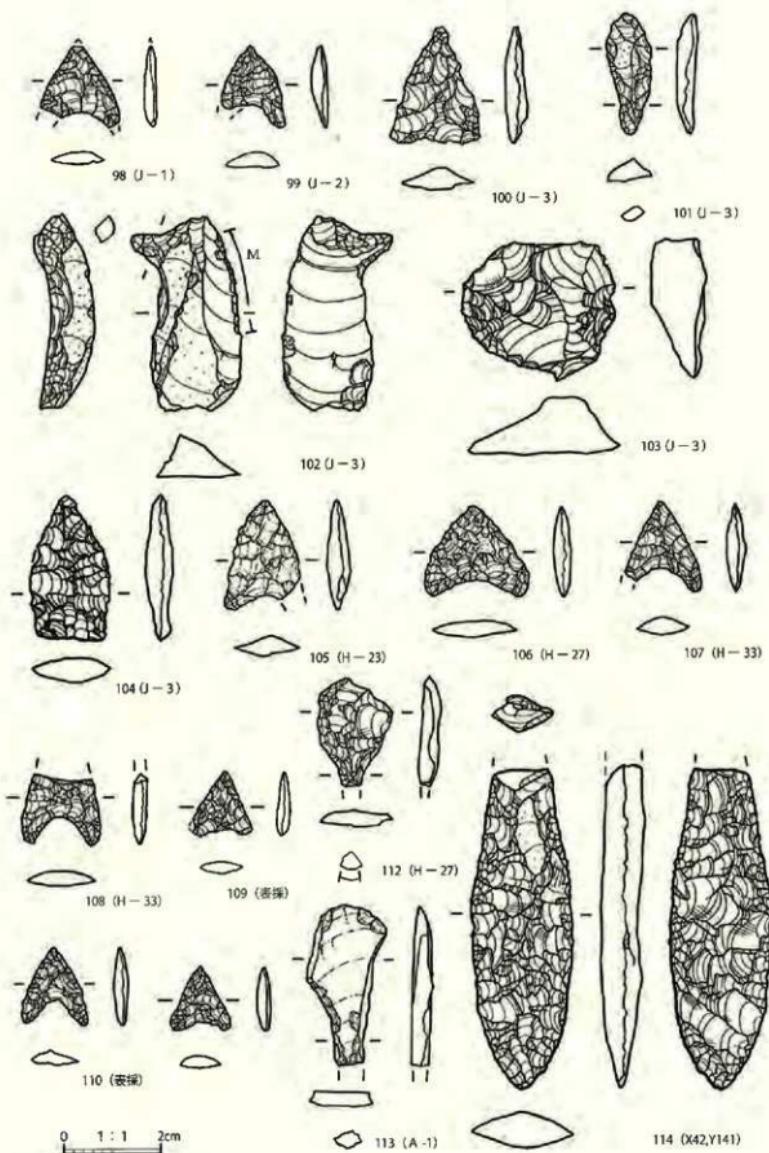


Fig.40 元總社舊海道跡群(40) 鐘文時代出土遺物・石器(2)

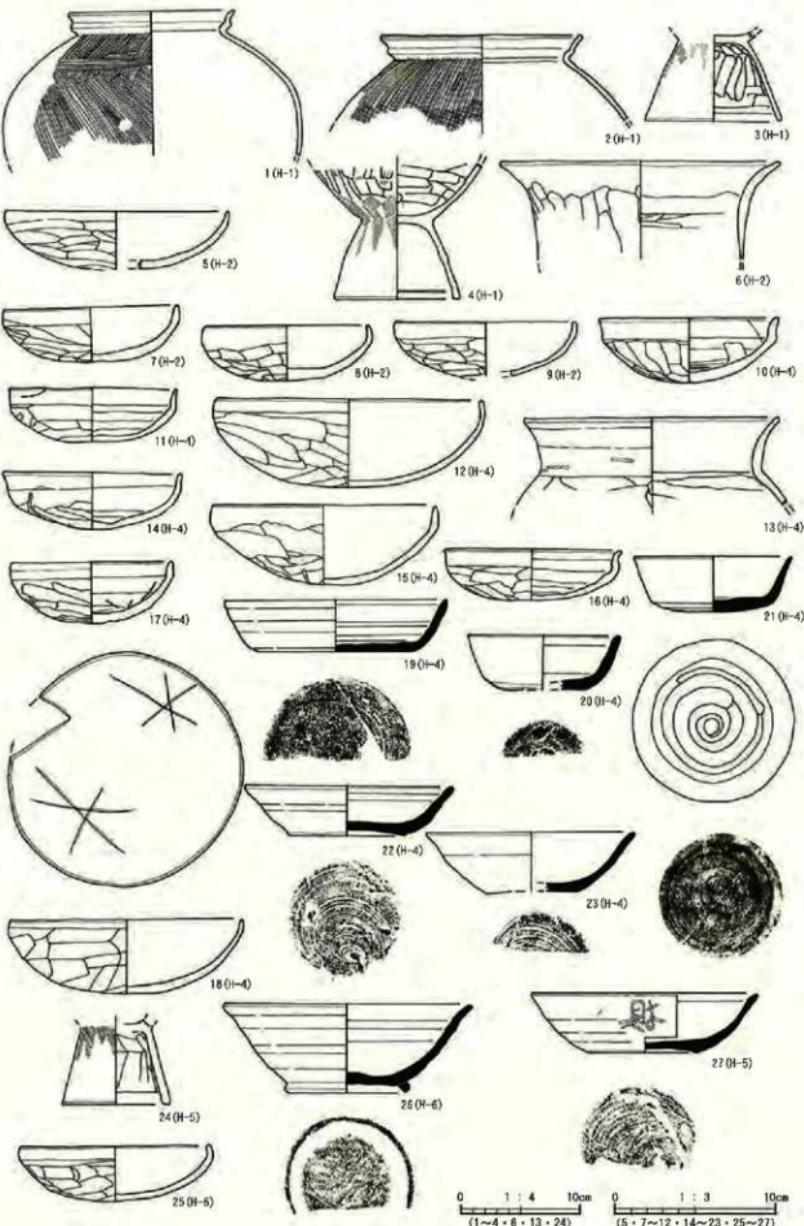


Fig.41 元綱社海遺跡群(40)出土遺物(1)

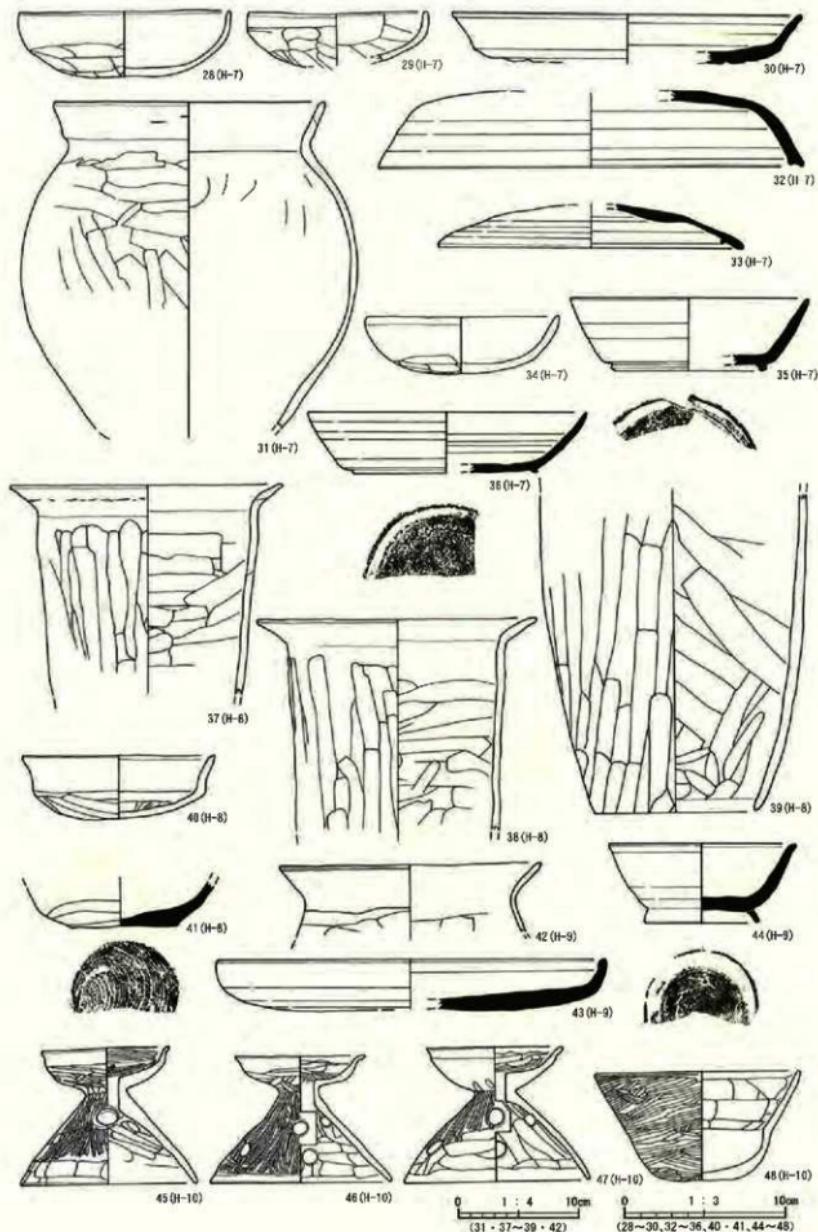


Fig.42 元總社蒼海遺跡群（40）出土遺物（2）

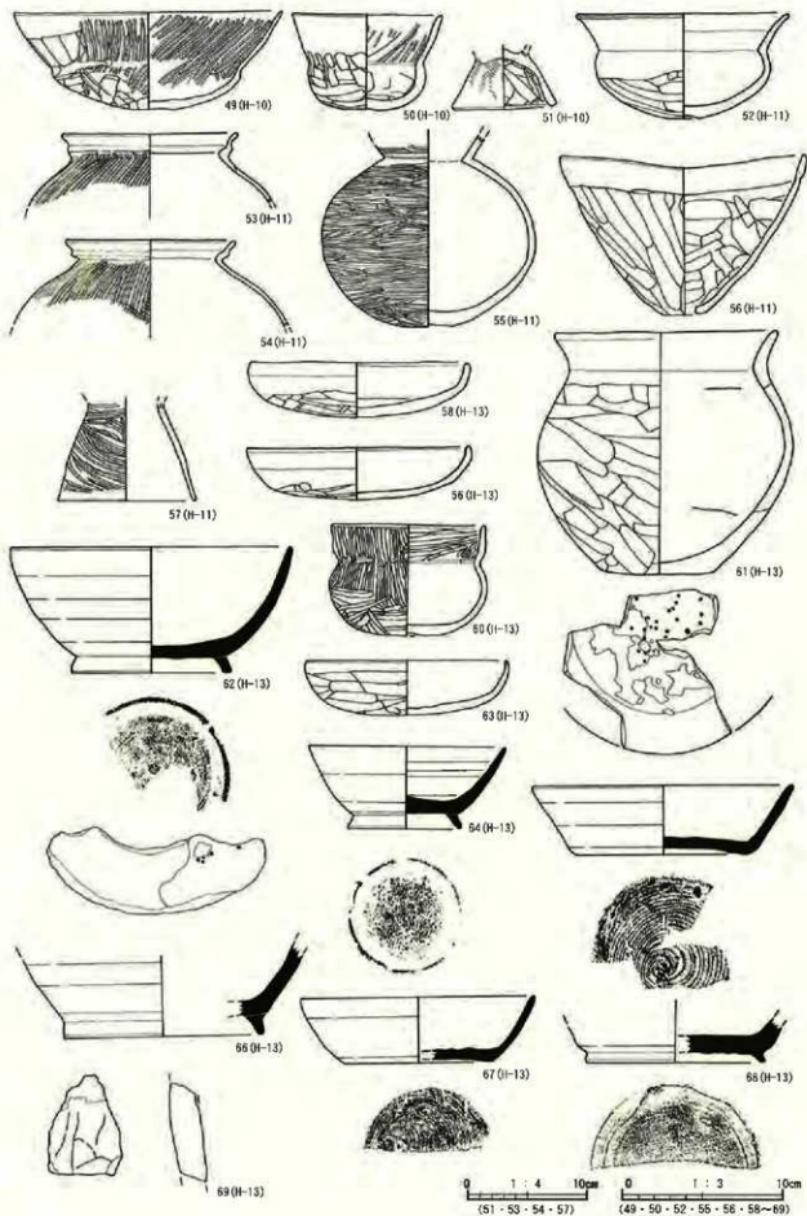


Fig.43 元統計齊御遺跡群(40)出土遺物(3)

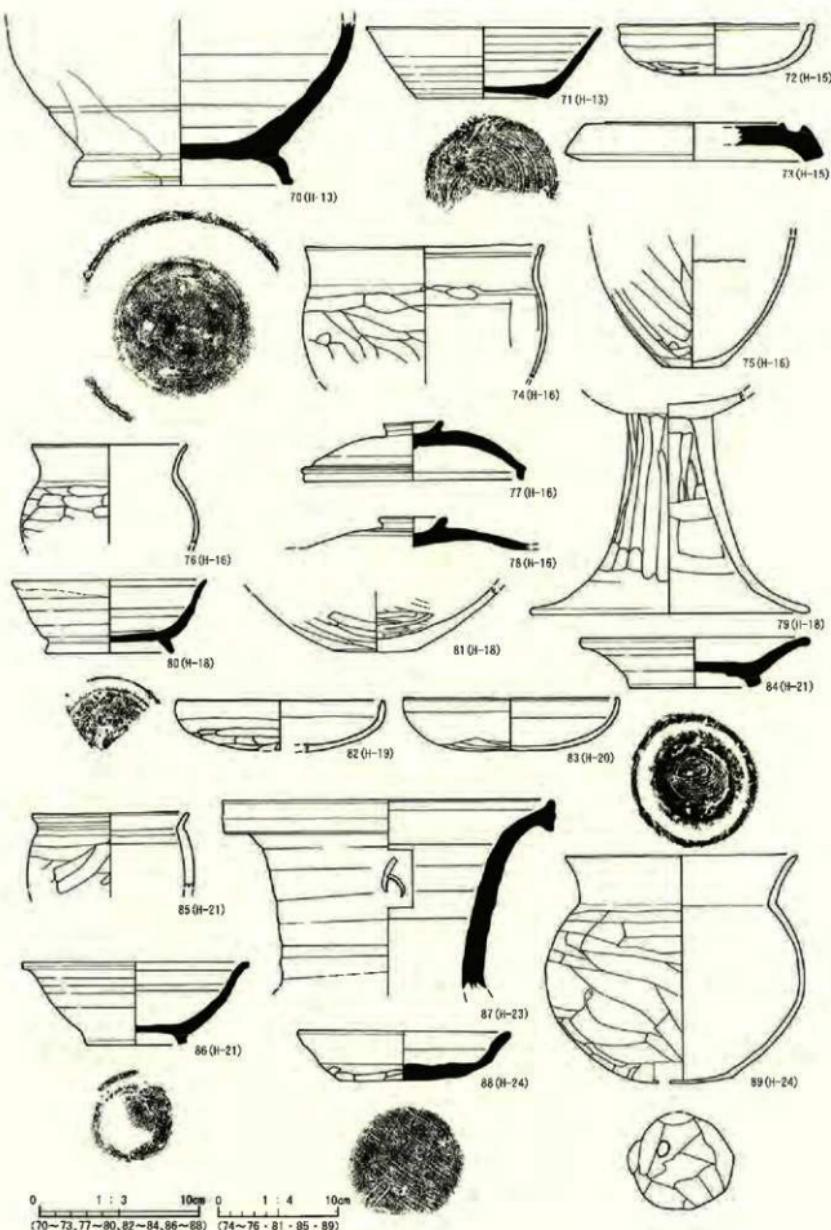


Fig.44 元続杜蒼沟遺跡群(40)出土遺物(4)

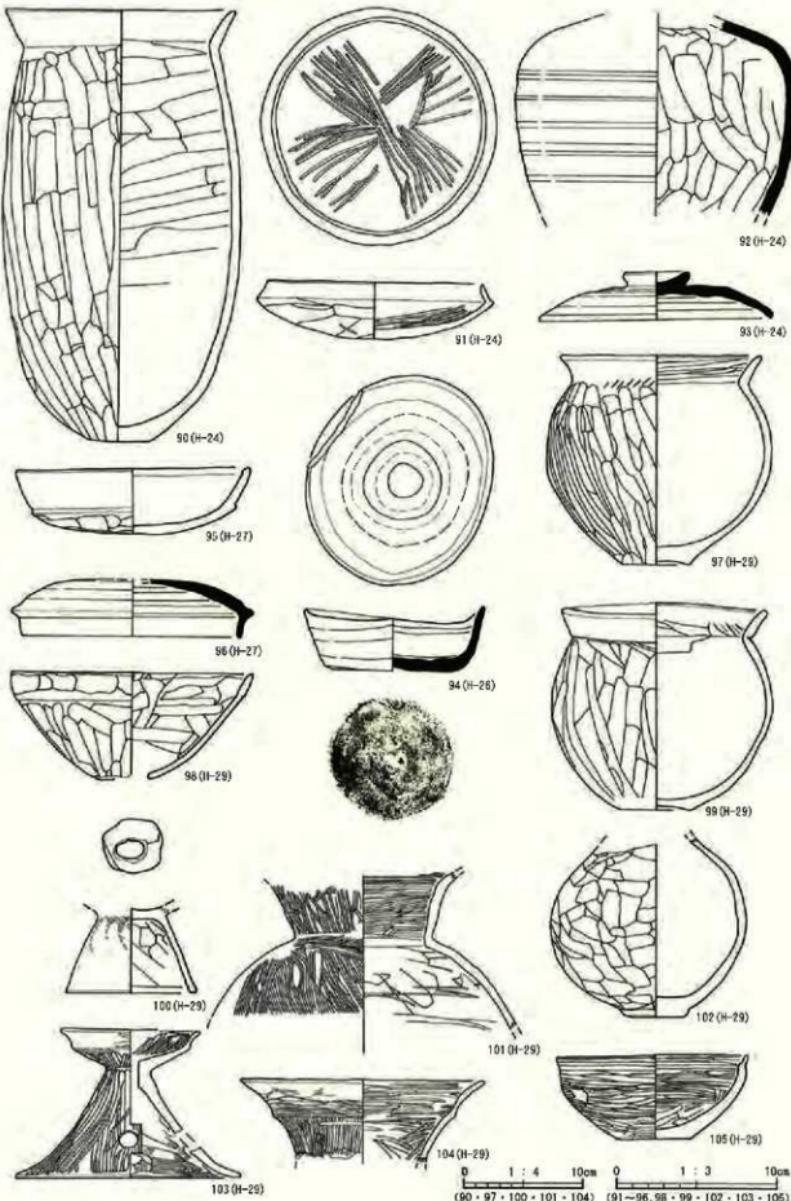


Fig.45 元続社舊跡遺跡群(40)出土遺物(5)

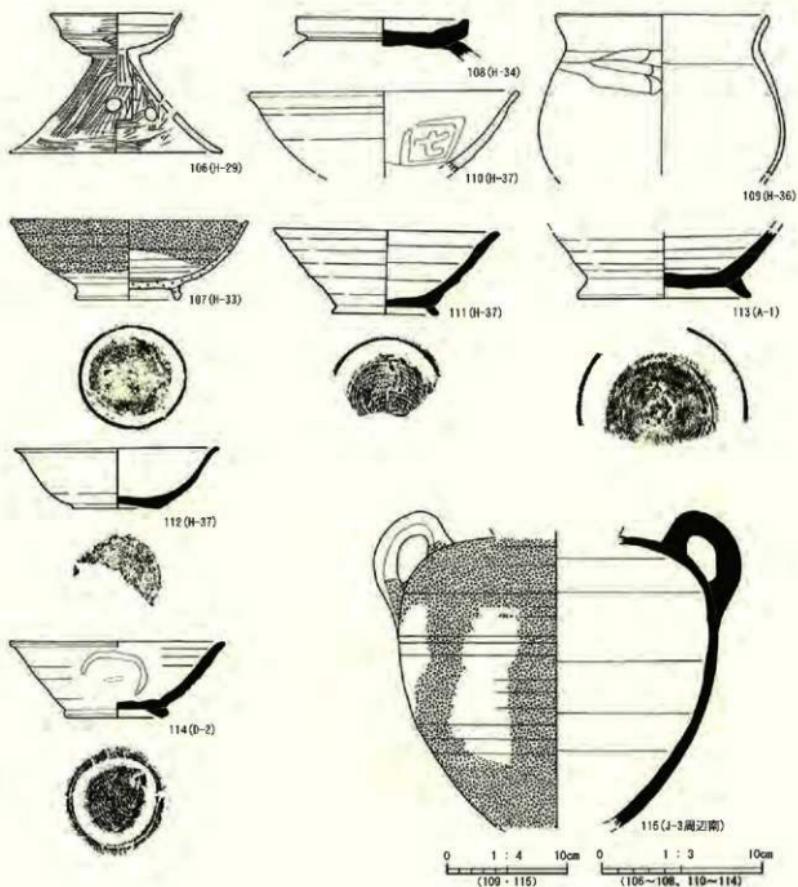


Fig.46 元紀社蒼海遺跡群(40)出土遺物(6)

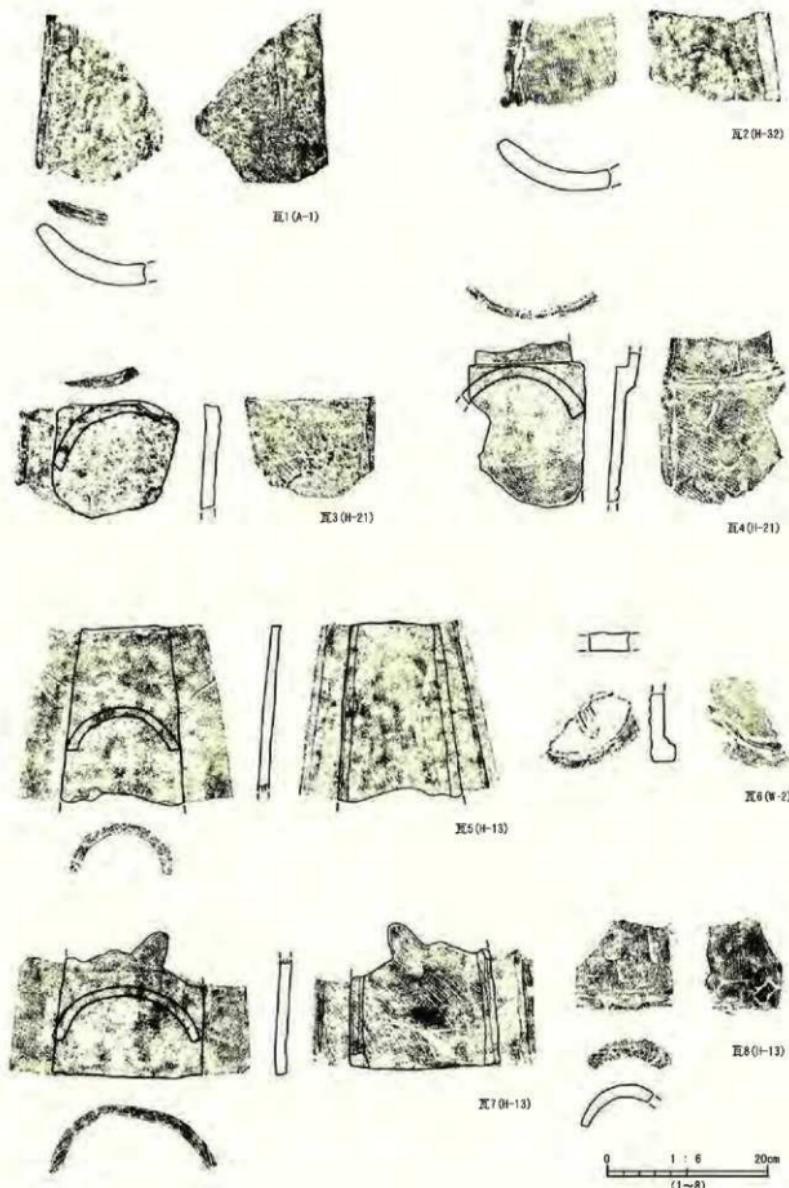


Fig.47 元總社舊海遺跡群（40）出土瓦

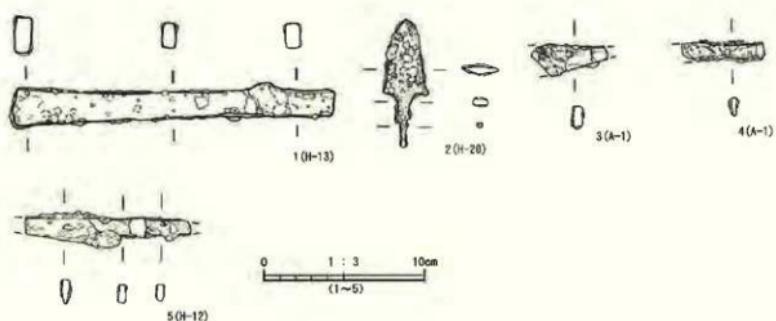


Fig. 48 元總社舊海遺跡群 (40) 出土鐵製品

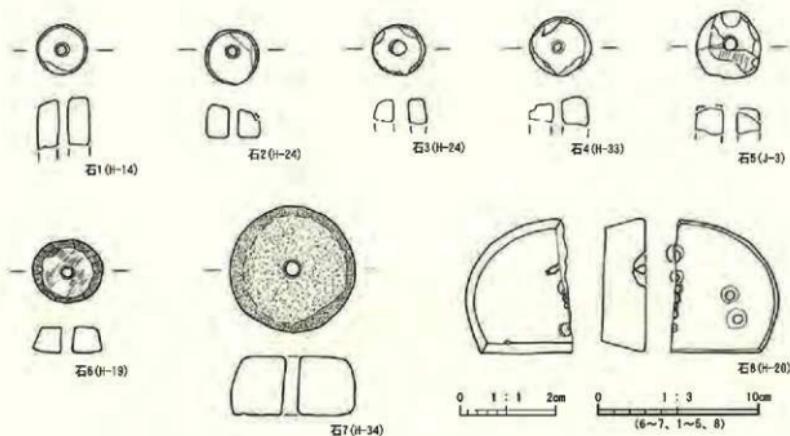


Fig. 49 元總社舊海遺跡群 (40) 出土石製品

V 元総社蒼海遺跡群（46）

1 調査区の概要

本調査区は推定上野園分尼寺跡の南東方に位置し、標高約125m程を図る。

本調査区の発掘調査は、住居移転及び工事の兼ね合いから、路線中央部への下水施設の敷設に伴う立会い調査後の実施となった。その際、南北の工事区の北半分は遺構確認面を抜く産業廃棄物等を充填するカクランが存在、東西工事区では遺構は確認されなかった。立会い調査及び過去の調査である斎海遺跡群(24)31区の結果から遺構の存在が希薄であったため、比較的調査面積の取れる東西調査区の北側、東西15.6m×南北3.0mを発掘調査することとし、竪穴住居跡が1軒、時期不明の井戸跡1基を検出した。

2 基本層序

I層	黒褐色細砂層	耕作土。
II層	黒褐色粗砂層	斑鉄を確認。
III層	黒褐色粗砂層	II層に酷似。斑鉄が認められない。
IV層	黒褐色粗砂層	砂層ブロック混入。Hr FP混入。
V層	黒褐色粗砂層	IV層に酷似。Hr-FP、As-C混入。
VI層	黒褐色細砂層	As-C混入。
VII層	暗褐色細砂層	純粋砂層。
※	遺構はVI層を掘り込む。	

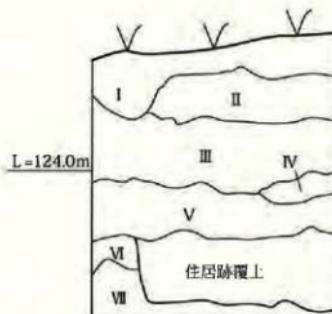


Fig.50 元總社斎海遺跡群(46) 基本層序

3 遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.54、PL.19)

位置 X52+53、Y101+102グリッド 主軸方向 N-109°-E 形状等 角丸方形 東西(4.32)m、南北(3.37)m、壁厚36.0cm 面積 7.72m² 床面 ほぼ平坦である。重複なし 隕 主軸方向N-106°-E 全長84.5cm、最大幅81.3cm、焚口部幅38.7cm。出土遺物 土師器、須恵器、灰釉陶器片、瓦 時期 10世紀前半

(2) 井戸跡

I-1号井戸跡 (Fig.54、PL.19)

位置 X50、Y102グリッド 形状等 円形 上幅(1.14)m×(1.02)m、深さ(2.2)m。ロート状に開口し、ほぼ垂直に掘り込まれる。重複なし 出土遺物 須恵器片、土師器・坏片 時期 出土遺物からは7世紀第3四半期

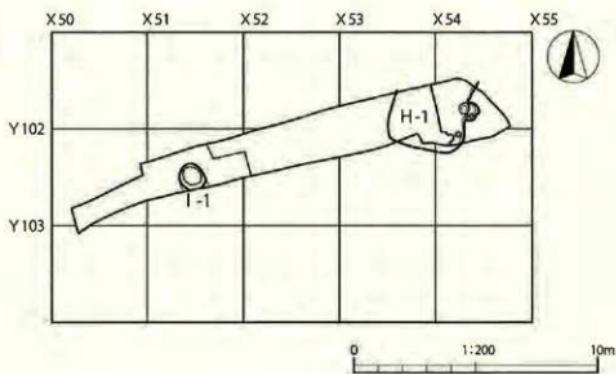


Fig.51 元總社舊海遺跡群（46）調査区全体図

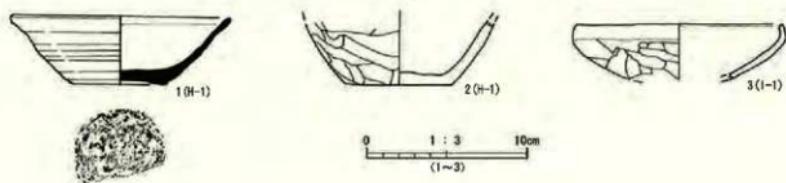
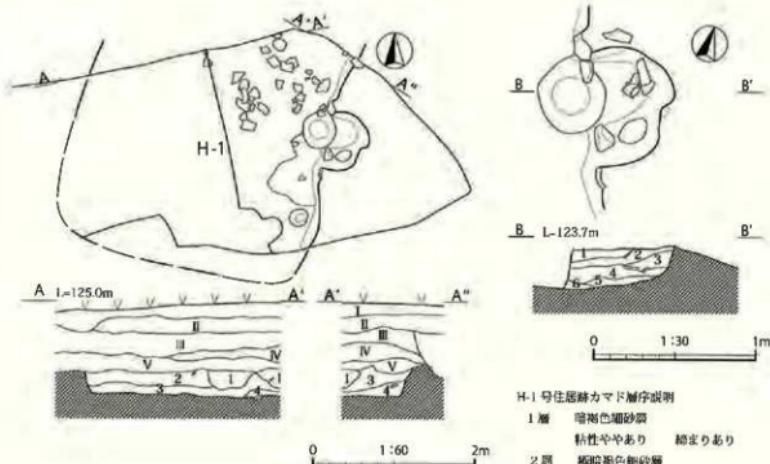


Fig.52 元總社舊海遺跡群（46）出土遺物



H-1 号住居跡層序図

I 層	現耕作上	粘性なし	縛まりややあり
II 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	縛まりあり
III 層	黒褐色細砂層	粘性なし	縛まりあり
IV 層	暗褐色細砂層	粘性なし	縛まりあり
V 層	暗褐色細砂層	粘性なし	縛まりややあり
I' 層	暗褐色細砂層	粘性ややあり	縛まりややあり
2' 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	縛まりあり
3' 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	縛まりややあり
4' 層	黒褐色細砂層	粘性なし	縛まり強い

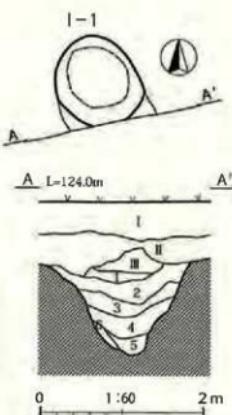


Fig.53 元続社古跡遺跡群 (46) H-1 号住居跡、I-1 号井戸跡

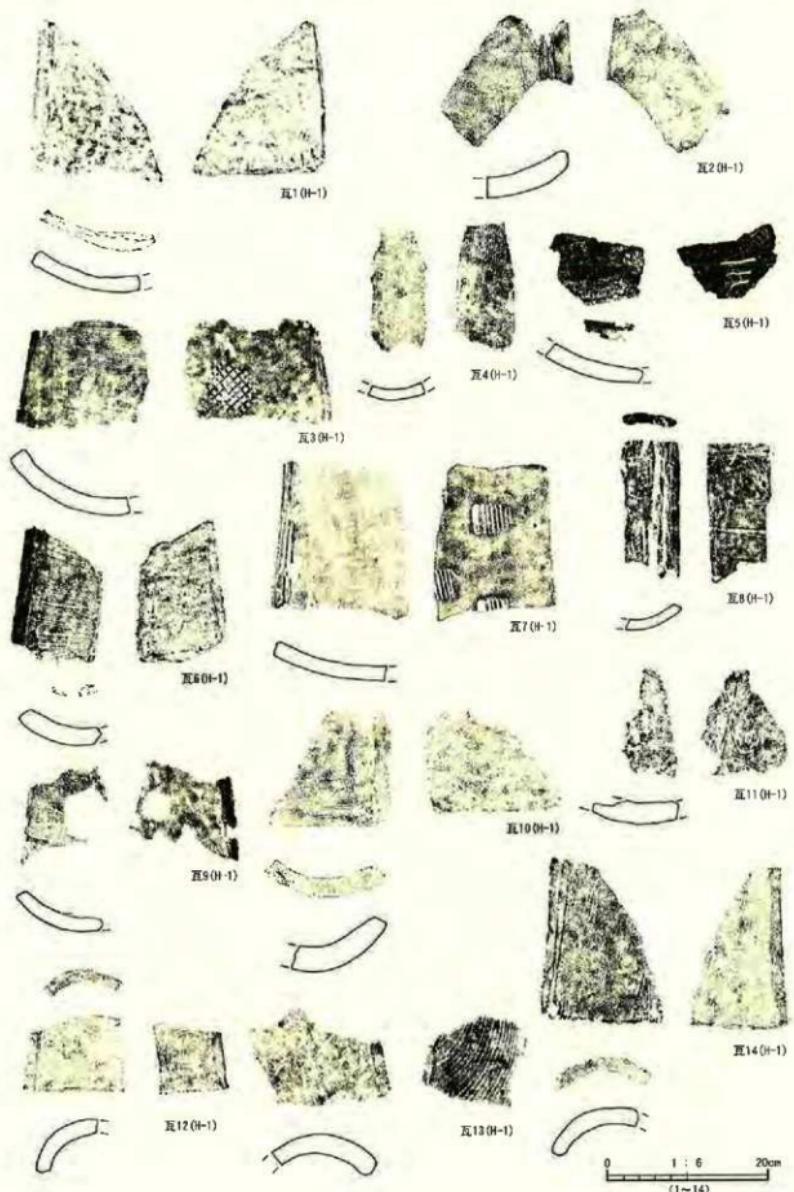


Fig.54 元紀社窯遺跡群 (46) 山土瓦 (1)

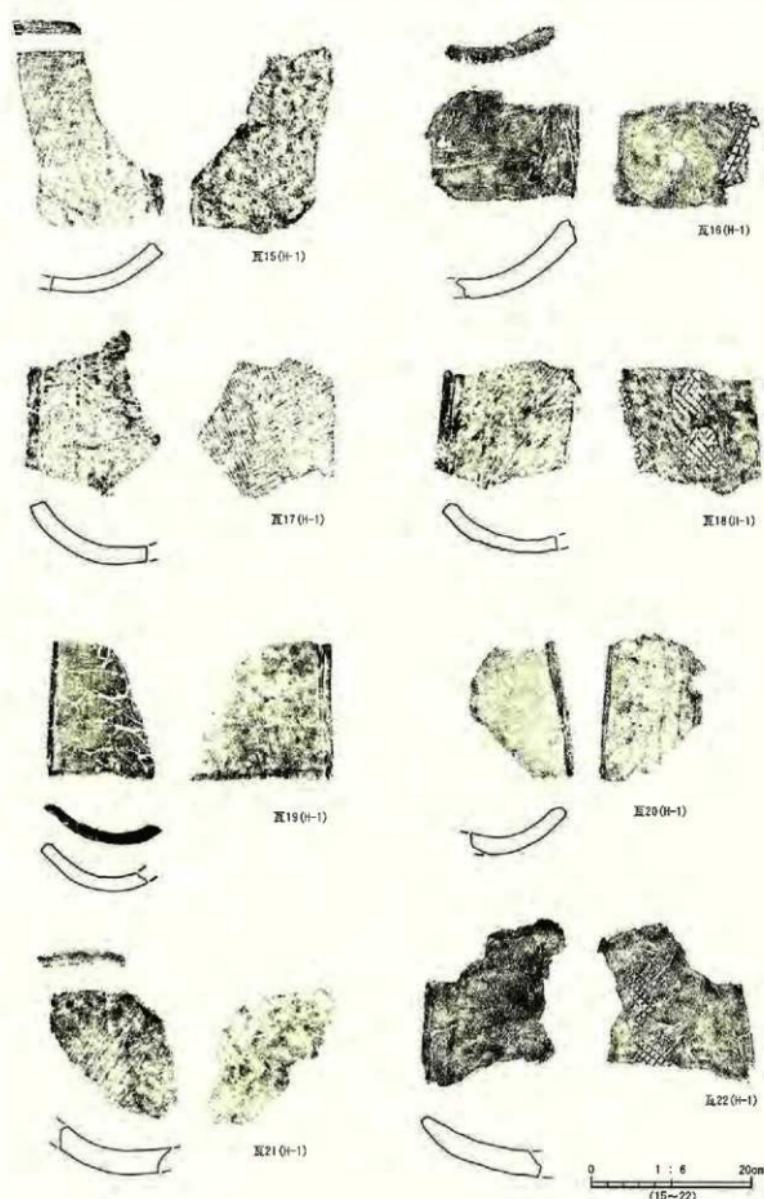


Fig.55 元總社舊址遺跡群 (46) 出土瓦 (2)

VI 元総社蒼海遺跡群（49）

1 調査区の概要

本調査区は、元總社蒼海遺跡群(43)の北西に隣接し、標高約119m程である。検出した遺構は、堅穴住居跡6軒と井戸2軒である。

本調査区の発掘調査は、住居移転及び工事の兼ね合いから、路線中央部への下水施設の敷設に伴う立会い調査後の実施となった。そのため、調査区中央に下水施設敷設に伴う幅約1.30mのカクランが存在する。また、北部、の調査前線戸であった箇所は、様の伐採・抜根に伴うと思われるカクランにより、遺構は確認できなかった。以下の理由により全体的に遺構の保存状態は悪く、遺構は比較的保存状態の良い南部からの検出であった。

2 基本層序

- I層 暗褐色土 コンクリート片等の産業廃棄物によつて構成される盛り土。
- II a 層 暗褐色土 盛り土前の耕作土。砂質土。
- II b 層 黒褐色土 盛り土前の耕作土。砂質土。斑駁が発達する。
- III層 黑褐色土 砂質土。As-C、Hr-FP 混入。
- IV層 暗褐色土 III層より漸移的に変化する。砂の粒度は細くなる。混入する As-C、Hr FP も少なくなる。
- V層 暗褐色土 総社砂層を起因とする。砂質土層。

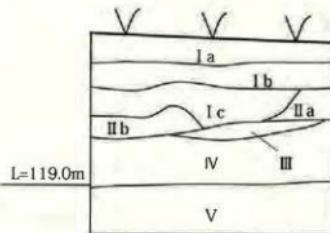


Fig.56 元總社蒼海遺跡群(49) 基本層序

*住居跡はIV層を掘り込んで構築される。

3 遺構と遺物

(1) 堅穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.59、PL.20)

位置 X138+139、Y221～223グリッド 主軸方向 N-90° E 形状等 潛丸方形 東西[3.64]m、南北5.16m、壁現高27cm 面積 [18.20]m² 床面 ほぼ平坦である。竈 東壁中央南寄り。主軸方向N-90°-E 全長(74)cm、最大幅(104)cm ピット P 1 長軸48cm、短軸46cm、深さ16.5cm 壁周溝 北・南・西壁 重複 I-1号井戸跡と重複し、I-1号井戸跡より古い。出土遺物 須忠器・甕片・蓋、灰釉陶器・皿、羽釜、高台碗、鉄矛 時期 不明

H-2号住居跡 (Fig.60・61、PL.21)

位置 X137+38、Y220～221グリッド 主軸方向 N-96°-E 形状等 潜丸方形 東西(3.30)m、南北3.56m、壁現高39cm 面積 (10.36)m² 床面 ほぼ平坦である。竈 南東隅。主軸方向N-110°-E 全長(144)cm、最大幅(72)cm、焚口部幅(40)cm ピット P 1 長軸40cm、短軸32cm、深さ46.5cm P 2 長軸40cm、短軸30cm、深さ16.5cm 壁周溝 北・南・東壁 重複 H-3・4・5と重複し、H-3・5より新しく、H-4より古い。出土遺物 カワラケ、羽釜、土師器・甕 時期 10世紀前半

H-3号住居跡 (Fig.60、PL.21)

位置 X137+38、Y220～221グリッド 主軸方向 N-80°-E 形状等 方形 東西(3.04)m、南北(1.00)m、

壁現高52cm 面積 1.57m² 床面 ほぼ平坦である。 露 未検出 壁周溝 なし 重複 H-2と重複し、本住居跡が古い。 出土遺物 土師器片 時期 不明

H-4号住居跡 (Fig.60・62、PL.23)

位置 X137・38、Y220～221グリッド 主軸方向 N-93°-E 形状等 方形 東西(0.88)m、南北(3.84)m、壁現高21cm 面積 (2.91)m² 床面 ほぼ平坦である。 露 南東隅。主軸方向N 151°-E 全長[116]cm、最大幅[76]cm、焚口部幅[38]cm 壁周溝 なし 出土遺物 須恵器・大甕片・土師器・坏片、羽釜片 時期 10世紀後半

H-5号住居跡 (Fig.60・61、PL.22)

位置 X188・189、Y220・221グリッド 主軸方向 N-94°-E 形状等 暫丸方形 東西[3.12]m、南北[4.12]m、壁現高32cm 面積 [9.01]m² 床面 ほぼ平坦である。 露 東壁中央南寄り。主軸方向N 90°-E 全長59cm、最大幅50cm、焚口部幅30cm 壁周溝 北・西壁 出土遺物 なし 時期 不明

H-6号住居跡 (Fig.62、PL.23)

位置 X187・188、Y222グリッド 主軸方向 N-80°-E 形状等 方形 東西(1.60)m、南北(0.28)m 面積 (0.47)m² 床面 床面は調査区外にあり不明。 露 東壁。主軸方向N- 97° E 全長(92)cm、最大幅(44)cm 壁周溝 不明 出土遺物 高台柵 時期 10世紀後半

(2) 溝跡

W-1号溝跡 (Fig.58)

位置 X137・138、Y214・218～220グリッド 主軸方向 N-9°-W 形状等 断面U字形 最大上幅0.72m、最小上幅0.20m、最大下幅0.52m、最小下幅0.12m、深さ23.5cm、長さ24.08m 時期 不明

(3) 土坑・井戸跡

D-1号土坑 (Fig.58)

位置 X137・138、Y224グリッド 主軸方向 N-90°-E 形状等 方形 東西幅0.45m、南北幅1.90m、深さ33cm 出土遺物 瓦 時期 不明

D-2号土坑 (Fig.63、PL.21)

位置 X137・138、Y219グリッド 主軸方向 N-92°-E 形状等 長方形 最大幅1.72m、最小幅1.56m、深さ52.0cm 出土遺物 羽釜片・高台柵 時期 10世紀前半

D-3号土坑 (Fig.63、PL.124)

位置 X137・138、Y218・219グリッド 主軸方向 N-71°-E 形状等 長楕円形 最大幅1.20m、最小幅0.80m、深さ21cm 出土遺物 須恵器片・土師器片・羽釜片 時期 10世紀

I-1号井戸跡 (Fig.63、PL.22)

位置 X138、Y223・224グリッド 形状等 上幅(2.20)m×(1.80)m、深さ(2.40)m。ロート状に開口し、ほぼ直に掘り込まれる。 重複 なし 出土遺物 石臼 時期 不明

I-2号井戸跡 (Fig.59、PL.22)

位置 X138、Y222・223グリッド 形状等 上幅(1.40)m×(1.28)m、深さ(1.50)m。ロート状に開口。 重複
H-1と重複、H-1より新しい。 出土遺物 瓦 時期 不明

T-1号竪穴状遺構 (Fig.73、PL.28)

位置 X137~138、Y219・220グリッド 主軸方向 N-119°-E 形状等 圓丸方形 東西(2.32)m、南北
(1.34)m、壁現高4cm 面積 2.06m² 床面 ほぼ平坦である。 出土遺物 須恵器片、土師器片 時期 重複
関係から10世紀前半以前

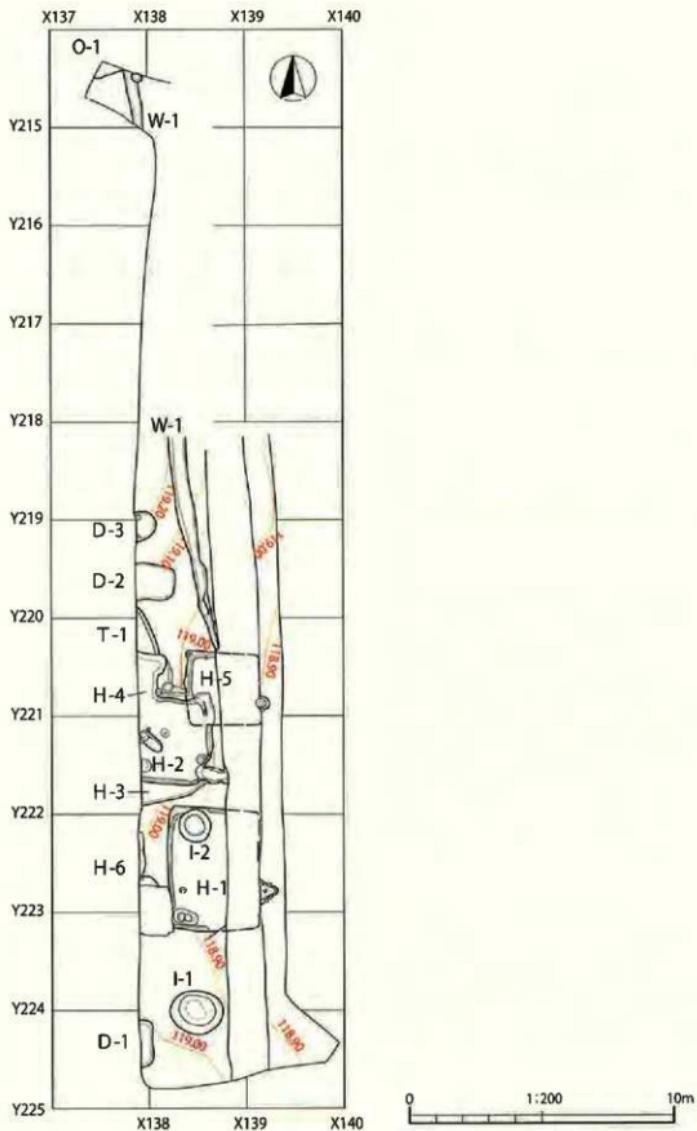


Fig.57 元続社蒼海遺跡群(49)調査区全体図

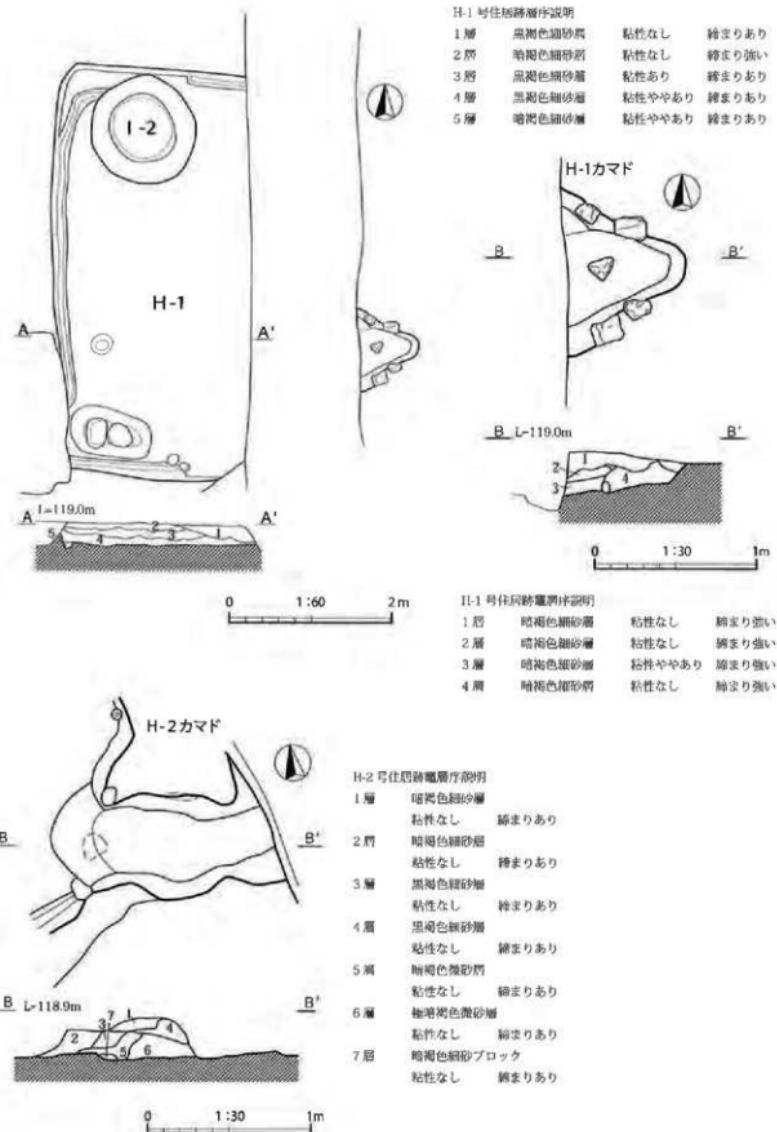


Fig.58 元總社古海遺跡群 (49) H-1号住居跡

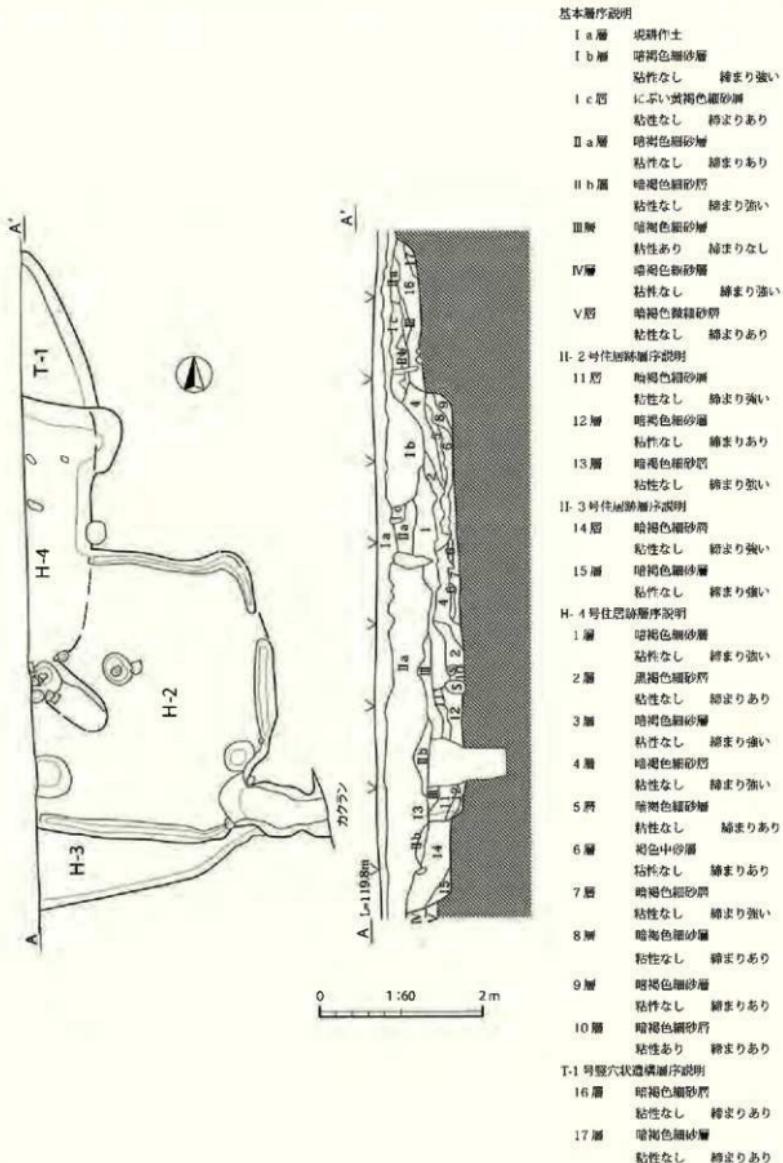


Fig.59 元絶社黃海遺跡群(49) II-2～4号住居跡、T-1号竪穴状遺構

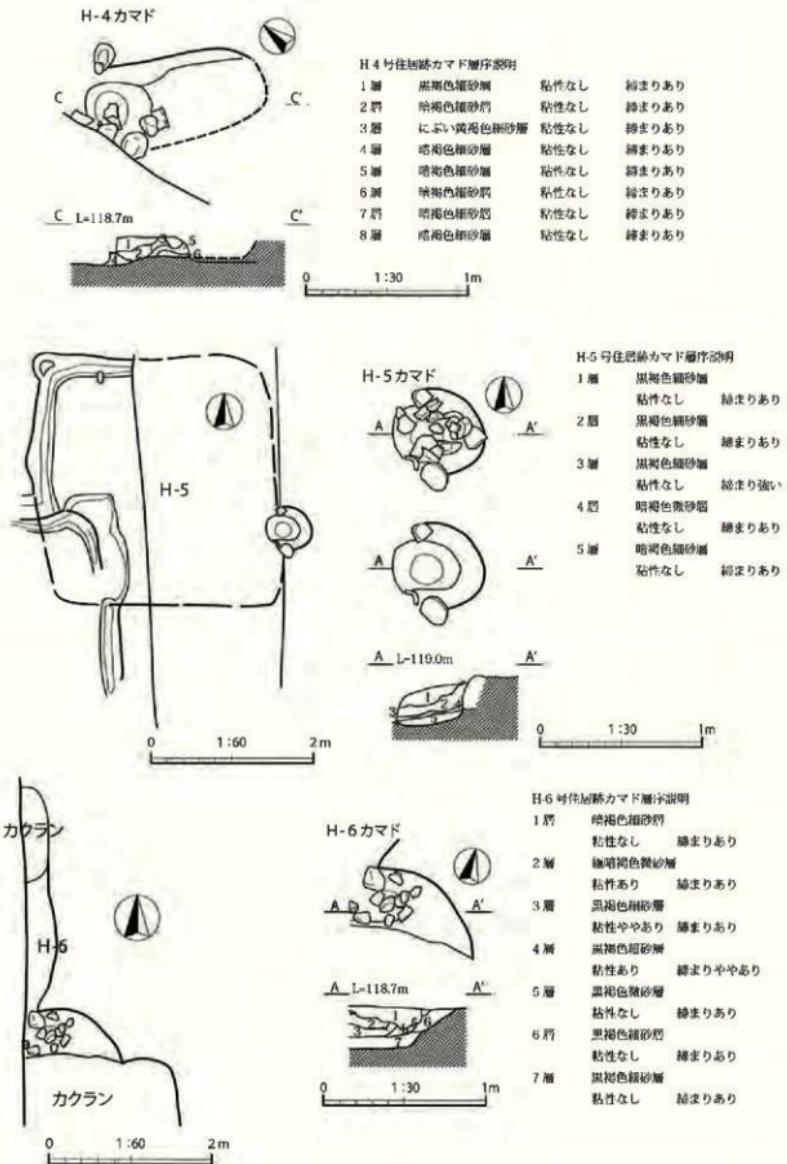


Fig.60 元總社昔海遺跡群(49) H-2・4号住居跡

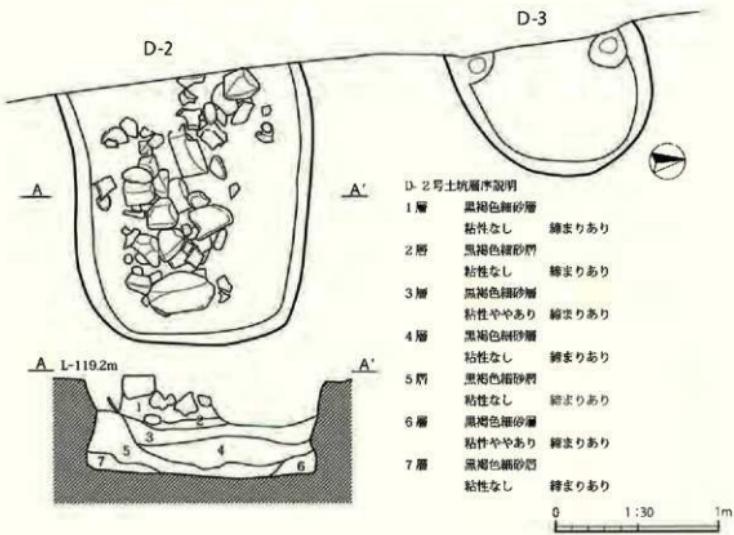


Fig.61 元總社蒼海遺跡群(49) H-5・6号住居跡

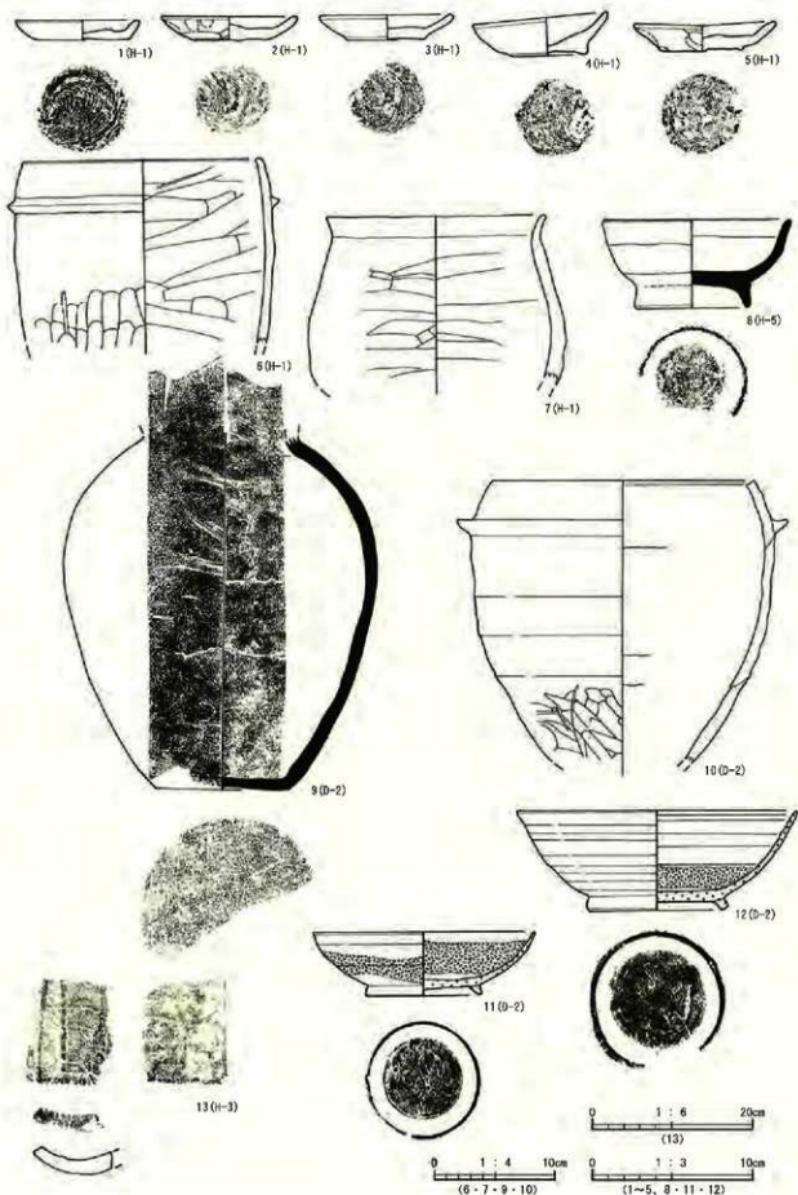


Fig.62 元祐杜蒼沟遺跡群(49)出土遺物

VII 元総社蒼海遺跡群（50）

1 調査区の概要

本調査区は蓄海遺跡群の南西部、染谷川の左岸に位置する。調査区東西に長い長方形を呈する。周辺は、住宅が立ち並ぶ一角で、調査前には、集合住宅が立っていた。遺構の保存状況はあまり良くなく、検出された遺構は、縄文時代の竪穴住居跡が1軒、古墳時代～平安時代の竪穴住居跡が18軒、土坑4基、竪穴状遺構が1基が検出された。

2 基本土層

グランドレベルの直下には厚さ90cmの産業廃棄物（コンクリートブロックなど）が存在し、部分的には遺構を破壊する箇所も存在した。比較的に保存状態の良いところではこの産業廃棄物層の直下に近年のもとと推定できる水田耕作土が存在し、酸化鉄が確認できた。

- I a 層 暗褐色土 現耕作土。プラスチック等の近年の遺物を含む。
- I b 層 暗褐色土 現耕作土。
- I c 層 にぶい黄褐色土 粒度がやや大きめ砂質土。
- II a 層 暗褐色土 砂質土。As-C、Hr-FP 混入。
- II b 層 黒褐色土 砂質土。As-C、Hr-FP 混入。
- III 層 黑褐色土 砂質土。As C、Hr FP 混入。
- IV 層 暗褐色土 III層より漸移的に変化する。砂の粒度は細くなる。混入する As-C、Hr-FP も少なくなる。

- V 層 暗褐色土 総社砂層を起因とする。砂質土層。

*住居跡はIV層を掘り込んで構築される。

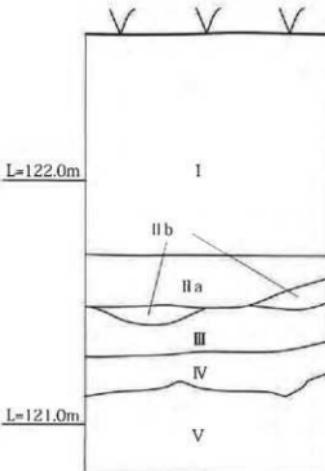


Fig.63 元絶社蓄海遺跡群(50) 基本潜序

3 縄文時代の遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

J-1号住居跡 (Fig.67、PL.23)

位置 X59・60、Y187・188グリッド 主軸方向 N-63°-E 形状等 角丸方形 東西(5.32)m、南北(3.24)m、壇現高43cm 面積 7.60m² 床面 ほぼ平坦である。 炉 未検出。調査区外に存在するものと思われる。ピット P 1 長軸(12)cm、短軸16cm、深さ19cm P 2 長軸36cm、短軸24cm、深さ28cm P 3 長軸20cm、短軸16cm、深さ23.5cm P 4 長軸22cm、短軸20cm、深さ19cm P 5 長軸20cm、短軸18cm、深さ33cm P 6 長軸22cm、短軸20cm、深さ18cm P 7 長軸12cm、短軸10cm、深さ15.5cm P 8 長軸12cm、短軸10cm、深さ11cm P 9 長軸20cm、短軸16cm、深さ17cm P 10 長軸22cm、短軸12cm、深さ10cm P 11 長軸18cm、短軸16cm、深さ20cm 壁周溝 なし 重複 H-17と重複。 出土遺物 縄文土器片(諸窓C式期)・剣片 時期 縄文時代前期諸窓C式期

4 古墳時代～奈良・平安時代の遺構と遺物

(1) 穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.68、PL.24)

位置 X50・51、Y187・188グリッド 主軸方向 N-100°-E 形状等 方形 東西(2.60)m、南北(2.04)m、壁現高29cm 面積 4.69m² 床面 ほぼ平坦である。 鏡 南東隅。主軸方向N 150°-E 壁周溝なし 重複なし 出土遺物 土師器片、灰釉陶器片 時期 不明 (形状からは平安時代の終り)

H-2号住居跡 (Fig.68)

位置 X51、Y188グリッド 主軸方向 N-66°-E 形状等 東西(1.42)m、南北(1.71)m、壁現高34cm 面積 0.93m² 床面 ほぼ平坦である 鏡 未検出 ピット P1 長軸48cm、短軸46cm、深さ29cm 壁周溝なし 重複 H-3と重複。本住居が古い。 出土遺物 須恵器片、土師器片、灰釉陶器片 時期 8世紀前半

H-3号住居跡 (Fig.68)

位置 X51、Y189グリッド 主軸方向 N 65°-E 形状等 やや丸みを帯びる方形。東西(2.34)m、南北(2.53)m、壁現高30cm 面積 3.74m² 床面 ほぼ平坦である。 鏡 未検出 壁周溝なし 重複 H-2・II-4と重複。H-2より新しく、H-4より古い。 出土遺物 土師器・椀 時期 8世紀後半

H-4号住居跡 (Fig.68)

位置 X51、Y188・189グリッド 主軸方向 N-90°-E 形状等 角丸方形 東西(0.88)m、南北(3.28)m、壁現高27.5cm 面積 2.42m² 床面 ほぼ平坦である。 鏡 未検出 壁周溝なし 出土遺物 須恵器片、土師器・片片 時期 9世紀前半

H-5号住居跡 (Fig.69、PL.24)

位置 X51～53、Y188・189グリッド 主軸方向 N-91°-E 形状等 角丸方形 東西(5.84)m、南北(3.68)m、壁現高16.5cm 面積 14.24m² 床面 ほぼ平坦である。 鏡 東壁。主軸方向N-90° E 全長120.0cm、最大幅(30)cm、輝道長(70)cm ピット P1 長軸32cm、短軸30cm、深さ49cm P2 長軸44cm、短軸32cm、深さ32cm 壁周溝 北壁・東壁 出土遺物 高台椀・須恵器・甕、土師器 時期 9世紀後半

H-6号住居跡 (Fig.69、PL.24)

位置 X52・53、Y188グリッド 主軸方向 N-85°-E 形状等 角丸方形 東西[3.04]m、南北(3.04)m、壁現高11cm 面積 3.26m² 床面 ほぼ平坦である。 鏡 未検出 壁周溝なし 重複 H-5・9と重複し、いずれよりも古い。 出土遺物 須恵器片、土師器片、灰釉陶器片、瓦片 時期 8世紀後半

H-7号住居跡 (Fig.70、PL.25)

位置 X53・54、Y188・189グリッド 主軸方向 N-83°-E 形状等 角丸方形 東西3.50m、南北(2.88)m、壁現高12cm 面積 9.36m² 床面 シルト質粘土 鏡 未検出 ピット P1 長軸40cm、短軸28cm、深さ10cm P2 長軸40cm、短軸30cm、深さ15cm P3 長軸22cm、短軸20cm、深さ7cm 壁周溝 北壁・西壁 重複 H-8・9と重複し、いずれよりも古い。 出土遺物 高台椀 時期 重複関係から9世紀代

H-8号住居跡 (Fig.70)

位置 X53・54、Y188グリッド 主軸方向 N-95°-E 形状等 角丸方形 東西(2.08)m、南北(1.80)m、壁現高13cm 面積 (3.83)m² 床面 撫乱により不明 窟 主軸方向N 85° E 全長(52.0)cm、最大幅60.0cm 壁周溝 不明 貯藏穴 南東隅 D-4 重複 H-7と重複し、H-7より新しい。 出土遺物 須恵器、土師器、羽釜、瓦 時期 10世紀前半

H-9号住居跡 (Fig.70、PL.25・26)

位置 X52～54、Y187・188グリッド 主軸方向 N 171° E 形状等 西壁が丸みを帯びる隅丸長方形 東西(4.45)m、南北(3.72)m、壁現高19.5cm 面積 13.63m² 床面 ほぼ平坦 窟 南西隅。主軸方向N-203°-E 全長82cm、最大幅70cm 重複 II-6・7・8・10・11と重複し、II-6・7・10・11より新しく、II-8より古い。 出土遺物 須恵器、土師器、壺、羽釜、灰釉陶器片、瓦 時期 10世紀代

H-10号住居跡 (Fig.70、PL.26)

位置 X54、Y188グリッド 主軸方向 N-119°-E 形状等 不明 窟周辺のみ検出 面積 1.00m² 床面 不明 窟 東壁。主軸方向N-108°-E 全長78cm、最大幅50cm 壁周溝 東壁 出土遺物 須恵器、土師器、瓦 時期 9世紀前半

H-11号住居跡 (Fig.70、PL.26)

位置 X53・54、Y186～188グリッド 主軸方向 N 91° E 形状等 方形 東西不明 南北(3.96)m、壁現高17.5cm 面積 12.89m² 床面 ほぼ平坦 窟 東壁中央南寄り。主軸方向N-91°-E 全長88cm、最大幅55cm 出土遺物 須恵器・壺、土師器・壺、瓦、灰釉陶器片 時期 10世紀代

H-12号住居跡 (Fig.68、PL.24)

位置 X51、Y187グリッド 主軸方向 N-90°-E 形状等 不明 南壁のみ検出 東西(2.66)m、南北(0.30)m、壁現高8.5cm 面積 0.60m² 床面 ほぼ平坦である。 窟 未検出 壁周溝 なし 出土遺物 なし 時期 不明

H-13号住居跡 (Fig.71、PL.27)

位置 X56・57、Y187・188グリッド 主軸方向 N-116°-E 形状等 隅丸長方形 東西(3.12)m、南北(1.76)m、壁現高30.5cm 面積 3.73m² 床面 ほぼ平坦である。 窟 東壁。主軸方向N-105°-E 全長(84.0)cm、最大幅(38.0)cm 壁周溝 なし 貯藏穴 南東隅 出土遺物 須恵器、土師器、灰釉陶器片、羽釜 時期 10世紀前半

H-14号住居跡 (Fig.72、PL.28)

位置 X61、Y186・187グリッド 主軸方向 N 92° E 形状等 方形 東西(1.44)m、南北(3.32)m、壁現高5cm 面積 3.90m² 床面 ほぼ平坦である。 窟 未検出 壁周溝 なし 出土遺物 須恵器、土師器、灰釉陶器片 時期 10世紀前半

H-15号住居跡 (Fig.72、PL.28)

位置 X61・62、Y186・187グリッド 主軸方向 N-101°-E 形状等 隅丸方形 東西(2.80)m、南北(3.92)m

m、壁現高6cm 面積 8.85m² 床面 ほぼ平坦である。 龍 未検出 壁周溝 西壁・北壁 出土遺物 須恵器、土師器、鉄製品 時期 9世紀後半四半期

H-16号住居跡 (Fig.72)

楕円位置 X61、Y186・187グリッド 主軸方向 N-90°-E 形状等 方形 東西(1.08)m、南北(2.32)m、壁現高4cm 面積 2.45m² 床面 ほぼ平坦である。 龍 東壁。主軸方向N-90°-E 全長63cm、最大幅65cm、焚口部幅65cm 壁周溝 なし 出土遺物 須恵器、土師器、灰釉陶器片、瓦、羽釜 時期 10世紀後半

H-17号住居跡 (Fig.72、PL.27)

位置 X60、Y186・187グリッド 主軸方向 N-95°-E 形状等 角丸長方形 東西(1.80)m、南北(3.90)m、壁現高11.5cm 面積 (5.89)m² 床面 ほぼ平坦である。 龍 南東隅。主軸方向N-136°-E 全長86cm、最大幅48cm、焚口部幅36cm 壁周溝 なし 出土遺物 須恵器、土師器、灰釉陶器片、瓦、羽釜 時期 10世紀後半

H-18号住居跡 (Fig.72)

位置 X60・61、Y186・187グリッド 主軸方向 N-92°-E 形状等 東西(3.04)m、南北(2.20)m、壁現高5cm 面積 (0.74)m² 床面 ほぼ平坦である。 龍 未検出 壁周溝 なし 出土遺物 高台榦、羽釜片、須恵器、綠釉陶器片 時期 10世紀前半

(2) 土坑・ピット・豎穴状遺構

D-1号土坑 (Fig.73、PL.24)

位置 X51、Y187・188グリッド 主軸方向 N-88°-E 形状等 凹形 最大幅0.78m、最小幅0.72m、深さ26cm 出土遺物 土師器片 時期 不明

D-2号土坑 (Fig.73、PL.24)

位置 X51、Y187・188グリッド 主軸方向 N-128°-E 形状等 楕円形 最大幅0.85m、最小幅0.74m、深さ13.0cm 出土遺物 時期 不明

D-3号土坑 (Fig.73、PL.24)

位置 X52、Y187グリッド 主軸方向 N-116°-E 形状等 楕円形 最大幅1.04cm、最小幅0.90m、深さ28.0cm 出土遺物 時期 不明

D-4号土坑 欠番 (H-8の貯蔵穴として処理)

D-5号土坑 (Fig.73)

位置 X60、Y186・187グリッド 主軸方向 N-67°-E 形状等 やや歪な円形 最大幅0.80m、最小幅0.70m、深さ24.0cm 出土遺物 高台榦・羽釜片、瓦 時期 10世紀代

D-6号土坑 (Fig.73)

位置 X60、Y186・187グリッド 主軸方向 N-67°-E 形状等 やや歪な円形 最大幅0.80m、最小幅0.70m、深さ24.0cm 出土遺物 高台榦、灰釉陶器、瓦 時期 9世紀代

T—1号竪穴状遺構 (Fig.73、PL.28)

位置 X58、Y188・189グリッド 主軸方向 N 110° E 形状等 凹丸方形 東西(2.32)m、南北(1.34)m、
壁現高 4 cm 面積 2.06m² 床面 ほぼ平坦である。 出土遺物 なし 時期 不明

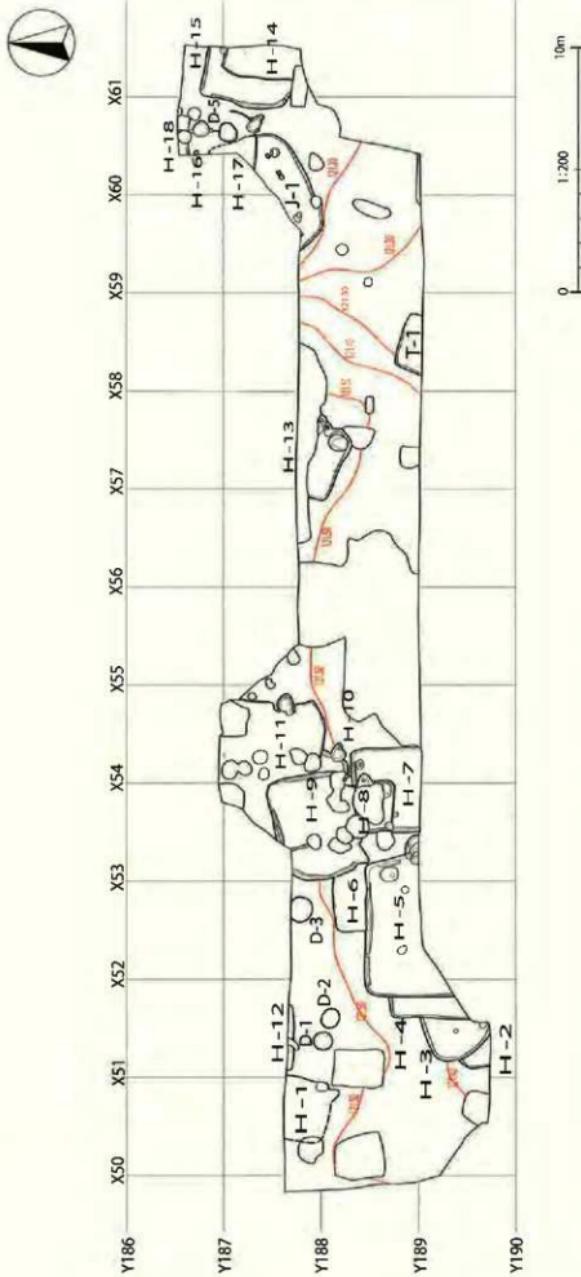


Fig.64 元總社舊海遺跡群（50）調査区全体図

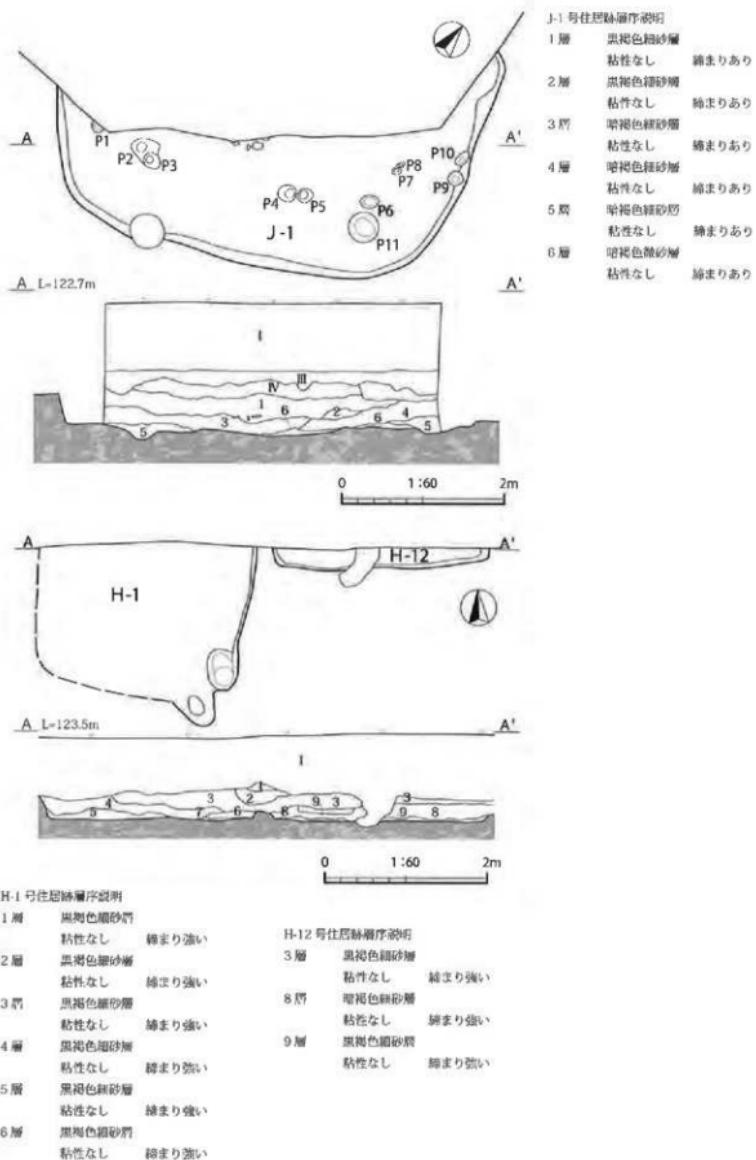
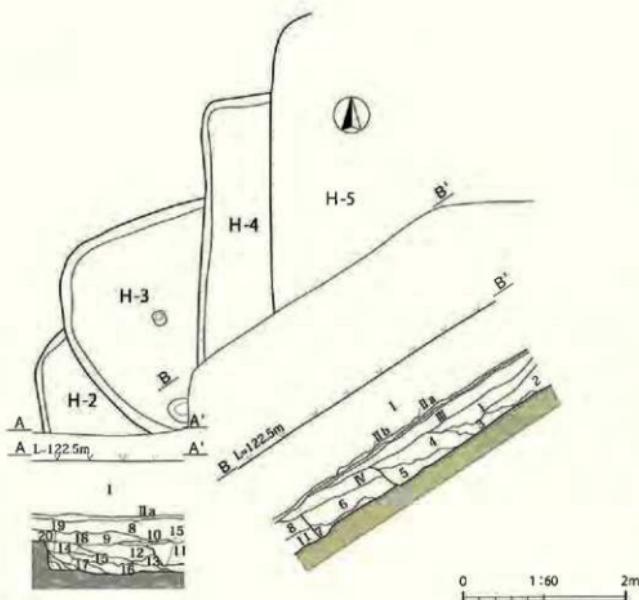


Fig.65 元経社舊海遺跡群(50) J-1号住居跡、H-1・12号住居跡



H-2号住居跡層序説明

8層	暗褐色細砂層	粘性やあり 締まり強い
9層	暗褐色細砂層	粘性なし 締まり強い
10層	黒褐色細砂層	粘性なし 締まりあり
11層	黒褐色細砂層	粘性あり 締まり強い
12層	黒褐色細砂層	粘性なし 締まり強い
13層	黒褐色細砂層	粘性なし 締まり強い
14層	黒褐色細砂層	粘性あり 締まり強い
15層	黒褐色細砂層	粘性なし 締まり強い
16層	黒褐色細砂層	粘性なし 締まり強い
17層	黒褐色細砂層	粘性なし 締まり強い
18層	黒褐色細砂層	粘性なし 締まり強い
19層	黒褐色細砂層	粘性なし 締まり強い
20層	暗褐色細砂層	粘性なし 締まり強い

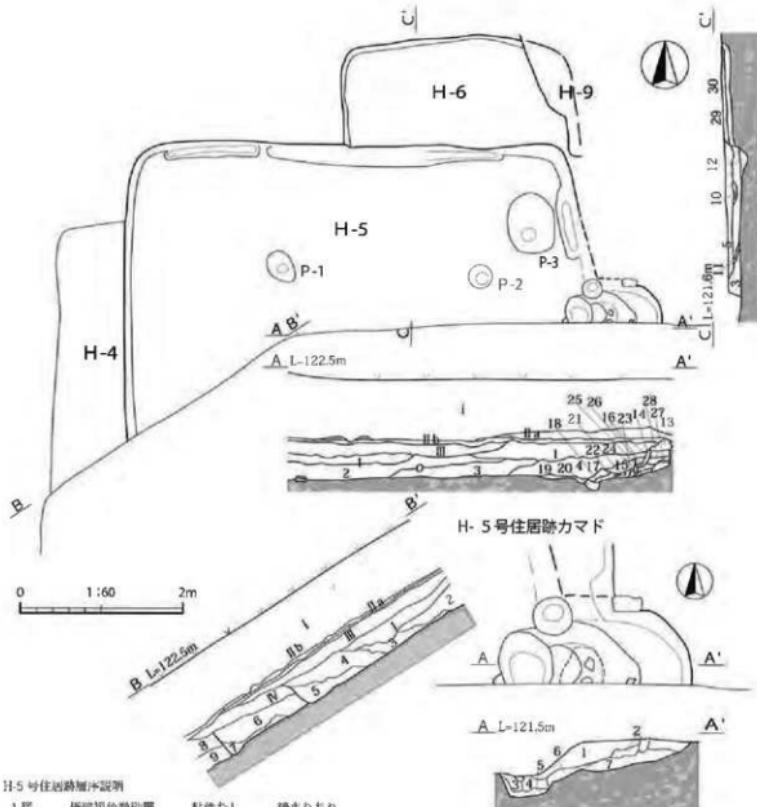
H-3号住居跡層序説明

8層	暗褐色細砂層	粘性ややあり 締まり強い
11層	黒褐色細砂層	粘性あり 締まり強い

H-4号住居跡層序説明

6層	暗褐色細砂層	粘性なし 締まりあり
7層	黒褐色細砂層	粘性なし 締まりあり

Fig.66 元總社黃海遺跡群(50) H-2~4号住居跡



H-5 号住居跡番号説明

1層	極暗褐色細砂層	粘性なし	縦まりあり				
2層	暗褐色細砂層	粘性なし	縦まりあり				
3層	暗褐色細砂層	粘性なし	縦まりあり	22 層	暗褐色細砂層	粘性なし	縦まりあり
4層	暗褐色細砂層	粘性なし	縦まりあり	23 層	暗褐色細砂層	粘性なし	縦まりあり
5層	黒褐色細砂層	粘性なし	縦まりあり	24 層	暗赤褐色細砂層	粘性なし	縦まりあり
10層	暗褐色細砂層	粘性なし	縦まりあり	25 層	黒褐色細砂層	粘性なし	縦まりあり
11層	黒褐色細砂層	粘性なし	縦まりあり	26 層	暗褐色細砂層	粘性なし	縦まりあり
12層	黒褐色細砂層	粘性なし	縦まりあり	27 層	黒褐色細砂層	粘性なし	縦まりあり
13層	暗褐色細砂層	粘性なし	縦まりあり	28 層	黒褐色細砂層	粘性なし	縦まりあり
14層	暗褐色細砂層	粘性なし	縦まりあり	29 層	暗褐色細砂層	粘性なし	縦まりあり
15層	黒褐色細砂層	粘性なし	縦まりあり	30 層	暗褐色細砂層	粘性なし	縦まりあり
16層	暗褐色細砂層	粘性なし	縦まりあり				
17層	極暗褐色細砂層	粘性なし	縦まりあり	H 6号住居跡層序説明			
18弱	にふる黄褐色細砂層	粘性なし	縦まりあり				
19層	暗褐色細砂層	粘性なし	縦まりあり	29 層	黒褐色細砂層	粘性あり	縦より強い
20層	暗褐色細砂層	粘性なし	縦まりあり	30 層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	縦より強い
21層	暗褐色細砂層	粘性なし	縦まりあり				

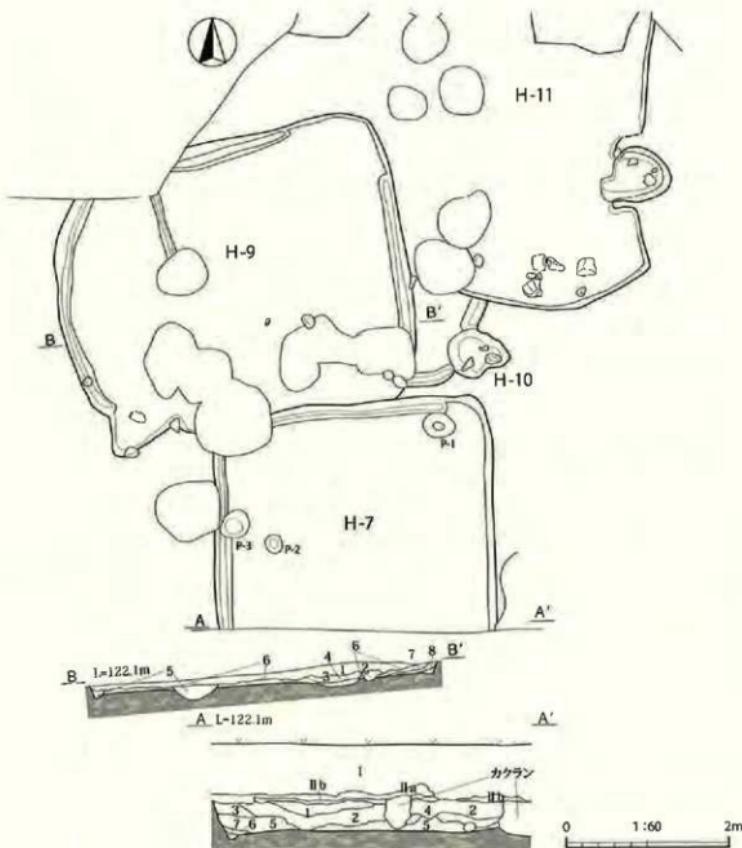
Fig.67 元總社舊海遺跡群(50) H-5・6号住居跡

H-5号住居跡層序説明

1層	黒褐色細砂層
2層	褐色褐色細砂層
3層	黒褐色細砂層
4層	黒褐色細砂層
5層	黒褐色細砂層
6層	暗褐色細砂層
7層	黒褐色細砂層

H-7号住居跡層序説明

1層	黒褐色細砂層	粘性なし	縛まり強い
2層	黒褐色細砂層	粘性半やあり	縛まりあり
3層	黒褐色細砂層	粘性なし	縛りあり
4層	暗褐色細砂層	粘性ややあり	縛まり強い
5層	黒褐色細砂層	粘性なし	縛まりあり
6層	暗褐色細砂層	粘性なし	縛まりあり
7層	黒褐色細砂層	粘性なし	縛まりあり



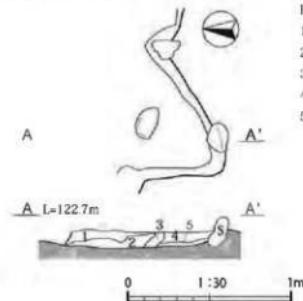
H-9号住居跡層序説明

1層	黒褐色細砂層
2層	黒褐色細砂層
3層	黒褐色細砂層
4層	黒褐色細砂層

5層	黒褐色細砂層	粘性なし	縛まり強い
6層	暗褐色細砂層	粘性なし	縛まり強い
7層	暗褐色細砂層	粘性なし	縛まり強い
8層	黒褐色細砂層	粘性なし	縛まりあり

Fig.68 元總社蒼海遺跡群(50) H-7・9～11号住居跡

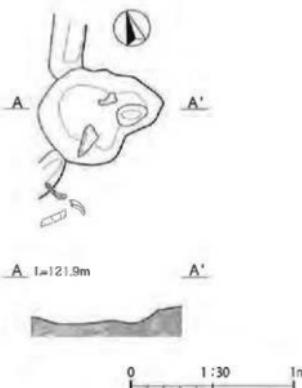
H-9号住居跡カマド



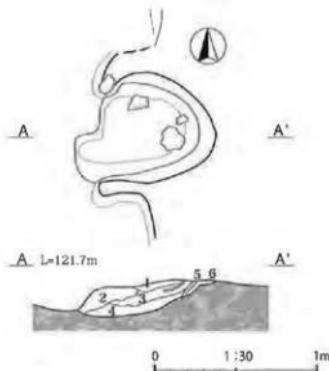
H-9号住居跡カマド層序説明

1層	暗褐色細砂層	粘性なし	縛まり強い
2層	暗褐色細砂層	粘性なし	縛まりあり
3層	暗褐色細砂層	粘性なし	縛まり強い
4層	暗褐色細砂層	粘性なし	縛まり強い
5層	暗褐色細砂層	粘性なし	縛まりあり

H-10号住居跡カマド



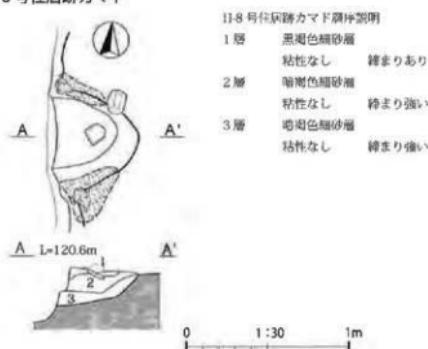
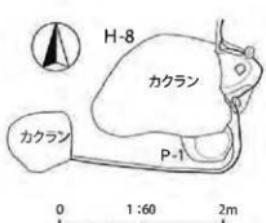
H-11号住居跡カマド



H-11号住居跡カマド層序説明

1層	黒褐色細砂層	粘性なし	縛まり強い
2層	黒褐色細砂層	粘性なし	縛まり強い
3層	黒褐色細砂層	粘性なし	縛まり強い
4層	黒褐色細砂層	粘性なし	縛まり強い
5層	黒褐色細砂層	粘性なし	縛まり強い
6層	黒褐色細砂層	粘性なし	縛まり強い

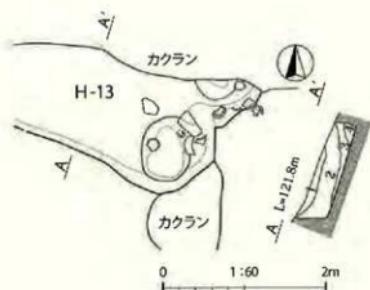
H-8号住居跡カマド



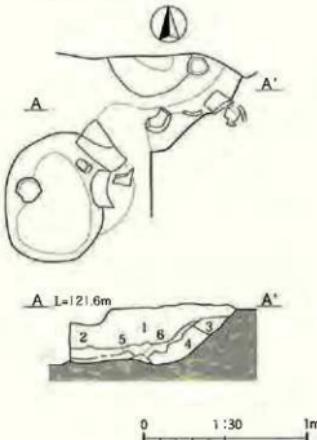
H-8号住居跡カマド層序説明

1層	黒褐色細砂層	粘性なし	縛まりあり
2層	暗褐色細砂層	粘性なし	縛まり強い
3層	暗褐色細砂層	粘性なし	縛まり強い

Fig.69 元總社苦海遺跡群(50) H-8~11号住居跡



H-13号住居跡カマド

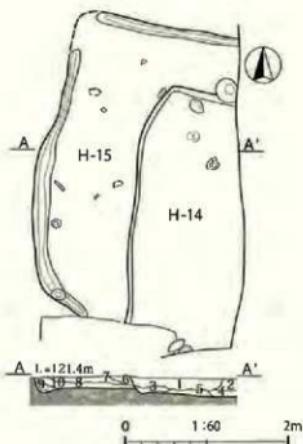


H-13号住居跡層序説明

1層	暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
2層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
3層	暗赤褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
4層	黒褐色細砂層	粘性ややあり	締まりあり

H-13号住居跡カマド層序説明

1層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
2層	極暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
3層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
4層	極暗褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
5層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり
6層	赤褐色細砂層	粘性なし	締まりあり



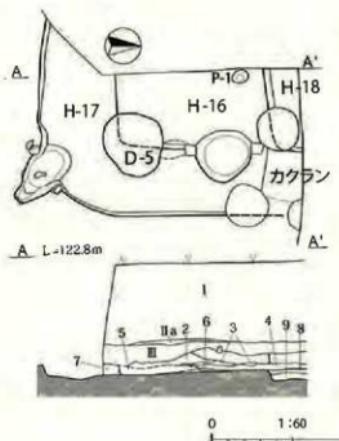
H-14号住居跡層序説明

1層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
2層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
3層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
4層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
5層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い

H-15号住居跡層序説明

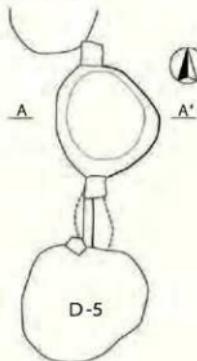
6層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
7層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
8層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
9層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まり強い
10層	黒褐色細砂層	粘性なし	締まりあり

Fig.70 元總社舊海遺跡群(50) H-13~15号住居跡

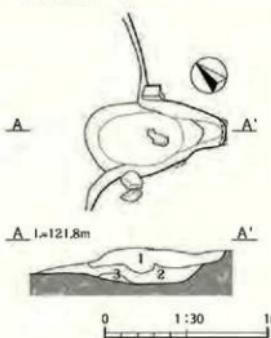


H-16号住居跡層序説明	
1層	黒褐色細砂層
2層	黒褐色細砂層
3層	黒褐色細砂層
4層	黒褐色細砂層
5層	黒褐色細砂層
6層	黒褐色細砂層

H-16号住居跡カマド

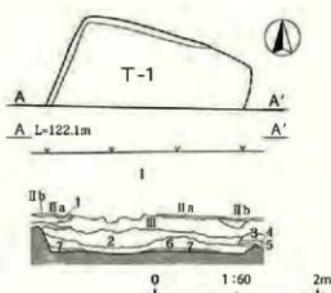
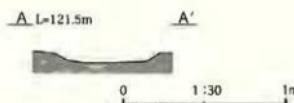


H-17号住居跡カマド



H-17住居跡カマド層序説明

H-17住居跡カマド層序説明	
1層	極薄黒褐色細砂層
2層	黒褐色細砂層
3層	黒褐色細砂層



T-1号竪穴状造構層序説明

T-1号竪穴状造構層序説明	
1層	黒褐色粗砂層
2層	黒褐色粗砂層
3層	黒褐色粗砂層
4層	黒褐色粗砂層
5層	黒褐色粗砂層
6層	黒褐色粗砂層
7層	黒褐色粗砂層
8層	黒褐色粗砂層

Fig.71 元總社蒼海遺跡群 (50) H-16~18号住居跡、T-1号竪穴状造構

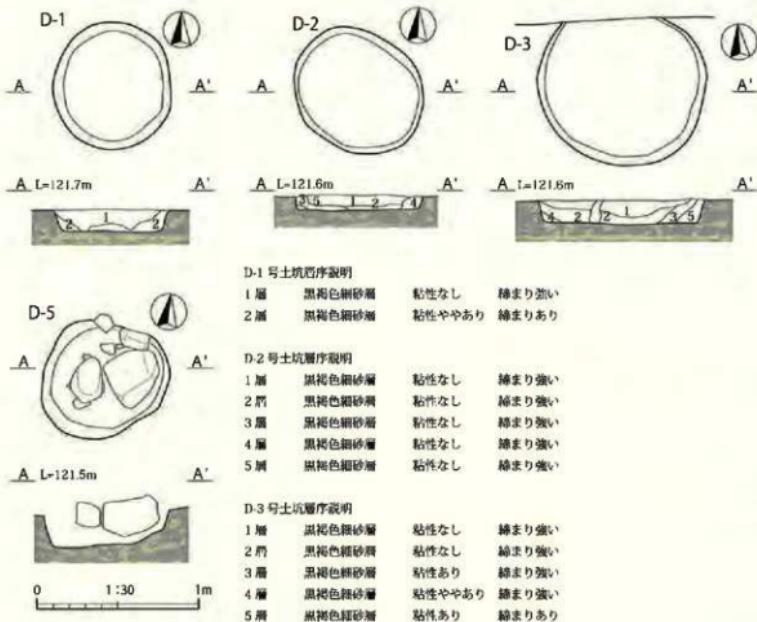


Fig.72 元總社舊海遺跡群(50) D-1~3・5号土坑

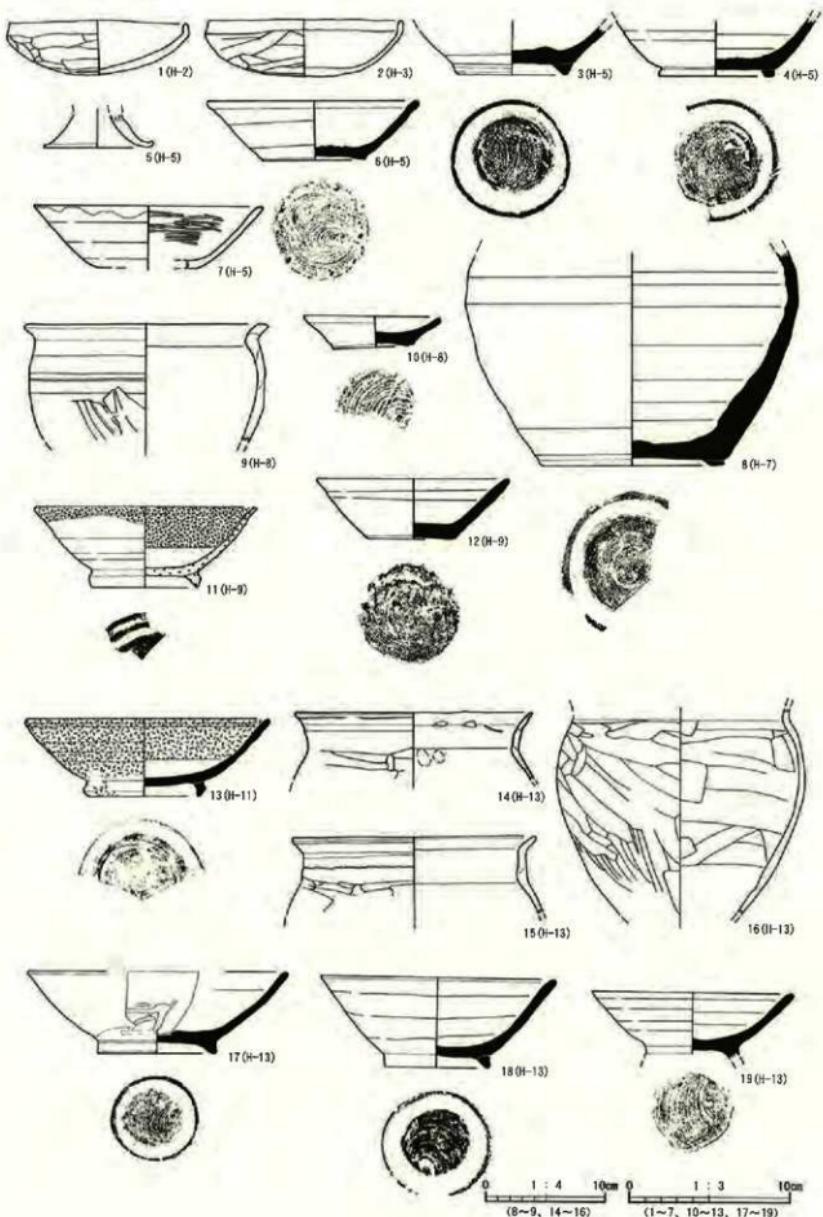


Fig.73 元總社黃海遺跡群(50)出土遺物(1)

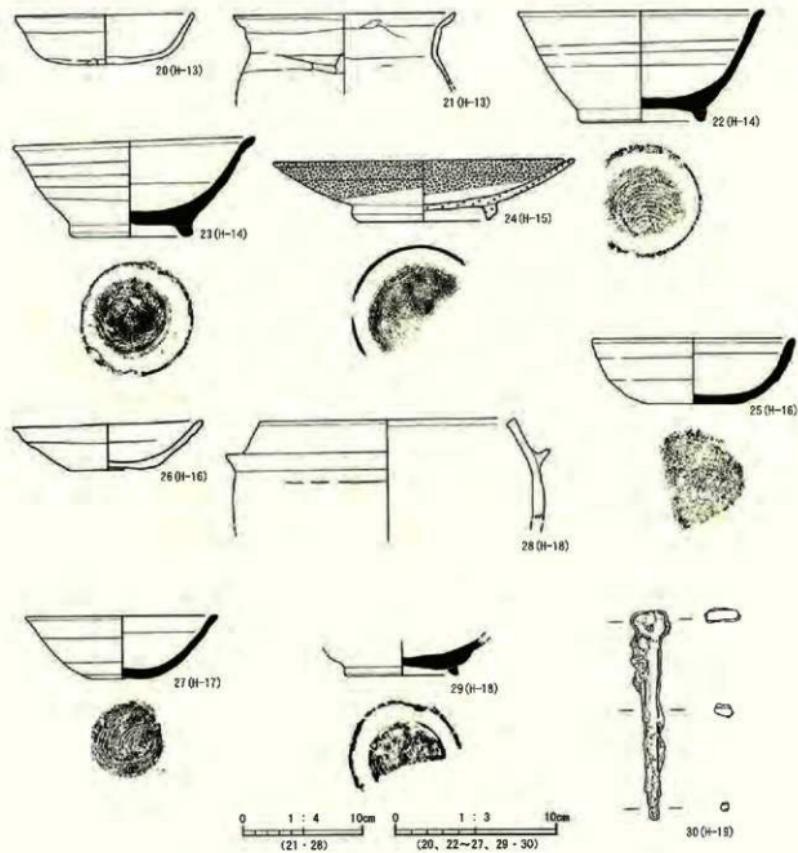


Fig.74 元紹莊海道跡群(50)出土遺物(2)

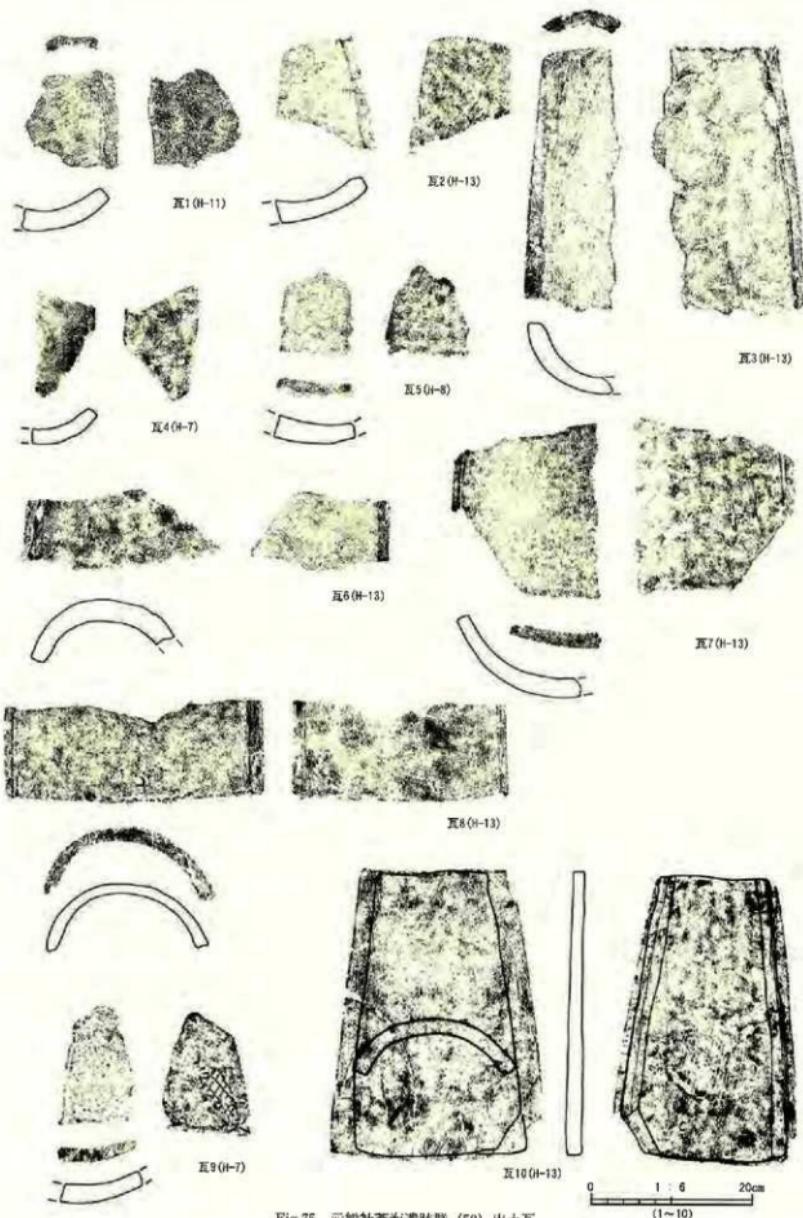


Fig.75 元絶社舊海遺跡群(50)出土瓦

VIII まとめ

鍛冶遺構について

今回、真海遺跡群（40）から、比較的保存状態の良い状態で、鍛冶遺構が検出され、調査された。H-13号住居跡の中央南寄りで検出したこの鍛冶遺構施設は、炉心・金床石・船と呼ばれる土坑、さらには操業の際に生じた礫などを捨てるための施設である廃滓土坑がセットで確認され、周辺からは鉄滓や・椀型滓・鍛造薄片が検出された。

炉心は地山に長軸長27cm・短軸長23cmの梢円形の深さ7cm程の浅い掘込みを穿った形で構築され、還元状態の鉄分を多量に包含する焼成灰層に覆われていた。また、椀型滓が操業当時の状態でこの焼成灰層の上に載っていた。確認当初、さらにこの炉心の上には径約30cmの多孔質の輝石安山岩の角円礫が載った状態であった。この石が操業当時にどのような役割を持ったものかは不明である。なお、この炉心の脇から、製品を作るための11×24mm、長さ20.4cmの棒状鉄製品（半製品）が出土している。礫の存在は確認できなかった。操業がその形状等から、鍛造鍛冶に関わるものと推定できることから、手持ちの革製もしくは木製の籠であったかもしれない。

金床石、上面が平坦で長軸長40cm・短軸長24cm・厚さ32cmの大きな砂岩の円礫で、その上面は良く敲きこまれ、剝離の跡が確認できるほか、よく摩耗しており、テカテカと光沢を帯びていた。この金床石は、地山に掘り込まれた20cm程の穴に埋め込まれ、しっかりと固定されていた。

P-1は、金床石の北側に近接して配され、長軸長56cm、短軸長34cm、深さ21cmを測るやや歪な梢円形を呈する。P-2は金床石の南に近接して配され、長軸長64cm、短軸長25cm、深さ27cmを測る長方形を呈する。いずれのピットからも鍛造薄片以外の遺物は検出されなかった。

廃滓土坑は、これら炉心・金床石・ピットを結ぶ線の中央北側に配される。長軸長86cm・短軸長68cm・深さ21cmを測るやや歪な方形を呈する。

炉心中央から金床石の中央までの距離は110cmを測る。

鉄・鉄器生産の工程は①採鉱②葉炉③製錬④選別⑤精錬鍛冶（大鍛冶）⑥粗錬鍛冶（小鍛冶）・鋳造の6工程に大別して把握できる（穴沢 1989）

編者はかつて、大胡町教育委員会刊『横浜芳山・横浜大塚遺跡』（2002）において群馬県内の⑤精錬鍛冶および⑥粗錬鍛冶の遺構について集成し、鍛冶炉の存在パターンによる分類を試みた。分類の方法、基準はTab.2に示したとおりであるが、結果として、県内において確認された遺構は11種の分類（空欄は結果として存在が確認できなかった）に収まる結果となった。その際の集成と分類を示したものが、Tab.3である。

今回検出調査された鍛冶遺構は、この分類に従えばC-1類（弊穴住居跡内に鍛冶炉が存在し、それに敷設した土坑をもつ）に当てはまる。遺構はその出土遺物から8世紀の第4四半期であり、鍛冶遺構の変遷史においては、広く一般集落内にも、鍛冶遺構が普及する9世紀より、若干早い時期である。

本遺跡の南約1kmには上野国府直属と想定できる大規模な鍛冶工房を擁する鳥羽遺跡が存在する。本遺構の成立過程において、鳥羽遺跡の鍛冶工房（8世紀中～後半）の存在が影響したものと想像できる。

Tab.2 鋼冶遺構分類基準

鋳冶炉と建物との関係		鋳冶炉及び土坑の有無		鋳冶炉の個数	
				1基のみ	複数
A類 柱立柱建物内に鋳冶炉が存在するもの	-1類	鋳冶炉とそれに敷設される土坑が存在するもの		A-1 a類	A-1 b類
	2類	鋳冶炉のみが存在するもの			
	-3類	家事関連遺物を包含する土坑のみが存在するもの			
B類 窓穴状の遺構内に鋳冶炉が存在するもの	-1類	鋳冶炉とそれに敷設される土坑が存在するもの		B-1 a類	B-1 b類
	-2類	鋳冶炉のみが存在するもの			B-2 b類
	-3類	家事関連遺物を包含する土坑のみが存在するもの			
C類 壁穴住居内に鋳冶炉が存在するもの	1類	鋳冶炉とそれに敷設される土坑が存在するもの		C-1類	
	-2類	鋳冶炉のみが存在するもの		C-2類	
	-3類	家事関連遺物を包含する土坑のみが存在するもの		C-3類	
D類 上屋や外部との区画が認められず屋外に存在するもの	-1類	鋳冶炉とそれに敷設される土坑が存在するもの		D-1類	
	-2類	鋳冶炉のみが存在するもの		D-2類	
	3類	家事関連遺物を包含する土坑のみが存在するもの		D-3類	

※空欄は結果として、県内では未確認

参考・引用文献

- 黒川嘉郎 1973 『鉄の考古学』雄山閣出版株式会社
- たたら研究会 1987 『日本古代の鐵生産』
- 田口勇 1988 『鉄の歴史と化学』笠原書房
- 麻柄幸子 1988 『古代北陸の鉄生産』同志社大学考古学シリーズIV考古学と技術
- 福島義信 1984 『福島県における古代の鋳冶遺構』同志社大学考古学シリーズIV考古学と技術
- 国立歴史民俗博物館 1994 『国立歴史民俗博物館研究報告第58集 日本・韓国の鉄生産技術(調査編1)』
- 同上 1994 『国立歴史民俗博物館研究報告第59集 日本・韓国の鉄生産技術(調査編2)』
- 赤沼美男・福田豊彦 1997 『鉄の生産からみた北方世界』(国立歴史民俗博物館研究報告第72集) 国立歴史民俗博物館
- 横浜市歴史博物館・横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター 1998 『兵の時代—古代末期の東国社会—』
- 寄居町調査会 1999 『中山運動』(第1次・第2次)
- 村上恭造 1999 『倭人と鉄の考古学』頃青木書店
- 鉄器文化研究会 2001 『日韓鉄器文化の特質と交流』
- 那崎高宏 2001 『新潟県における古代の型鉄一鋳冶関連遺構の検討ー』『研究紀要 第3号』新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 大田区立強度博物館 2001 『ものづくりの考古学』東京美術
- 佐々木稔ほか 2002 『鉄と銅の生産の歴史—古代から近世初頭にいたる』竹内書店新社
- 大胡町教育委員会 2002 『横浜芳山遺跡・横浜大塚遺跡』
- 佐々木稔ほか 2009 『鉄と銅の生産の歴史—鉄・銅・船も含めて 増補改訂版』竹内書店新社

Tab. 3 群馬県内鍛冶遺構集成

番号	市町村	合併前	遺跡名	遺構名	分類	時期	鍛冶関連出土遺物	化学分析	
								分析者	分析結果
1	桐生市	桐生市	人門遺跡	92鍛冶工場遺構	A-1 a	9~18C	スケール		
2	高崎市	高崎市	鳥羽遺跡	I 1号J.開跡	A-1 b	8 C前半	羽口・砥石頭・爐神小丸・金敷用白石・鋸齒鉄片・鋸削	大坪正巳	鍛造炉・鍛造斧・鍛造前的小坑(砂鉄系)
3	高崎市	高崎市	鳥羽遺跡	I 2号工房跡	A-1 b	8 C中頃	砥石・羽口・鋸削・鋸削・金敷用白石	大坪正巳	鍛造炉・鍛造斧・鍛造前的小坑(砂鉄系)
4	桐生市	新里町	牛平遺跡	13号住居(小鐵冶)	B-1 a	9 C前半	鋸削		
5	茅橋町	萬千田	小原月遺跡	I 1号小鐵冶	B-1 a		金込石・鋸削・鉄製品・鋸型鋸・羽口・砥石		
6	茅橋町	前橋市	芳賀東部山地遺跡I	5号製鉄址	B-1 a		砥石・羽口・鋸削	桂敏・高尾秀治	鋸削斧
7	前橋市	前橋市	足取郡飯塚道跡	鋸削鍛冶炉	B-1 a	9 C中頃	羽口・砥石・鋸削・鋸型鋸・瓦砾片・チップ・金敷用白石・鋸削・金器未成品・鋸削平鋸刀		
8	古河市	古河市	大久保A遺跡	第1号遺構	B-1 a	10C末	鉄鋸・鉄製品(斧・刀子・タガネ?)・手鋸品・破片		
9	安中市	松井田	行田柳木平遺跡	1号製鉄炉	B-1 a		羽口		
10	安中市	松井田	行田柳木平遺跡	2号製鉄炉	B-1 a		羽口・小鋸削		
11	猪谷町	大崎町	横川芳山遺跡	鐵製品場	B-1 a	9 C後半	羽口・鋸削鋸・鋸削鋸・鋸削系遺物・鍛造片・金込石・手鋸品	日暮アグノリツ・ナリヤ・チ	鋸削鋸
12	猪谷町	大崎町	坂越丁本松遺跡	小鐵冶遺構	B-1 a	9 C後半	羽口・金込石・鋸削		
13	高崎市	吾馬町	鳥羽遺跡	K 1号工房跡	B-1 b	8 C中~後半	羽口		
14	高崎市	吾馬町	鳥羽遺跡	T 3号J.開跡	B-1 b	8 C中	鋸神・羽口・砥石頭・鋸削小丸・金敷用白石・鋸削鉄片	大坪正巳	精錬鍛冶・鋸削前の小丸(砂鉄系)
15	高崎市	吾馬町	鳥羽遺跡	I 4号工房跡	B-1 b	8 C中	台石破片		
16	高崎市	吾馬町	鳥羽遺跡	I 5号工房跡	B-1 b	8 C前半	台石破片		
17	沼田町	沼田町	町田小糸丘遺跡	小路古跡	B-1 b		精錬羽口		
18	前橋市	前橋市	芳賀東部山地遺跡I	4号製鉄址	B-1 b		鉄石・鋸削鉄片・チップ・ス・羽口・鋸削鋸・鋸削	杜基・高尾秀治	鍛造炉・鑄治神の羽口
19	前橋市	前橋市	芳賀東部山地遺跡II	T 3号製鉄址	B-1 b	奈良後期	鋸削・鋸削・チップ・ス・羽口・鋸削鋸		
20	前橋市	前橋市	芳賀東部山地遺跡II	T 3号製鉄址	B-1 b		羽口・鋸削・鋸型鋸		
21	前橋市	前橋市	根室遺跡	小鐵冶遺跡	B-1 b	9 C中頃か 第2四半期	スラグ・羽口・スケル・ル・鋸削・鉄鋸		
22	高崎市	古井町	黒塚山古跡	8号テラス	B-1 b		敲き石状の石・鋸削・鋸削		
23	安中市	北橘町	羽畠遺跡	小鐵冶遺構	B-2 b		羽口破片・鉄製品破片(鉄・刀子・不明品)		
24	伊勢崎市	伊勢崎市	下飯本町田遺跡	I区5号住居跡	C-1	9 C後半	羽口・鋸神・鋸型鋸・チップ	赤坂英男	精錬炉・鋸削鋸
25	みどり市	大間々町	斎戸ノ山遺跡(B区)	H-1号住居跡	C-1	9 C後半	鋸羽口・鋸削鋸・台石		
26	みどり市	笠置町	笠置村久保高野跡	25号住居跡	C-1		鉄製品・鋸削・鋸削口		
27	桐生市	桐生市	新水西遺跡	I号住居跡	C-1	8 C中頃	鋸削		
28	高崎市	吾馬町	冷水村東遺跡・西田分	B区1号住居跡	C-1	9 C第1四半期	羽口・金敷・鋸削鋸・鋸削		
29	高崎市	吾馬町	上野田分離寺・尼寺中	B区第78号住居跡	C-1	9 C前半	羽口・鋸削・台石・鋸削鋸		
30	高崎市	長岡川町	山田遺跡	11号住居跡	C-1	平安	台石・羽口・鋸削鋸・スケール		
31	高崎市	高崎市	山田遺跡	B区第78号住居跡	C-1	10C末~11C	鋸羽口・手鋸品	高尾秀治	製鍊炉・鍛冶炉の製作
32	桐生市	新里町	牛平遺跡	6号住居(小鐵冶)	C-1	9 C後半	羽口・鋸削		
33	木古内町	新田	中川山八ツ尾遺跡	2区2号住居跡	C-1	10 C後半	羽口・鋸削		
34	沼田町	沼田町	赤坂遺跡	6号住居跡	C-1	平安	鋸羽口		
35	前橋市	前橋市	芳賀北部山地遺跡I	H107号住居跡	C-1		鋸羽口		
36	前橋市	前橋市	芳賀北部山地遺跡II	H107号住居跡	C-1	9 C後半	鉄鋸・羽口・鋸削		

番号	市町村	合併前	遺跡名	遺構名	分類	時期	既述闡述出土遺物	化学分析	
								分析番	分析結果
37	南 橋	前 橋	唐木遺跡	1号住居跡	C - 1	奈良	鉄滓		
38	南 橋	前 橋	二之宮官東遺跡	豊穴住居跡J112遺構	C - 1	9C後半	羽口・鉄滓・鐵斧・不明 鉄鋤頭	井上謙	鉄の粗鉛的
39	吉 岡	吉 岡	切削迷跡	61号住居跡	C - 1	10C後半	台付・羽口・ナップ・小 スラグ		
40	高 峰	吉 井	黒船原跡遺跡	20号住居跡	C - 2	9C前半～ 中	羽口・鐵滓・鐵石・ 白石・鐵釘		
41	高 峰	群 鳥	上野園分墳地・尼寺中 野古坂	E区第49号住居跡	C - 2	10C後半	羽口・スラグ		
42	太 田	太 田	東田武跡	第1号住居跡	C - 3		羽口・鐵斧		
43	高 峰	高 峰	山名郡沢跡	28号住居跡	C - 3		鐵鋤・鉄等・鐵製品		
44	高 峰	高 峰	田端遺跡	F区第4号住居跡	C - 3	11C前半	鐵滓・斐ゴ羽口	高塚秀治	製陶岸・鐵治岸
45	沼 田	沼 田	赤坂遺跡	1号住居跡	C - 3	平安			
46	沼 田	沼 田	赤坂溝跡	1号住居跡	C - 3	平安	羽口・鐵製品(幻)		
47	沼 田	沼 田	石巻遺跡	31号住居跡	C - 3	8C後半	鐵石・羽口・鐵製品	赤沼英男	複雜岸
48	高 峰	吉 井	矢田遺跡III	63号住居	D - 1	11C以降	鐵片・鐵滓		
49	太 田	尾 島	三ツ木畠道跡	60号住居上屋遺構	D - 1	10C前半以 降	鐵製片・鐵滓・羽口・ 鐵壓件・鐵块件		
50	波 川	北 橋	分離八幡遺跡	1号櫛籠か	D - 1		鐵鋤・斐ゴ		
51	波 川	北 橋	分離八幡遺跡	2号櫛籠か	D - 1		鐵鋤		
52	波 川	波 川	有馬条里遺跡II	2号櫛籠遺構	D - 1		羽口		
53	沼 田	沼 田	石串遺跡	2号櫛治跡	D - 1	8C後半	鐵製片・小型鐵狀件・ 小火口・羽口・鐵壓件・ 鐵鋤頭	赤沼英男	船形岸・鐵治岸の混在
54	藤 国	藤 国	稻荷川敷遺跡	DKD D - 1 ～ 5号櫛治 遺構	D - 1		羽口・鉄等・鐵鋤・鐵羽 口	大澤正己	5号 櫛治前鐵旗・鐵 旗序・鐵鋤跡
55	藤 国	藤 国	稻荷川敷遺跡	DKD E 6号櫛治遺構	D - 1	10C後半～ 11C	台石・鐵製片・鐵狀件・ 鐵鋤頭	大澤正己	鐵旗序
56	前 城	前 城	芳賀北郡田邊遺跡I	F - 3号櫛治跡	D - 1		羽口・鐵等		
57	高 峰	古 井	高鍋中西遺跡	1号炉・1号土坑	D - 1		鐵滓・斐ゴ羽口		
58	古 井	古 井	大久保A遺跡	第2号櫛治跡	D - 1	10C	鐵羽口・鐵滓・ナップ		
59	前 城	大 胡	浅見遺跡	鐵治開源遺跡(鐵治 跡・10号土坑・11号土 坑・12号土坑)	D - 1	9C後半	羽口・鐵旗		
60	昭 和	昭 和	川原草原I遺跡	1号櫛治跡	D - 2	古代	鐵旗		
61	伊勢崎	伊勢崎	下綾小堀町田遺跡	I区 1号櫛治遺構	D - 3	10C前半	羽口片・鐵旗・鐵旗頭	赤沼英男	溶鉄の脱皮による鋼精 純度
62	伊勢崎	伊勢崎	下綾本店町田遺跡	I区 2号櫛治遺構	D - 3	10C前半	鐵旗		
63	伊勢崎	伊勢崎	下綾本店町田遺跡	I区 3号櫛治遺構	D - 3	10C前半	羽口・鐵滓・ナップ		
64	伊勢崎	伊勢崎	下綾本店町田遺跡	3区 1号櫛治遺構	D - 3	9C前半	鐵旗・ナップ・鐵土		
65	伊勢崎	伊勢崎	上棚木丸施薦跡	1号小櫛治跡	D - 3		羽口・鐵石		
66	伊勢崎	伊勢崎	上棚木丸施薦跡	2号小櫛治跡	D - 3		羽口・鐵石		
67	太 田	堺 島	三ツ木畠道跡	1号炉	D - 3	10C前半～ 11C前半	鐵旗・羽口・針状鐵製品・ 鐵鋤頭・鐵旗頭		
68	太 田	堺 島	三ツ木畠道跡	2号炉	D - 3		鐵製片・鐵旗・羽口		
69	高 峰	群 馬	鳥羽遺跡	I 3号土坑	D - 3		鐵旗		
70	高 峰	群 馬	鳥羽遺跡	I 4号土坑	D - 3		鐵旗		
71	藤 篠	藤 篠	植荷原敷遺跡	EKD - 1号櫛治遺構	D - 3		鐵旗・羽口・砂鉄・砂熱・鐵造 鋤片		
72	前 城	前 城	万賀北部田地遺跡I	F - 3土坑	D - 3		鐵旗		
73	前 城	前 城	万賀北部田地遺跡I	F - 2號櫛治跡	D - 3		鐵旗・斐ゴ口		
74	前 城	前 城	神明庄遺跡	D - 6号土坑	D - 3		鐵羽口・鐵旗		
75	高 峰	吉 井	矢田遺跡II	01号櫛治	D - 3	古代?	鐵片・鐵旗		

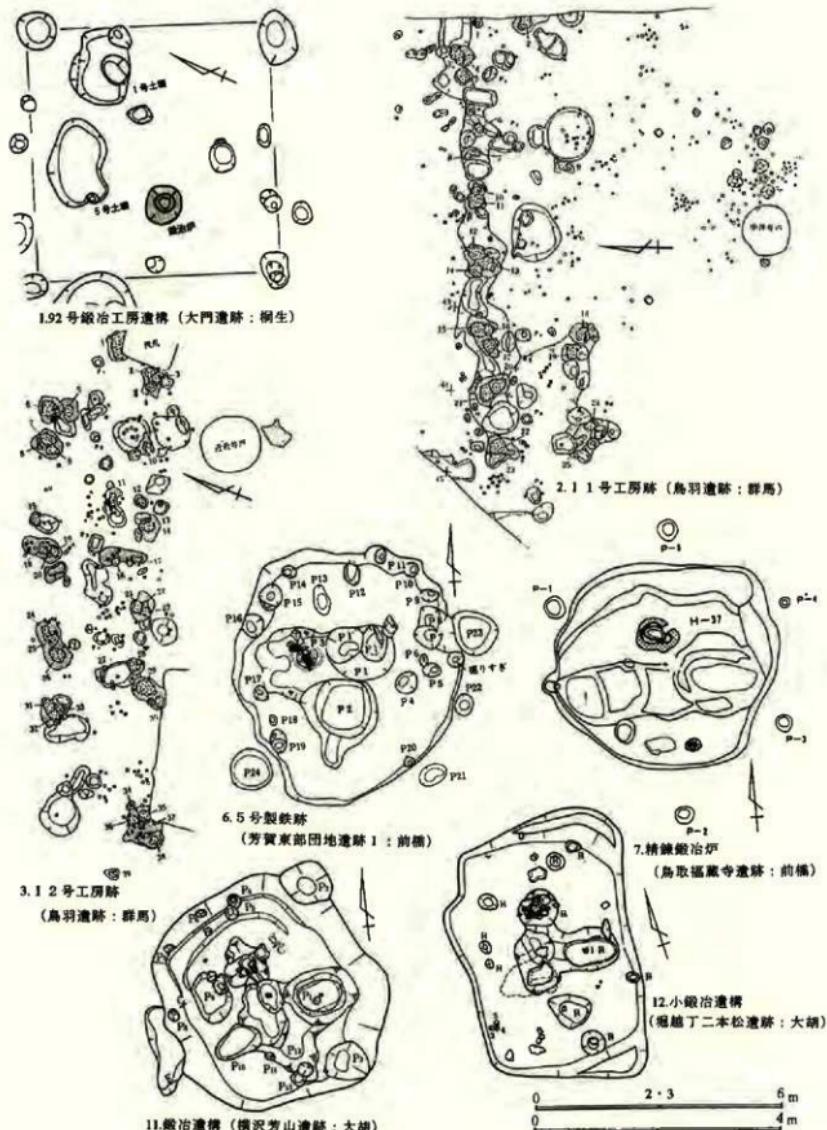
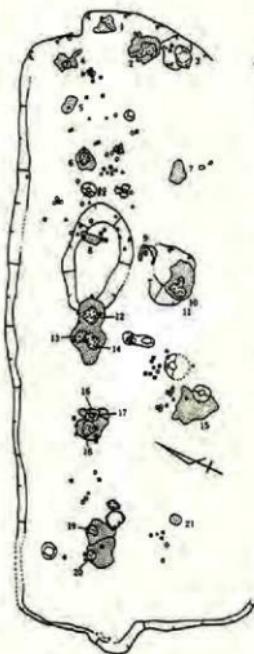
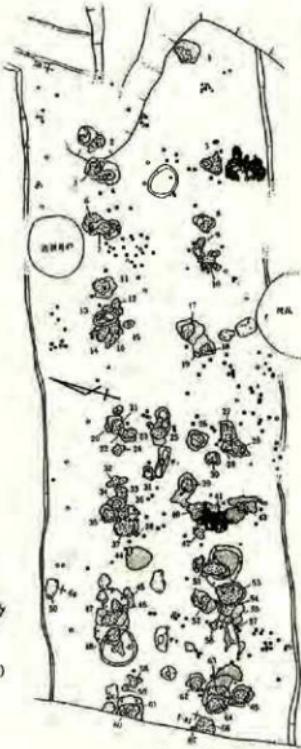


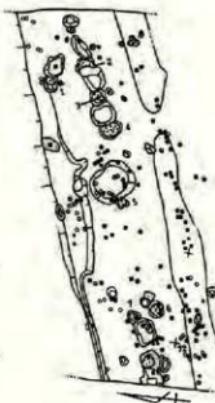
Fig.76 群馬県内鍛冶遺構集成 (1)



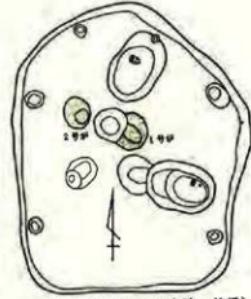
15. I 4号工房跡（鳥羽遺跡：群馬）



14. I 3号工房跡（鳥羽遺跡：群馬）



13. I 1号工房跡（鳥羽遺跡：群馬）



21. 小鋳冶跡（堤東遺跡：栃木）



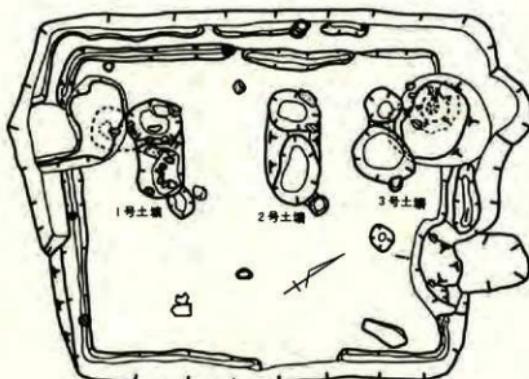
18. I 4号鋳鐵址（芳賀東部團地遺跡 I：栃木）



23. 小鋳冶跡（羽場遺跡：北埼）

0 13・14・15 6m
0 4m

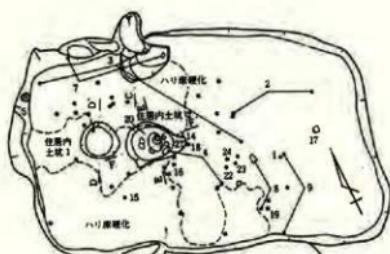
Fig.77 群馬県内鋳冶遺構集成 (2)



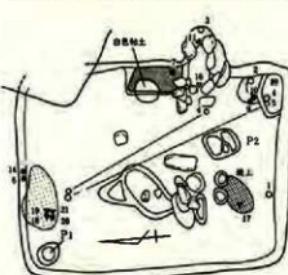
27.1号住居跡（清水西遺跡：横生）



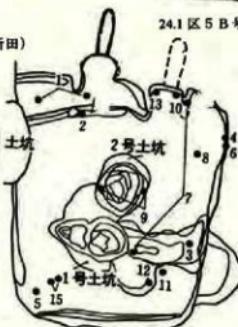
33.2区 27号住居跡（中江田八ツ掘遺跡：新田）



24.1区 5B号住居跡（下被木町田遺跡：伊勢崎）



36.H87号住居跡（芳賀東部団地遺跡II：前橋）



31.B区 7号住居跡
(田畠遺跡：高崎)

0 4m

38.整穴住居跡J112遺構
(二之宮宮東遺跡：前橋)

Fig.78 群馬県内縦沿遺構集成 (3)

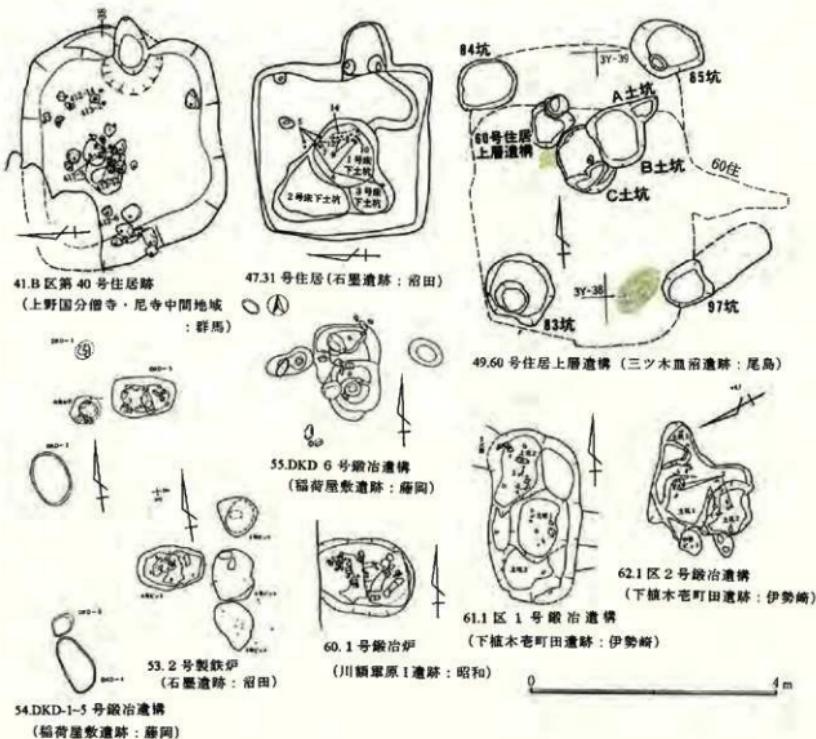
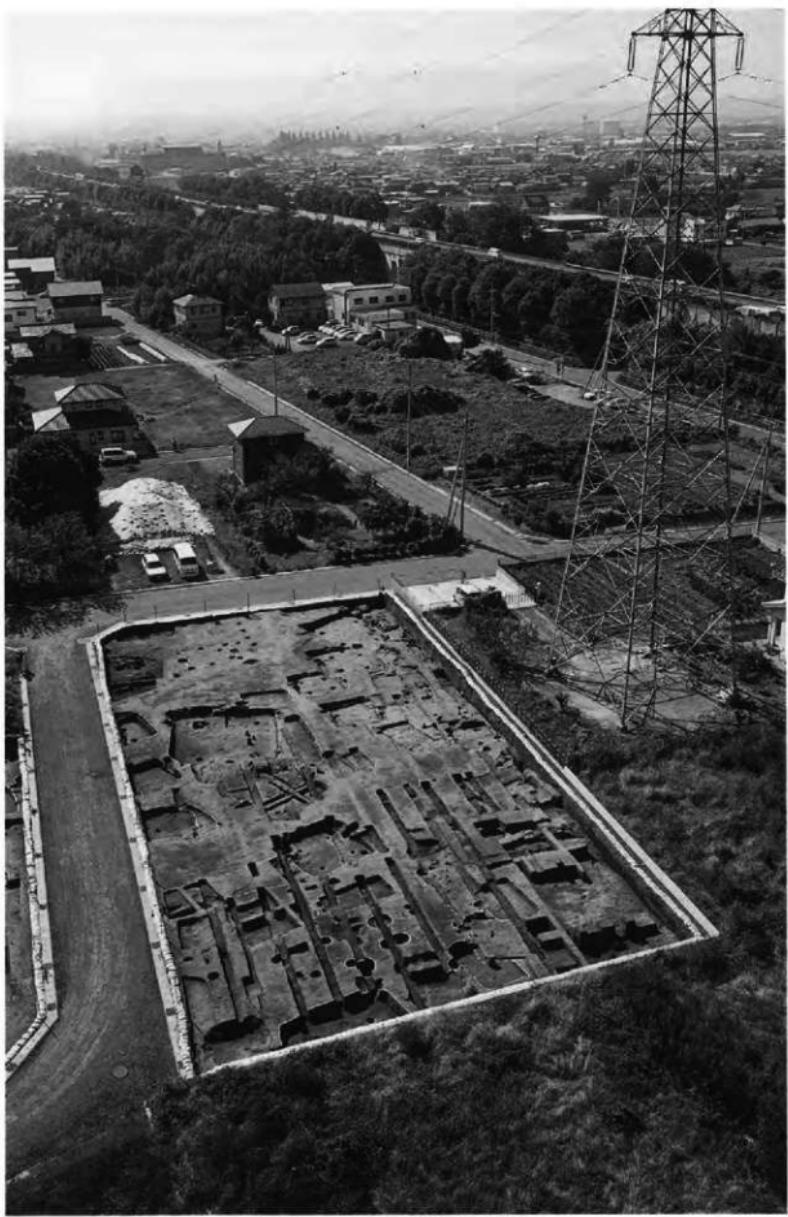


Fig.79 群馬県内鍛冶遺構集成 (4)

図 版



元總社蒼海道跡群(40)調査区全景（北から）



元總社蒼海遺跡群(40)調査区全景（真上から）



元總社蒼海遺跡群(40)調査区全景（東から）



元總社蒼海遺跡群(40)調査区全景（南東から）



元總社蒼海遺跡群(40) J-1 全景 (南から)



元總社蒼海遺跡群(40) J-1 遺物出土状態



元總社蒼海遺跡群(40) J-1 埋甕



元總社蒼海遺跡群(40) J-1 遺物出土状態



元總社蒼海遺跡群(40) J-1 遺物出土状態



元總社蒼海遺跡群(40) J - 2 全景（北から）



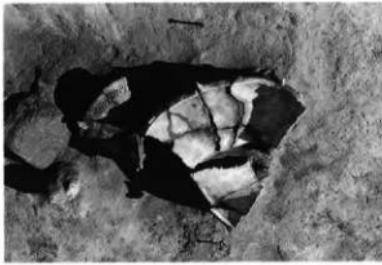
元總社蒼海遺跡群(40) J - 2 遺物出土状態



元總社蒼海遺跡群(40) J - 3 埋甕



元總社蒼海遺跡群(40) J - 3 遺物出土状態



元總社蒼海遺跡群(40) J - 3 遺物出土状態



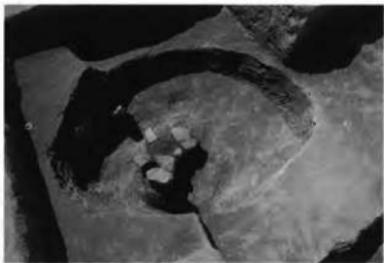
元總社蒼海遺跡群(40) J - 3 全景 (北から)



元總社蒼海遺跡群(40) J - 3a 全景



元總社蒼海遺跡群(40) J - 3b 全景



元總社蒼海遺跡群(40) JD - 1 全景



元總社蒼海遺跡群(40) JD - 2 全景



元總社蒼海遺跡群(40) U-1 全景



元總社蒼海遺跡群(40) U-2 全景



元總社蒼海遺跡群(40)石器出土状態



元總社蒼海遺跡群(40) H-1 全景 (北から)



元總社蒼海遺跡群(40) 調査区南西部全景 (真上から)



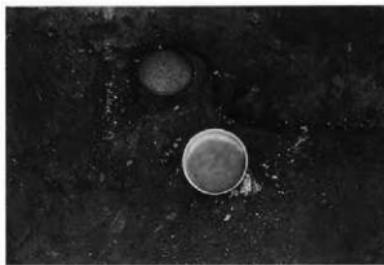
元總社蒼海遺跡群(40)H-1 遺物出土状態 (東から)



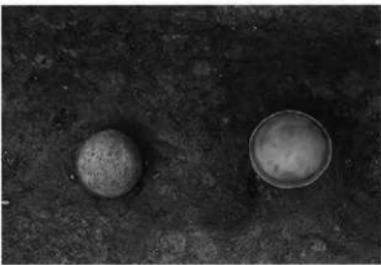
元總社蒼海遺跡群(40)H-4 置全景



元總社蒼海遺跡群(40)H-4 全景 (南東から)



元總社蒼海遺跡群(40)H-4 遺物出土状態



元總社蒼海遺跡群(40)H-4 遺物出土状態



元總社舊海遺跡群(40)H-4 全景（真上から）



元總社舊海遺跡群(40)H-6 立全景



元總社舊海遺跡群(40)H-6 土層堆積狀況



元總社舊海遺跡群(40)H-6 全景



元龜社蒼海遺跡群(40) H-7 全景 (西から)



元龜社蒼海遺跡群(40) H-7 墓全景



元龜社蒼海遺跡群(40) H-7 墓全景



元龜社蒼海遺跡群(40) H-7 遺物出土状態



元龜社蒼海遺跡群(40) H-7 遺物出土状態



元龜社蒼海遺跡群(40) H-8 全景 (西から)



元龜社蒼海遺跡群(40) H-8 鹵全景



元龜社蒼海遺跡群(40) H-8 遺物出土状態



元龜社蒼海遺跡群(40) H-9 全景



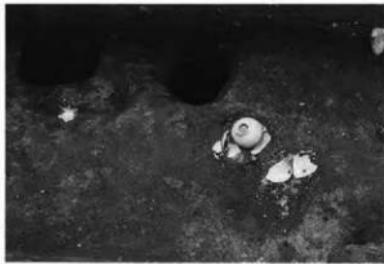
元龜社蒼海遺跡群(40) H-9 鹵全景



元總社蒼海遺跡群(40)H-10全景（北から）



元總社蒼海遺跡群(40)H-10遺物出土状態



元總社蒼海遺跡群(40)H-11遺物出土状態



元總社蒼海遺跡群(40)H-11全景（北から）



元總社蒼海遺跡群(40) H-13全景 (西から)



元總社蒼海遺跡群(40) H-13全景 (南から)



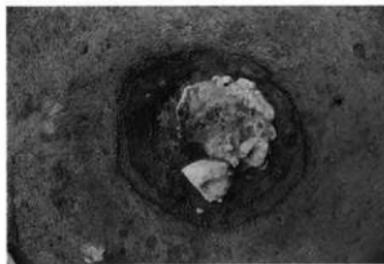
元龜社蒼海遺跡群(40)鍛冶遺構全景（南から）



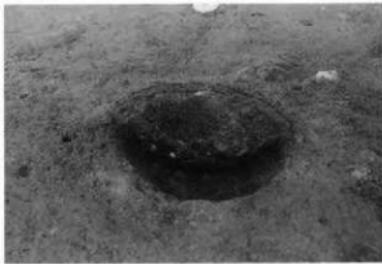
元龜社蒼海遺跡群(40)H-13窯全景



元龜社蒼海遺跡群(40)鍛冶遺構棒状鉄製品出土状態



元龜社蒼海遺跡群(40)鍛冶遺構・炉心全景



元龜社蒼海遺跡群(40)鍛冶遺構・炉心土層堆積状況



元總社蒼海遺跡群(40) H-14全景



元總社蒼海遺跡群(40) H-16全景



元總社蒼海遺跡群(40) H-16竈全景



元總社蒼海遺跡群(40) H-17全景



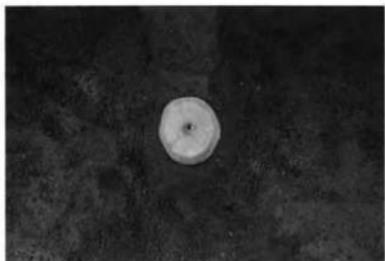
元總社蒼海遺跡群(40) H-18全景



元總社蒼海遺跡群(40) H-18竈全景



元總社蒼海遺跡群(40) H-19全景



元總社蒼海遺跡群(40) H-19防護車出土狀態



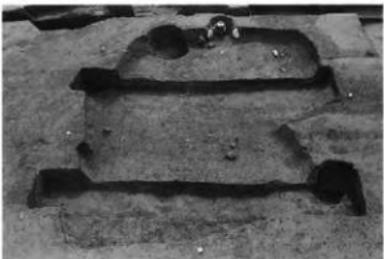
元總社蒼海遺跡群(40) H-20全景



元總社蒼海遺跡群(40) H-20丸鍋出土状態



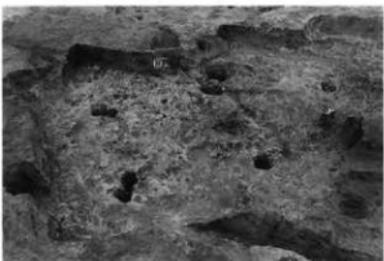
元總社蒼海遺跡群(40) H-20鐵鎌出土状態



元總社蒼海遺跡群(40) H-22・23全景



元總社蒼海遺跡群(40) H-23竈全景



元總社蒼海遺跡群(40) H-24全景



元總社蒼海遺跡群(40) H-24竈全景



元總社蒼海遺跡群(40) H-25・36全景



元總社蒼海遺跡群(40)H-12・26全景（西から）



元總社蒼海遺跡群(40)H-26竪全景



元總社蒼海遺跡群(40)H-27全景（西から）



元總社蒼海遺跡群(40)H-27全景（東から）



元總社蒼海遺跡群(40)H-27東竪全景



元總社蒼海遺跡群(40) H-29全景(南から)



元總社蒼海遺跡群(40) H-31全景



元總社蒼海遺跡群(40) H-33全景



元總社蒼海遺跡群(40) H-34全景



元總社蒼海遺跡群(40) H-37全景



元總社蒼海遺跡群(40) H-38全景



元總社蒼海遺跡群(40) D-1 全景



元總社蒼海遺跡群(40) D-2 全景



元總社蒼海遺跡群(40) B-1 全景



元總社蒼海遺跡群(46) H-1 全景



元總社蒼海遺跡群(46) H-1 全景



元總社蒼海遺跡群(46) I-1 全景



元總社蒼海遺跡群(46) I-1 土層堆積狀況



元總社蒼海遺跡群(49)調査区全景（南から）



元總社蒼海遺跡群(49)H-1全景（西から）



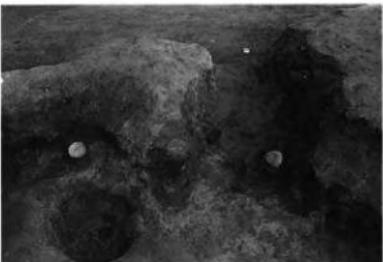
元總社蒼海遺跡群(49) D - 2 全景



元總社蒼海遺跡群(49) D - 2 遺物出土状態 (南から)



元總社蒼海遺跡群(49) D - 2 遺物出土状態 (西から)



元總社蒼海遺跡群(40) H - 2 罐全景



元總社蒼海遺跡群(49) H - 2 · 3 全景 (西から)



元總社蒼海遺跡群(49) I - 1 全景



元總社蒼海遺跡群(49) I - 2 全景



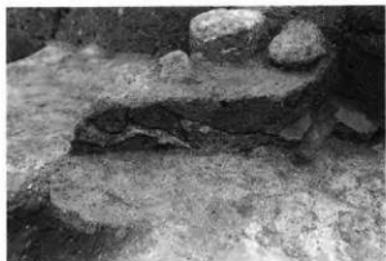
元總社蒼海遺跡群(49) H - 5 全景（西から）



元總社蒼海遺跡群(49) H - 5 置き石全貌



元總社蒼海遺跡群(49) H - 5 置土層堆積状況



元總社蒼海遺跡群(49) H-4 竜土層堆積狀況



元總社蒼海遺跡群(49) H-6 竜土層堆積狀況



元總社蒼海遺跡群(50) 調査区全景 (西から)



元總社蒼海遺跡群(50) 調査区全景 (東から)



元總社蒼海遺跡群(50) J-1 全景



元總社蒼海遺跡群(49) J-1 土層堆積狀況



元總社舊海遺跡群(50) H-5・6 全景 (西から)



元總社舊海遺跡群(50) H-5 窟全景



元總社舊海遺跡群(50) H-5 窟土層堆積狀況



元總社舊海遺跡群(50) H-12・D-1・2 全景



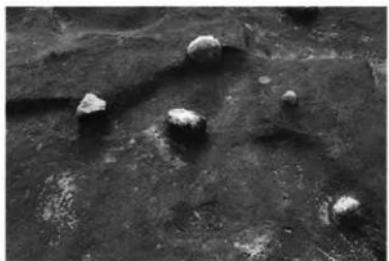
元總社舊海遺跡群(50) D-3 全景



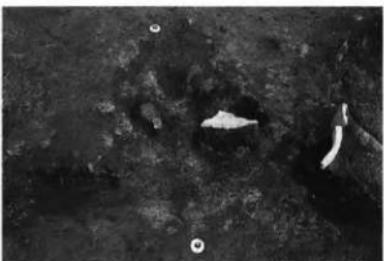
元總社蒼海遺跡群(50) H-7 全景 (西から)



元總社蒼海遺跡群(50) H-9 全景 (西から)



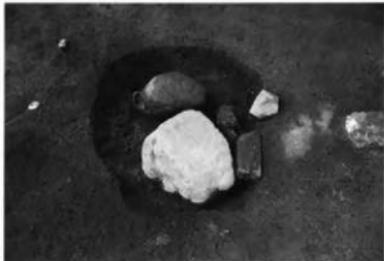
元總社蒼海遺跡群(50)H-9竈全景



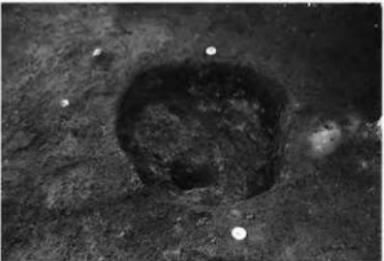
元總社蒼海遺跡群(50)H-10竈全景



元總社蒼海遺跡群(50)H-11全景（西から）



元總社蒼海遺跡群(50)D-5遺物出土状態



元總社蒼海遺跡群(50)D-5全景



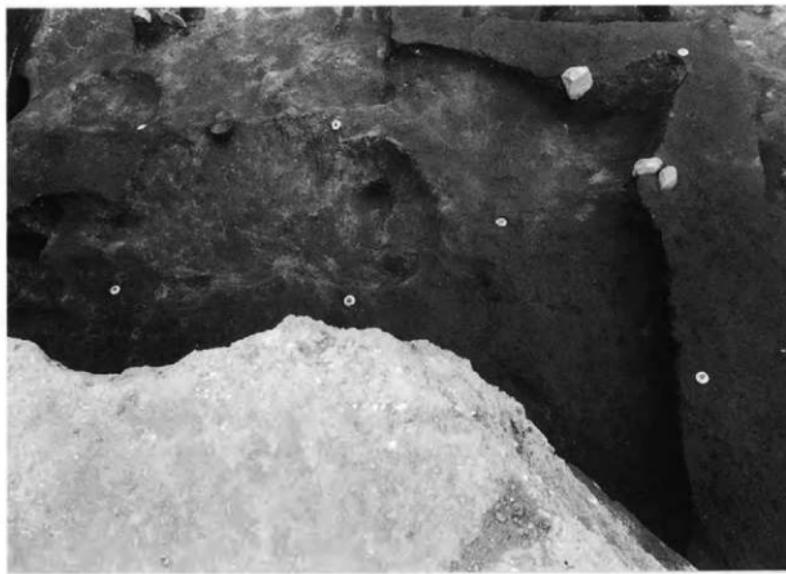
元總社蒼海遺跡群(50) H-13遺全景



元總社蒼海遺跡群(50) H-13遺全景



元總社蒼海遺跡群(50) H-17遺全景



元總社蒼海遺跡群(50) H-17遺全景 (西から)



元總社蒼海遺跡群(50) H-14・15全景（西から）



元總社蒼海遺跡群(50) T-1全景（北東から）



4 (J-1)



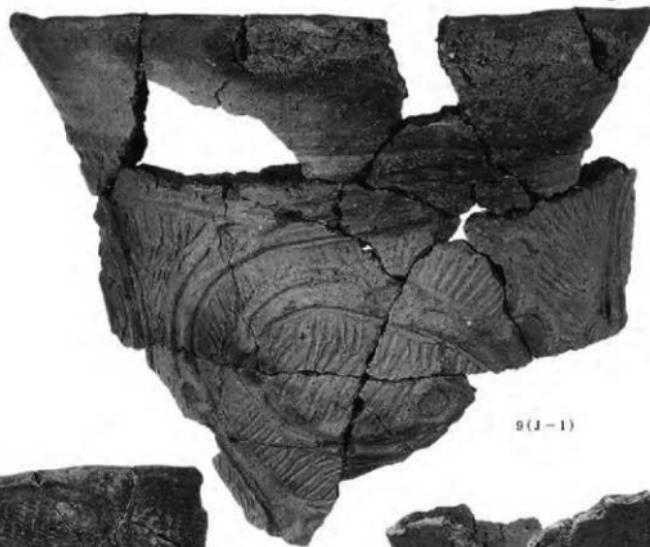
5 (J-1)



6 (J-1)



7 (J-1)



9 (J-1)



25 (J-1)



39 (J-1)



51(J-2)



53(J-3)



54(J-3)



55(J-3)



56(J-3)



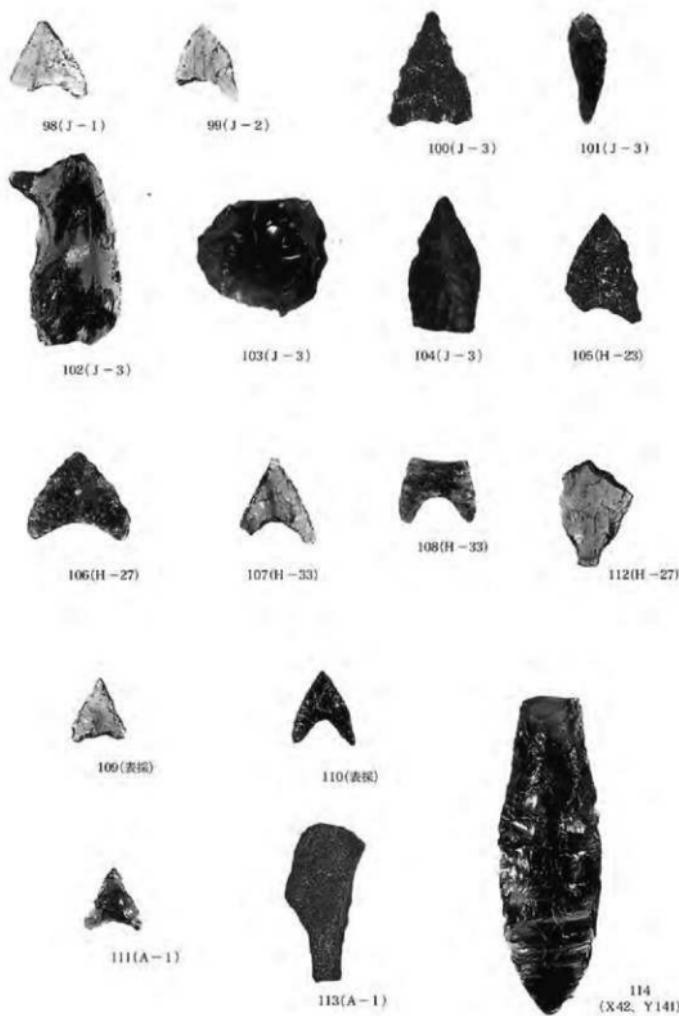
83(埋甕1)



84(埋甕2)



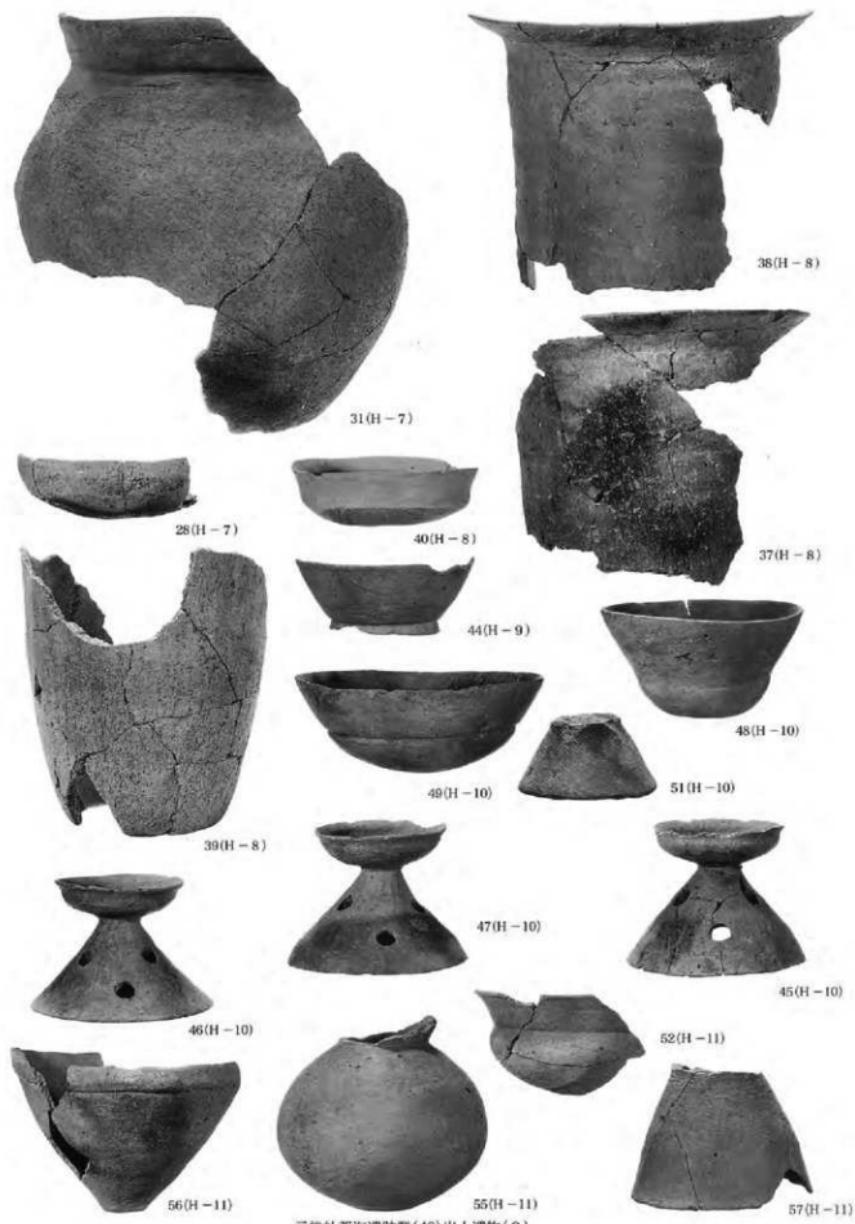
元慈社蒼海遺跡群(40)縄文時代出土遺物・石器(1)

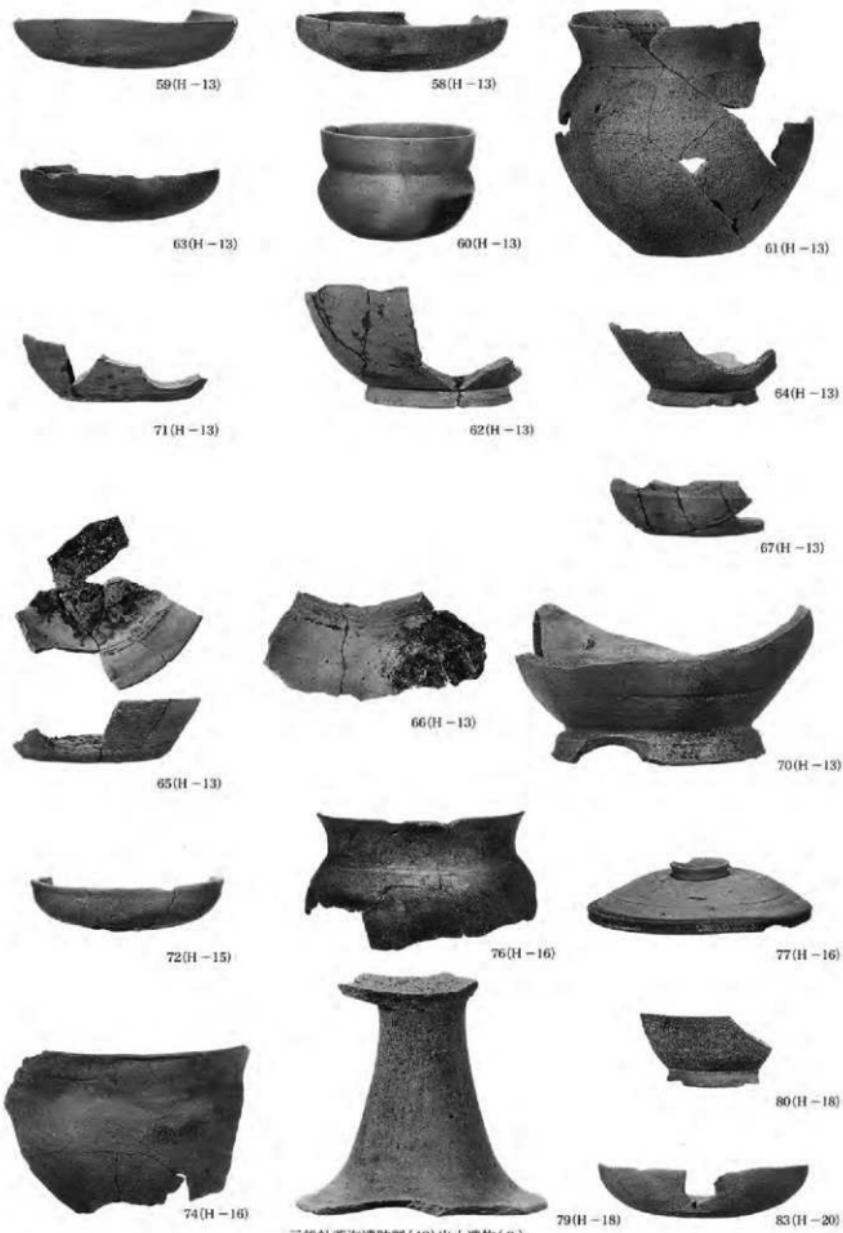


元紹社蒼海遺跡群(40)縄文時代出土遺物・石器(2)



元總社蒼海遺跡群(40)出土遺物(1)





元總社蒼海遺跡群(40)出土遺物(3)



元總社蒼海遺跡群(40)出土遺物(4)

元龜社蒼海遺跡群(40)



98(H-29)



101(H-29)



106(H-29)



104(H-29)



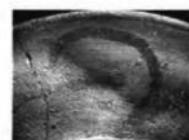
107(H-33)



109(H-36)



112(H-37)



114(D-2)

元龜社蒼海遺跡群(46)



1 (H-1)



57(H-16)



1 (H-6)



5 (H-6)



2 (H-6)



3 (H-6)



4 (H-6)



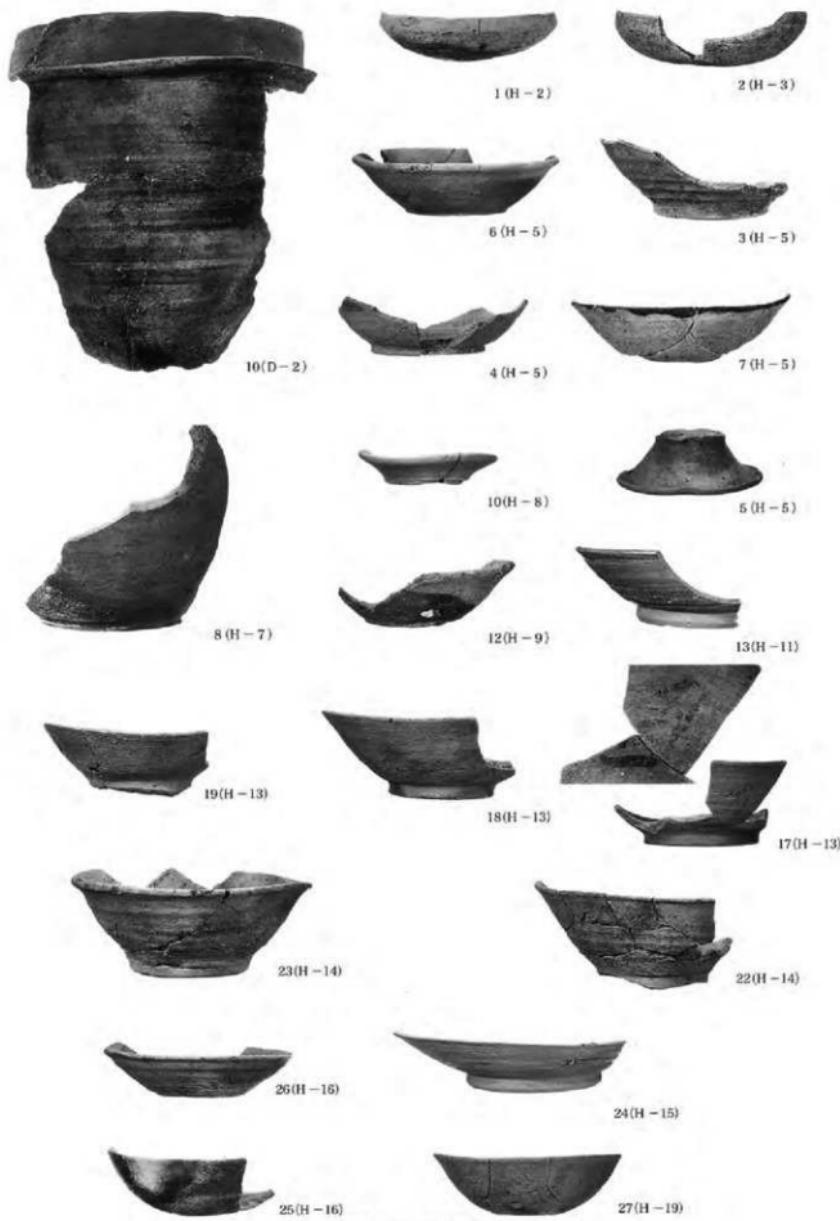
6 (H-6)



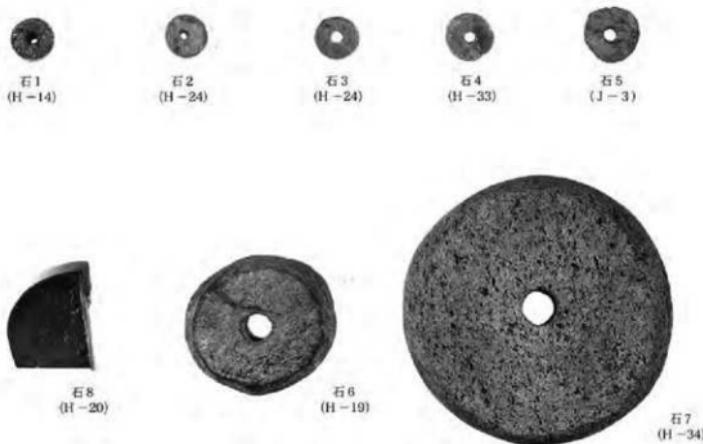
8 (H-10)

12(D-2)

元龜社蒼海遺跡群(40)出土遺物(5)・元龜社蒼海遺跡群(46)出土遺物・元龜社蒼海遺跡群(49)出土遺物



元飽社蒼海遺跡群(50)出土遺物



元絶社蒼海遺跡群(40)出土石製品



元絶社蒼海遺跡群(40)・元絶社蒼海遺跡群(50)出土鐵製品



瓦4表
(H-21)



瓦1表
(A-1)



瓦3表
(H-21)



瓦2表
(H-32)

元總社蒼海遺跡群(49)
13(H-8)表

元總社蒼海遺跡群(40)・元總社蒼海遺跡群(49)出土瓦(1)



瓦4裏
(H-21)



刻字



瓦1裏
(A-1)



瓦3裏
(H-21)



瓦2裏
(H-32)



元絶社蒼海遺跡群(49)
13(H-8)裏



瓦14表
(H-1)



瓦18表
(H-1)



瓦19表
(H-1)



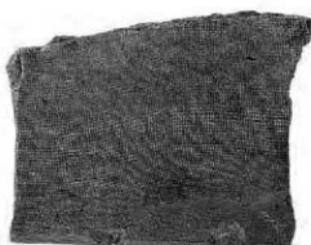
瓦5表
(H-1)



瓦4表
(H-1)



瓦22表
(H-1)



瓦7表
(H-1)

元祐社普海遺跡群(46)出土瓦(1)



瓦14裏
(H-1)



瓦18裏
(H-1)



瓦19裏
(H-1)



瓦5裏
(H-1)



瓦4裏
(H-1)



瓦22裏
(H-1)



瓦7裏
(H-1)

元總社蒼海遺跡群(46)出土瓦(2)

抄 錄

フリガナ	モトソウジャオウミイセキグン (40) モトソウジャオウミイセキグン (46) モトソウジャオウミイセキグン (49) モトソウジャオウミイセキグン (50)
書名	元総社蒼海遺跡群 (40) 元総社蒼海遺跡群 (46) 元総社蒼海遺跡群 (49) 元総社蒼海遺跡群 (50)
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
卷次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	藤坂和延・細野泰宏
編集機関	前橋市教育委員会
編集機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三俣町二丁目10-2
発行年月日	平成23年3月30日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東經			
元総社蒼海遺跡群 (40)	前橋市元総社町1509 他	10201	23A130-40	36°23'19"	139°01'48"	20120510	1,280m ²	前橋都市計画事業元総社蒼海地区画整理事業
元総社蒼海遺跡群 (46)	前橋市元総社町1702 1 他		23A130-46	36°23'24"	139°01'50"		30m ²	
元総社蒼海遺跡群 (49)	前橋市元総社町1393 3 他		23A130-49	36°23'09"	139°02'04"	20113221	160m ²	
元総社蒼海遺跡群 (50)	前橋市元総社町1445-11 他		23A130-50	36°23'13"	139°01'51"		290m ²	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群 (40)	集落跡	绳文時代	竪穴住居跡4軒、土坑2基、埋甕2基	縄文土器、石器	
		古墳～奈良・平安時代	竪穴住居跡39軒、鍛冶遺構1基、土坑2基	土師器、須恵器、鉄製品、石製品、瓦	
元総社蒼海遺跡群 (46)	集落跡	中世以降	井戸1基	十輪器、須恵器、瓦	
元総社蒼海遺跡群 (49)	集落跡	平安時代	竪穴住居跡1軒	土師器、須恵器、鉄製品、石製品、瓦	
元総社蒼海遺跡群 (50)	集落跡	中世以降	井戸1基	土師器、須恵器、鉄製品、石製品、瓦	
		半平安時代	竪穴住居跡6軒	土師器、須恵器、鉄製品、石製品、瓦	
		中世以降	井戸2基、土坑3基	土師器、須恵器、瓦	
		绳文時代	竪穴住居跡1軒	土師器、須恵器、鉄製品、石製品、瓦	
		古墳～奈良・平安時代	竪穴住居跡18軒、土坑7基		
			竪穴状遺構1基		

**元総社蒼海遺跡群 (40)
元総社蒼海遺跡群 (46)
元総社蒼海遺跡群 (49)
元総社蒼海遺跡群 (50)**

2013年3月28日 印刷
2013年3月30日 発行

発行・編集 前橋市教育委員会
前橋市三保町二丁目10-2
印 刷 朝日印刷工業株式会社
